

No.	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区支援地域本部	東中学校 城東小学校 佐和山小学校 旭森小学校	6	17	7
		西中学校区支援地域本部	西中学校 城西小学校 城北小学校			
		中央中学校区支援地域本部 (中央中学校区支援地域協議会)	中央中学校 平田小学校 金城小学校 平田幼稚園 金城幼稚園			
		南中学校区支援地域本部 (彦根南サポートオフィス)	南中学校 城南小学校 城陽小学校 若葉小学校 亀山小学校			
		彦根中学校区支援地域本部 (彦根中学校区支援地域協議会)	彦根中学校 高宮小学校 河瀬小学校			
		鳥居本中学校区支援地域本部 (鳥居本中学校区支援地域協議会)	鳥居本中学校 鳥居本小学校			
		稲枝中学校区支援地域本部 (稲枝中学校区学校支援地域協議会)	稲枝中学校 稲枝東小学校 稲枝西小学校 稲枝北小学校 稲枝東幼稚園 みづほ保育園 ふたば保育園 ことぶき保育園			
2	近江八幡市	八幡小学校支援地域本部	八幡小学校	8	12	3
		島小学校支援地域本部	島小学校			
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校			
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校			
		金田小学校支援地域本部	金田小学校			
		桐原小学校支援地域本部	桐原小学校			
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校			
		北里小学校支援地域本部	北里小学校			
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校			
		安土小学校支援地域本部	安土小学校			
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校			
		八幡中学校支援地域本部	八幡中学校			
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校			
		安土中学校支援地域本部	安土中学校			
		武佐こども園支援地域本部	武佐こども園			
		八幡幼稚園支援地域本部	八幡幼稚園			
		岡山幼稚園支援地域本部	岡山幼稚園			
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園			
		桐原幼稚園支援地域本部	桐原幼稚園			
北里幼稚園支援地域本部	北里幼稚園					
安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園					
老蘇幼稚園支援地域本部	老蘇幼稚園					
3	草津市	志津小学校地域協働合校	志津小学校	0	7	0
		草津小学校地域協働合校	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校			
		渋川小学校地域協働合校	渋川小学校			
		笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校			
		笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働合校	常盤小学校			

No.	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
4	栗東市	栗東中学校支援地域本部 「栗中サポーターズクラブ」	栗東中学校	0	0	1
5	湖南省	石部小学校応援団	石部小学校	0	9	3
		みなみっこ応援団	石部南小学校			
		みくもっ子支援委員会	三雲小学校			
		東っ子応援団	三雲東小学校			
		岩根小学校支援地域本部	岩根小学校			
		菩提寺小学校支援地域本部	菩提寺小学校			
		あすなろ応援団	菩提寺北小学校			
		下田小学校支援地域本部	下田小学校			
		みとっ子応援団	水戸小学校			
		石部中学校支援地域本部	石部中学校			
甲西北中学校支援地域本部	甲西北中学校					
日枝中学校支援地域本部	日枝中学校					
6	東近江市	蒲生地区学校支援地域本部	朝桜中学校 蒲生東小学校 蒲生西小学校 蒲生北小学校	0	15	2
		船岡中学校区学校支援地域本部	船岡中学校 八日市西小学校			
		玉緒小学校支援地域本部	玉緒小学校			
		八日市南小学校支援地域本部	八日市南小学校			
		湖東第一小学校支援地域本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校支援地域本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校支援地域本部	湖東第三小学校			
		箕作小学校支援地域本部	箕作小学校			
		市原小学校支援地域本部	市原小学校			
		五個荘小学校支援地域本部	五個荘小学校			
		愛東北小学校支援地域本部	愛東北小学校			
		能登川東小学校支援地域本部	能登川東小学校			
能登川南小学校支援地域本部	能登川南小学校					
7	米原市	米原市読書活動学校支援地域本部	伊吹小学校	0	9	2
			春照小学校			
			大原小学校			
			山東小学校			
			息長小学校			
			坂田小学校			
		米原小学校				
		柏原学区学校支援地域本部	柏原中学校 柏原小学校			
河南学区学校支援地域本部	河南中学校 河南小学校					
8	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王中学校 竜王小学校 竜王西小学校 竜王幼稚園 竜王西幼稚園	2	2	1
9	多賀町	多賀町学校支援地域本部	多賀中学校 多賀小学校 大滝小学校 多賀幼稚園 大滝幼稚園 多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園	4	2	1

彦根市における学校支援地域本部の取組

持続発展教育(E S D)持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域のみinnで守り育てます。

■めざす姿

○教員が子どもと向き合う時間の確保など、多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進する。さらに、地域住民が自らの経験や知識を活かす場として自己実現や生きがいつくり、地域の人材活用・活性化と地域づくりにつなぐ。

■本年度の活動

- 学校支援地域本部：市内7中学校区地域教育協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）全小中学校24校（17小学校・7中学校）保育園幼稚園6園（3保育園3幼稚園）で実施する。
- 平成27年度の取組重点（継続） 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- 実行委員会の開催（年3回） 構成委員：16名（各中学校長、地域コーディネーター、土曜学習コーディネーター、彦根PTA連絡協議会会長）事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）

8月4日(火)事業説明・実践交流 11月30日(月)研修会・実践交流 3月 実践報告会

○学校訪問 11月 7中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

○特色ある活動内容

- ・小学校での登下校見守り、安全指導 ・小中学校での読み聞かせと図書室環境の整備
- ・夏季休業中の希望する児童生徒への学習補助支援 ・放課後の学習支援
- ・土曜日の学習支援（中央中学校）
- ・課題のある児童生徒や別室(登校)児童生徒に対する授業の補助 ・中学校の部活動支援
- ・地域へ広報紙を発行、学校支援の啓発 ・その他学校のニーズに応じた支援活動

■本年度の成果

- 全小中学校で取り組むことで、地域住民が学校内外で子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかわりができた。
- 地域コーディネーターが中心になり、子どもの様子、学校支援の取組内容が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。
- 地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。
- 土曜学習について、個別指導を中心に、学習支援活動が継続できた。

■今後の課題

- 地域コーディネーターと学校関係者が連携を図り、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発
- 事業を支える支援ボランティアの確保（学習支援に係る学生ボランティア等）人材バンクの整備

■その他

○彦根市では、E S D（持続発展教育）教育、持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「地域とともにある学校」の創造にも力を入れている。今後、コミュニティ・スクールとの一体化を視野に入れた取組・地域で学校を支える仕組みづくりについて、さらに整備・検討していきたい。



【地域の方とサツマイモ掘り】

子どもたちの笑顔のために～できる人が できるときに できることを～ (東中学校)

■ 彦根市
■ 活動名 東中学校区支援地域本部・東中学校
■ 関係する学校 東中学校・城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	48 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

平成20年9月から東中学区が彦根市で初めてその指定を受け、事業を推進している。今年度も2名のコーディネーターにより、積み上げてきた活動をさらに推進している。本校では、「生徒に寄り添う学習支援」や「読み聞かせ・図書館整備活動」に重点をおきながら、「地域と学校の安心安全推進活動」にも力を入れていきたいと考えている。

■ 特徴的な活動内容

○図書活動

朝読書の時間に地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。この活動は今年度で12年目を迎える。毎週木曜日に1学年4クラスずつ実施している。昨年度からリストも作成していただいているため、今まで読んでくださった作品が重複することなく、幅広い作品を選んでいただいている。

また、本の登録作業や図書室の整理などの支援もしていただいている。今年度から給食が始まったため、昼休みの時間帯に余裕がないので、朝の時間帯にも開館している。パソコンを早くに立ち上げていただくなどして、時間が有効に使えるようご協力いただいている。

○放課後学習支援

受験を控えた3年生を対象に、11月～3月、週2回放課後学習支援を行っている。本年度は16名が参加し、希望進路の実現をめざして学習に励んでいる。特に基礎的な学力の向上をめざし、問題集を使って学習を進めている。学習支援として地域の方を募集している。毎年支援いただいている方もおられ、2、3名に1人は付いていただいている、丁寧に指導していただいている。学力の向上はもちろん、共に学習する中で、生徒とのつながりも深まり、地域の中に寄り添ってくださる方がいるという安心感が感じられ、大人や社会への信頼感につながっている。

○ゲストティーチャーによる授業

1年生では、家庭科の「ゆかた体験」の授業で、数名の着付けの先生に来ていただき、着物を着る機会を得られただけでなく、日本の伝統文化のすばらしさを実感する体験となった。また、2年生の職場体験では、職業講座として、元Jリーガーの方や「たねや」の方においでいただき、働くことの意義や生きがいについて講話いただいた。また、マナー講座として、琵琶湖ホテルの方においでいただき、心のこもった挨拶や作法を学ぶことができた。

○部活動の指導補助

部活動では、卓球部、吹奏楽部、書道部、水泳部、飛び込み部、サッカー一部において、活動を支援していただき、放課後や休日の活動時に専門的な指導をしていただいている。



【職業講座「たねや」の方の講話】

■ 実施に当たっての工夫

年度当初に地域コーディネーターの方から、昨年度の活動や今年度の事業計画について説明をしていただいたため、全職員がその活動を共通理解したうえで、本年度がスタートした。10年来続けられている活動もあり、どの活動も定着しており、支援して下さっているメンバーの方も安定している。そのため連携が取りやすく、急な変更にも素早く対応して下さり助かっている。校内に本部の部屋があるため、いつでも地域コーディネーターの方と話ができる環境にあることも、大変ありがたい。

■ 事業の成果

「放課後学習支援」がスタートし、意欲的に問題に取り組む3年生の姿が見られる。共に問題を解くことにより、支援の方と生徒のつながりも深まってきている。日常の様々な活動を通して、中学生と地域の方とのつながりができ、教師とは違う支援のあり方が生かされている場面が見られた。

■ 事業実施上の課題

従来から続けられている活動は、引き続き発展させていく必要があるが、どのように改善していくのが課題である。特に図書室の開館については、本年度から学校給食が始まり、昼休みの開館時間時間をどう確保していくかが課題となっている。日常の生徒の生活は慌ただしく、落ち着いて本に親しむ時間や習慣を確立できるように、どのような形で支援していくべきかを十分に検討し、支援内容も吟味し、改善していく必要がある。

また、ボランティア登録をしてくださる方の多様な技能や知識を、より効果的に生徒とつないでいくために地域コーディネーターの方と学校がどうつながって活動を発展させていくのかも課題である。

■ 伝統を引き継ごう ～マーチングバンド活動の充実に向けて～ (城東小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校区支援地域本部・城東小学校
■ 関係する学校
城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校・東中学校

コーディネーター数	3 人
ボランティア登録数	2 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

○活動のねらい

- ・マーチングバンドの演奏を通して、豊かな情操を養うとともに、5・6年生が交流することを通して学校の伝統を大切にしていこうとする気持ちをはぐくむ。
- ・マーチングバンドの演奏を通して、演奏技能の上達を図りながら、みんなでよい音楽発表を創り出そうという課題をもち、音の出し方や演奏の仕方などを工夫して活動することができる。
- ・日々の練習や学校行事、地域行事への参加などの活動を通して、学校の伝統を誇りにする気持ちをはぐくみ、学校への愛着を深める。

○編成と指導体制

- ・マーチングバンドは、6年生（後期は5年生）児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の6校時に練習を行っている。
- ・教職員が分担して指導（前期9名、後期9名）にあたり、年間30時間程度活動している。
- ・外部から、非常勤講師（社会人活用）1名、ボランティア2名の方に演奏指導に来ていただいている。



【指導ボランティア・中学生による指導】

■ 特徴的な活動内容

- ・各パートの練習（毎週金曜日6校時）
- ・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
- ・市民運動会、城まつりパレードなどの地域行事への参加
- ・東中学校吹奏楽部との連携

■ 実施に当たっての工夫

- ・指導者確保のため、ボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に社会人講師をお願いし、毎年来ていただけるようにした。また、学校支援地域本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集をお願いしたところ、2名の方がトロンボーンや打楽器の指導に来ていただけることになり、指導体制が充実した。
- ・12月上旬から1月下旬にかけて、6年生から5年生への引き継ぎ期間を設定している。指導ボランティアの指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を大切に守っていこうとする心も受け継げるようにしている。
- ・毎年5月下旬頃（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の演奏による音楽鑑賞会を開催し、後半に吹奏楽部員にマーチングバンドの演奏指導をお願いしている。

■ 事業の成果

- ・学校支援地域本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。
- ・指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が著しく向上した。

■ 事業実施上の課題

- ・学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。



【城まつりパレードへの参加】

■ その他

マーチング活動を終えた子どもの感想

指導ボランティアの先生に、バジングや音の出し方、曲の演奏の仕方などたくさんのことを教えていただいたおかげで、本番でも自信をもって演奏することができました。練習が大変で苦しい時もあったけれど、いろいろな思い出をつくることができ、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

運動会や城まつりパレードでは、地域の人に応援していただいたり、たくさんの温かい拍手をいただいたりしてうれしかったです。1年間熱心にご指導いただいた指導ボランティアの先生や城東小学校の先生、家族、地域のみなさんなど、たくさんの方に支えられているマーチング活動。しっかり5年生に引き継いでいきたいです。

■ 地域に開き、地域に応える学校の創造（佐和山小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校区支援地域本部・佐和山小学校
■ 関係する学校
佐和山小学校・城東小学校・旭森小学校・東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	134 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校教育の推進にあたっては、多くのボランティアの方の協力を得ている。そのほとんどが地域の方である。主な内容としては、地域学習の安全見守り・夏季休業中の算数学力補充教室・読み聞かせと図書館整備・サツマイモの苗植え指導・ふれあいルームの日（お年寄りと遊ぶ日）、登下校の安全見守り指導等がある。こういった地域の方の温かい支えに応えるべく、本校では、本校教育の公開とともに地域の方との呼応のある教育活動の展開を推進している。

■ 特徴的な活動内容

<本校教育の公開>

本校でも、10月の学習参観日に、全校一斉の「道徳の授業公開」を実施している。本年度は、参観日に「心のノート」を子どもたちに持ち帰らせ、授業内容と関わる内容のページを家庭でも読んでいただくことを促した。従来より、長期休業中には家庭に持ち帰り、家庭での活用を依頼しているところであるが、この日は、本校の心の教育の推進について理解いただくとともに、実際に授業を参観して具体的に子どもたちの心の育ちを考えていただく契機になったものとする。

また、11月には、2日間のオープンスクールを実施した。休み時間や給食・清掃時間を含む時間帯の公開で、学校内の生の姿を参観いただいた。アンケートをとり、改善を図ることで「地域に応える学校づくり」に取り組んでいる。

<地域の方との呼応のある教育活動>

2年生では、生活科学習の1つとしてサツマイモの栽培を実施している。サツマイモの苗植えの時にボランティアとして植え方をご指導いただいた地域の方を、収穫後のサツマイモパーティに招待した。他にも挨拶や礼状等、地域の方との関わりを大切にしている。

3年生では、社会科学習で地域の量販店見学时に、保護者に安全ボランティアを依頼した。往復路だけでなく、店内での引率もお願いした。当初は一般客の多さも予想されたため、店に迷惑をかけないようにと考えてのことであったが、ボランティアの方に買い物をする様子を子どもたちのニーズに応じて話していただくことで、学習のねらいである商品の並べ方等の店内の工夫について考える手がかりになった。子どもたちは現地で見物を目にし、生の言葉で学習を深められた。店の工夫とそれらの受け止め方の双方を現地で学べたことは、子どもたちの学びにとって大きい。また、店内で子どもたちとボランティアの方との双方向の関わりが深くなったことは、今後の家庭・地域教育の高まりと、学校・家庭・地域の連携強化につながるものとする。



【全校公開の道徳の授業の様子】



【3年生 校外学習の様子】

■ 実施に当たっての工夫

彦根市立東中学校区学校支援地域本部のボランティアリストを職員に配布し、依頼時の参考資料としている。本校職員の独自のルートで開発された人材は、全職員が共有できるようにしている。また同本部発行の「学校支援ボランティアだより」で東中学校ブロック内の他校の実践を知ること、地域の方が活躍していただける視点や取組に、広がりがもてている。ボランティアとして協力依頼した後は、さらに担当者が詳細な打ち合わせを行い、教育活動のねらいやボランティアとしてお願いしたいことを明確に知らせている。このことが、地域と学校がともに手を取り佐和山っ子を健全に育成するベースとなっている。

■ 事業の成果

地域の方から、子どもたちや学校への声かけが増えてきた。特に登下校時の挨拶は増えた。また、各学年が昨年度の実践を参考にボランティアが活躍していただける機会を考えると、以前お世話になった方が来校されることに子どもたちは親しみを感じ、挨拶や会話を進んでいる。学校外の所で出会っても挨拶をしている。このように、子どもたちと地域の方との心のつながりが少しずつ深まり、形になってきていると考える。

■ 事業実施上の課題

年間を通して、効果的なボランティアの活動内容や時期は大まかに見通せているが、実際に時期が確定するのは1ヶ月程度前で、授業や学校行事・天候等で、当初の計画を変更・延期することがある。こういった時期や時間帯等、学校のニーズと一致しにくいことがあり、今後は、柔軟性をもつ新たな仕組みを開発していくことが必要になってくるものとする。

■ 地域の人材を活かした旭森教育をつくる（旭森小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校区支援地域本部・旭森小学校
■ 関係する学校
旭森小学校・城東小学校・佐和山小学校・東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	56 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

○子どもたちの教育活動に地域の教育力を活かす

本校では、低学年の生活科、中高学年の総合的な学習の時間の学習に、ゲストティーチャーや学習支援者として多くの地域の方々との協力を得ている。また、全校に関わる読書活動や、本校の伝統的な活動であるマーチングバンドの楽器指導にも、多くの支援をいただいている。夏季休業中に実施している学力補充教室には、地域におられる教員OBのみなさんの力を借り、少しでも勉強がわかるようになりたいと願う子どもたちの学習支援を実施している。

■ 特徴的な活動内容

○図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動していただいている。毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施し、それぞれの学年相応の本や季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。

また、図書室の環境整備にもご協力をいただいている。本校の子どもたちは、本を読むのが大好きなのだが、本の扱いが悪かったり図書室の使い方がよくなかったりする場合がある。そのため、火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業など、様々なお手伝いをしていただき、いつも子どもたちが気持ちよく本にふれることができるよう環境整備に協力していただいている。

○家庭科の「ミシン」指導支援

毎年地域の方にお手伝いいただいているのが、家庭科でのミシンの学習の支援である。指導する教師は1人であることがほとんどのため、子どもたちへの細かな指導にはなかなか手が回らないのが現実である。子どもにとっては糸が絡まってしまった場合の直し方やその後の糸の付け方など、すぐそばで実際にやって見せてもらえることが何よりもわかりやすいのである。家庭科でミシンを使う場合は、事前に連絡を取り、家庭科の学習時間に合わせて来校いただいている。

○マーチングバンドの演奏指導ボランティア

本校では5・6年生でマーチングバンドを実施している。伝統的な活動であり、子どもたちもこれまで先輩から順に託され、旭森のマーチングバンドを受け継いできている。運動会に始まり11月のお城祭りパレードを最後に5年生へバトンが引き継がれ、全教員が指導に当たっている。楽器演奏という専門的な領域の指導であるため、教員だけでは難しい部分もあり、地域に居住されているボランティアの方に楽器指導をご協力いただいている。

○ゲストティーチャーとしての協力

各学年で実施する様々なESD教育の一つである地域学習に、ゲストティーチャーとして地域の方々にご協力をいただいている。1年生では、生活科「むかしからのあそび」に地域のお年寄りに来校していただき、子どもたちにお手玉やコマ回し、剣玉など、昔からの遊びを教えてもらい、一緒に遊ぶ楽しい時間をつくっている。また、3年生や6年生では、地域の歴史や文化など様々な子どもたちの疑問に答える講師として、地域のみなさんにご協力をいただいている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・4月当初の職員会議等の場に、コーディネーターの方や支援地域本部事務局担当の方に来ていただき、事業内容について説明をしていただいた。どんな協力ができるのか、また人材を探す場合の窓口はどこであるかなど、実務的な話をしてもらい、各教員が本事業を知り、活用しやすいようにした。
- ・ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教師と打合せをして実施している。

■ 事業の成果

- ・図書館教育部が、今年度1人年間50冊を読む取組を始めたが、図書室がいつも本にふれやすく、親しみやすい環境になっているおかげで、達成していく子どもがどんどん増えている。
- ・本事業の内容を教員が理解することで、必要とする人材の確保のため、どこに相談したらよいかなど、基本的な情報を共有することができた。

■ 事業実施上の課題

- ・学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がる一方だが、今後は常時学校教育活動にご協力いただける体制をつくっていきたい。そのためには、学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信していくことが大事である。
- ・学習指導における支援ボランティアの活用を促進するため、ボランティアのみなさんにさらに協力をお願いしていきたい。



【家庭科の「ミシン」指導支援】

■ 地域人材を生かした学校支援と地域の生徒理解をめざした活動（西中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校区支援地域本部・西中学校
■ 関係する学校
西中学校・城西小学校・城北小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	約30 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要（それぞれの活動を以下のA～Dで示し、その掲載順に内容を記載した）

- A「校地の環境整備」
校地の樹木の多様さや運動場の広さにより、地域・生徒・PTAによる共働の環境 整備活動。
- B「地域・生徒相互の美術作品の交流」
地域の文化祭に生徒の作品を展示し、学校にも地域の作品を提供いただくといった相互交流の実現。
- C「地域貢献活動の支援」
生徒の自主性を尊重した地域貢献活動を通して、生徒が地域で存在感を実感できるよう、地域・生徒の相互理解を目指して。
- D「支援ボランティアとの交流」
支援ボランティアとの望ましい交流こそが当事業の重要課題。

■ 特徴的な活動内容

- A 地域・生徒・PTAの交流を目指す環境整備。
- B 地域との作品交流を通して、地域が生徒の作品に興味・関心を寄せていただき、地域の作品も学校で、年間を通して展示。
- C 地域の生徒理解や受け入れ体制ができ、活動が円滑に進められた。
- D 当事業成功のカギは、支援ボランティアの方々との相互理解にある。



【市民運動会における地域貢献活動】

■ 実施に当たっての工夫

- A 今年度は地域・生徒・PTAの三者が多く参加してくださり、特に生徒は部活動単位で参加し、非常に熱心に作業をしてくださいました。中でも生徒会の代表に、終わりの挨拶をしてくれるよう要請した。
- B 昨年度は2名の方々に美術作品の提供を願ったが、今年度はさらに2名の方々からの作品提供が実現でき、提供していただいた方々に学校にも来ていただき交流することができた。
- C 生徒の地域貢献活動に際して、地域の生徒受け入れに対する事前打ち合わせや、当日の中学生への説明などをしていただき、中学生が気持ちよく地域の方と活動できる体制ができるようになってきた。
- D 支援くださっているボランティアの方々には電話や文書だけでなく、家庭訪問や支援事業終了後のコミュニケーションこそが大切であることを意識して活動に当たった。

■ 事業の成果

- A 地域の参加も定着しつつあり、学校環境整備に地域の力の必要性を感じていただいた。また学校サイドも地域の力のありがたさを強く認識しておられた。特に今年は生徒の参加が部活動単位であったため非常に多く、しかも生徒代表の挨拶も地域の方々には突然でもあり、ほほえましくもあったのか大きな拍手で歓迎されたことも大きな成果であった。
- B 地域の2つの文化祭を契機に、数年前から生徒の作品を地域に展示していただき、その交流の結果学校内に地域の方々の美術作品を展示、今年が2年目となり今まで4名の方々の作品を校内に展示することができた。
- C 地域貢献を通して、生徒と地域の方々との会話もその場その場で生まれつつあり、中学生にとって地域との壁が取り払われたり、安心できる居場所として、地域も様々に動いていただけた。
- D その都度、ボランティアの方々がお感じになっていることをお聞きしたり、いろいろな場所で誠実な対応をしようという心がけてきた。そうした姿勢がボランティアの方々との「絆」となり、定着していただけているのではなかろうか。

■ 事業実施上の課題

- A 地域・PTA・学校（生徒）の三者がともに環境整備に汗を流すことを通して、地域や学校の環境整備を継承し、地域と生徒やPTAが同じ作業をしながら交流し、作業の仕方や技術を伝承することで、有意義な活動になると思っている。
- B 生徒たちに、地域には様々な技術や特技をもっておられる方がおられることを作品などを通して知ってもらい、そうした交流を重ね、地域での存在感を認識してもらいたい。今後は地域と連携しながら、地域人材が授業などにも関わってもらえる機会をつくっていき、生徒たちの意欲付けになれば幸いである。
- C 中学生になると急に、自分の生まれた町の行事に顔を出すことが少なくなり、地域との壁を益々広げてしまう傾向がある。地域もそうした中学生にそれほど理解があるとは思えない面も見られ、今後の大きな課題である。
- D ボランティアとの絆を深めるために、学校にボランティアの居場所を設置したり、支援後に語り合えるようなコミュニケーションの場も必要である。



【夏の環境整備活動】

■ 地域の人たちと共に、豊かな学びをめざして（城西小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校区支援地域本部・城西小学校
■ 関係する学校
城西小学校・城北小学校・西中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	60 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

本校では、以前から地域とのつながりを大切にし、地域を学習の場にししたり、地域の方々にボランティアとして学習支援をお願いしたりして、子どもたちと地域の人・ものとの関わりをもてるようにしてきている。今年度は、特に子どもたちの学びを豊かなものにする学習支援・豊かな情操を育む読書支援・安全な登下校のための見守り活動の3つを柱として、地域コーディネーターと連携を図りながら活動を進めてきた。

■ 特徴的な活動内容

（1）世代間交流の充実

本校では、1・2年生児童を中心に、地域のお年寄りで作られている「子どもらと楽しもう会」の会員の方々と交流を進めている。新入児童の交通安全を意欲させるための「キューピット人形渡し」や「七夕集会」「昔の遊び体験（生活科）」などにゲストティーチャーとして快く来てくださり、子どもたちへ昔からの行事や伝承遊びにかかわる話をさせていただいている。

（2）地域学習の充実

本校の総合的な学習の時間では、地域に出かけ、地域の人とともに学ぶ活動を推進している。

3年生では、地域にある昔ながらの町並みを再現した「夢京橋キャッスルロード商店街」を題材に、その歴史やよさ、さらには地域の人々の思いを調査し、自分たちにできることはないかと学習を進めている。その際には、実際に商店街に出かけ、それぞれのお店にインタビューをさせていただいたり、商店街の役員の方にゲストティーチャーとして来ていただき、お話を聞いたりして、地域の方とともにこれからの町づくりについて考えを深めている。

4年生では、校区にある彦根城を題材に、彦根城のよさを観光客に伝えるちびっこガイドをしたり、城下町である校区のよさを追究したりする活動を行っている。特に校区の旧町名調べでは、コーディネーターの方に人選をさせていただき、実際に各町を見学しながら、旧町名の由来や現在残っている様子についてガイドをさせていただいた。

5年生では地域の環境学習に視点をおき、琵琶湖の環境学習や、校区にある彦根城の城山の植物調べ、芹川の環境調べなどに取り組んでいる。学習のなかでは、植物に詳しい方にゲストティーチャーとして来ていただき、実際の植物を見ながらその特徴やよさについて学びを深め、学んだことをもとに、さらに地域の方々に発信している。

6年生では、文化・伝統に視点をおき、地域の偉人である「井伊直弼公」を取り上げ、湖東焼き体験・茶道体験・華道体験・狂言体験等に取り組んでいる。地域にはこのような昔ながらの伝統文化に精通しておられる方々がたくさんおられ、様々な方にゲストティーチャーとしてお世話になっている。

（3）国際理解教育の推進

本校はユネスコスクールとして、国際理解教育の充実を図る取組を進めている。今年度は、昨年度姉妹校提携を結んだオーストラリア・アデレードにあるローズパーク・プライマリースクールの児童との交流会を行った。19名の児童が3日間本校に来校し、子どもたちと共に各学級で生活を送った。その際にはよりよい意思疎通が図れるように、コーディネーターの方に依頼をして、地域におられる英語に精通した方を探していただき、通訳をお願いした。



【彦根城のよさを伝えるガイド】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域コーディネーターが中心になって、「学校支援ボランティア通信」を発行していただき、広く地域に様々なボランティアの募集を図ることができた。
- ・地域コーディネーターと学校職員が連絡会を開き、学校側として必要なボランティアについて意見交流を行った。それに基づいて、地域コーディネーターが地域に声をかけていただき、学習内容に合ったボランティアを集めていただくことができた。

■ 事業の成果

いろいろな活動で、地域の方をはじめ、保護者の方にも支援をいただいている。このことは、本校が重視している地域のなかで、地域の人々と共に学ぶ活動の推進には、とても重要である。特に地域について専門的な知識や、地域に対する愛情・誇りといった面は、やはり地域の方々本人から聞くことが効果的である。今後も、この地域との関係を継続できるようにしていきたい。

■ 事業実施上の課題

本校は、今までの積み重ねの関係で、各学年が支援していただく方と連絡をとり、打合せを行っている。そのため学校全体として、年間を通してどのような内容で、どのような人材が必要になるのか、また担任する学年が変わると、前担任に確認をしないとうまく分からない面が見られる。今までの地域のつながりがよく分かるように、年間を通しての支援計画表を作成する必要がある。

縦割り班で地域から学ぼうとする郷土への愛着心を育てる『ふるさと探訪オリエンテーリング』（城北小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校区支援地域本部・城北小学校
■ 関係する学校
城北小学校・城西小学校・西中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	25 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

8：50～9：00 出発式

9：00～ ウォークラリー（各班並んで4分ごとに出発）

（船着き場→大洞弁財天→井伊神社→清涼寺→佐和山城跡）

12：10～終わりの式

児童会の縦割りグループ毎に、地図を参考にして訪ね、6年児童や地域・施設の方から説明を受けて学習する。その交通見守りや安全のサポートを行う。

■ 特徴的な活動内容

今年度は佐和山城跡や大洞弁財天などを縦割り班ごとにウォークラリーをしながら巡り歩き、総合的な学習の時間で学んできたことをもとに、6年生が下級生に説明する。全校を24グループに分け、それぞれのグループにボランティアがついて活動を共にする。

6年生は、事前に歴史ボランティアのお話を聞きながら、グループ毎に課題をもって調べ、下級生に対してどのように伝えるかを考え、準備を進めた。

当日は、縦割り班のリーダーとしてだけでなく、歴史学習のガイドとしての役割を担っており、歴史ボランティアのアドバイスをもとに、各班が工夫した資料や説明で、班のメンバー（1年生～5年生）に説明を行った。



【 説明をする6年生 】

■ 実施に当たっての工夫

事前に職員で下見を行い、危険箇所の点検やチェックポイントの確認を行った。その内容を、学校支援地域本部の地域コーディネーターに伝えた。当日は、学校支援地域本部の地域コーディネーターから、子どもたちの活動内容と注意事項をスタート前に説明していただき、教師とボランティアと連携して安全確保ができるようにした。

また、ボランティアには安全旗と安全キャップを渡し、子どもたちから見ても視覚的にわかるようにした。

■ 事業の成果

20名以上の方が参加していただき、子どもたちの安全への目配りが大変よくできた。ポイント毎での子どもの説明にボランティアの方も頷いたりメモをとったり、子どもに寄り添っていただいた。また、休憩場所では子どもと会話したり一緒に景色を眺めたりする中で自然と交流する姿が見られた。

学校から、見学場所までの安全配慮が十分行えた。ボランティアの人数がしっかりと確保できているため、子どもたちへの目配りや気配りが十分に行き届き、活動そのものがスムーズにいく大きな要因となった。



【 ボランティアと頂上で 】

■ 事業実施上の課題

グループ数も多く、時間差をつけて活動を行うため、活動時間や待ち時間などに大きな幅が生じてしまう。ガイド場所での班の回転がゆっくりしていたために、さらに時間の幅ができてしまった。職員の中にも時間の意識が足りなかった部分もあるが、ガイドポイントを絞ったり、終わりの時間をはっきりさせたりすることで、次の活動にスムーズに移行できるような配慮が必要であった。

ボランティアの人数も多いので、コースを逆からのコースを設定することも可能である。逆コースを設定することで時間的な余裕が生まれる。

■ その他

子どもたちは、話を聴く姿勢や、ルールを守ることなど、よく頑張っていた。山登りであるので、虫さされの薬の準備なども必要であった。また、当日は天候がよかったので水分補給としてスポーツドリンクを準備しておき、チェックポイントで配った。これが子どもたちやボランティアにも大変好評であった。

学校と地域を結ぶSCHOOL SUPPORT（中央中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域協議会・中央中学校
■ 関係する学校
中央中学校・平田小学校・金城小学校 平田幼稚園・金城幼稚園

コーディネーター数	3人
ボランティア登録数	約40人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校は現在、比較的落ち着いた学校生活が送れるようになってきており、学習や部活動にも意欲的に取り組む生徒が増えてきた。一方、情報化や生活スタイルの変化など多様な要因により、人間関係構築力の脆弱化や生活体験の不足などが問題になっており、また、低学力やいじめ、虐待など多様な問題がある。子どもたちを健やかに育むためには、学校と地域、家庭が連携を図り地域ぐるみで子育ての体制を整えることが大切である。

本事業は、今年度6年目を迎える。学校と地域が連携し、地域の多彩な人材を学校教育に活用することで、児童・生徒の学力向上や体験的な学習で成果をあげてきている。また、環境整備作業等を行うことで教育環境の充実が図られてきている。



【稲作体験学習の支援】

■ 特徴的な活動内容

- ・本校区は、人権教育地域ネット事業の指定のもと幼小中連携に取り組んでおり、本事業も金城小学校と平田小学校、金城幼稚園、平田幼稚園とともに協議し、協力して事業を進めている。
- ・事業の充実を図るため、従前より地域住民へチラシを配布するなどの周知を図ってきた。
- ・昨年までの「いじめ対応型」の考え方を継承し、より充実した教育支援活動を目指している。
- ・コーディネーターと各校の担当者会を隔月に設定し各校地域の実態把握、事業の計画、予算配分などを話し合い、進捗状態や予算の執行状態、問題点などを話し合っている。

【学校】

- ・体験的な学習を支援するためボランティアによる授業の補助やゲストティーチャー（総合的な学習の時間の職業講話の講師、美術科の作陶体験・和菓子デザイン・茶道体験）
- ・生徒会活動、部活動の支援（生徒会の花壇整備、美術部の額縁制作補助など）活動を通して地域のボランティアの方々とのふれあい、見守りをしている。
- ・開かれた学校づくり・・・授業参観日を増やし、参観時間を2時間連続にする日を設定。フリー参観日を毎月月初めに1週間設けるなど地域の方に中学校に来てもらいやすい環境をつくっている。
- ・PTAでは清掃活動を行いながら校内巡回をする見守り活動「愛のパトロール」を行っている。
- ・中央中学生の作品展を中地区公民館で行う。小学校の作品も合わせて出品。

【地域】

- ・小学生下校時の交通指導の際、中学生に対しても同様に声かけや挨拶により、安心・安全の確保。
- ・「学び育ち教室（Learning Links（学びの絆）教室）」平成25年3月スタート。対象は学びたい気持ちはあるが機会に恵まれない生徒。運営は滋賀大学生、聖泉大学生、県立大学生など。中地区公民館で月曜日19:00～21:00に開催している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校側のニーズの掘り起こし
- ・ねらいに適したボランティアの確保のため本事業の認知度を高める広報活動 ・幼・小・中の連携

■ 事業の成果

- コーディネーターと校区内の幼・小・中の担当者の定期的な調整会の設定で事業が充実してきている。
- 体験的な学習の支援の充実（総合的な学習の時間の支援（中）、家庭科調理実習の講師・補助（中）、稲作体験学習の支援（小）、ふれあい遠足の交通指導（小）、職業講話の講師、ウォークラリーの支援（小）、美術部の額縁制作補助など）
- 安心・安全パトロール
登下校時に子どもへの声かけ、および見守りをし、挨拶を交わせる児童・生徒が増えてきた。
- 環境整備（残土処理、除草作業、体験農園の手入れ、ウサギ小屋の修理、樹木の手入れ・剪定など）

■ 事業実施上の課題

- 今後、さらに本事業に対する教職員の意識の向上を図ることとニーズの掘り起こし。（授業や行事への計画的な導入）
- 地域の方々に本事業をもっと知ってもらい、協力者を増やし活性化を図っていく。
- 図書室の常時開館に向けての図書館ボランティアの常駐や、放課後学習会のための学習支援ボランティアの人材確保等がボランティアの輪を広げることが課題である。

■ 心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり（平田小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域協議会・平田小学校
■ 関係する学校
平田小学校・金城小学校・中央中学校 平田幼稚園・金城幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	40 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

学校を中心として地域、保護者相互の連携を大切にし、心豊かな子を育むことをめざして本事業に取り組んでいる。本事業も5年目を迎えるが、学校の環境整備を中心としながらも、その年によって取り組み方も少しずつ変わってきている。今年度は下記のような活動を行った。

- ①校内外の環境整備（中庭、運動場の剪定作業、プール周辺ペンキ塗り、一人一鉢栽培用棚の整備、図書室整備）毎月第2水曜日
- ②朝読書の時間の読み聞かせ
- ③生活科、総合的な学習の時間、社会科のゲストティーチャー
- ④全校ふれあい遠足の引率、立哨指導
- ⑤音楽会の伴奏補助

■ 特徴的な活動内容

①環境整備ボランティア

毎月第2水曜日の活動日には、総会で計画した活動を中心に2時間程度活動していただいている。今年度は前庭、中庭の剪定、プール周りのペンキ塗り、昇降口みぎらのシート張り替え、一人一鉢の棚板の塗装等行っていただいた。昇降口みぎらのシート張り替えについては、夏休み中に活動日を追加して張り替えをしてくださった。子どもたちが安全に過ごせるように細かな配慮をしてくださっている。



【昇降口みぎらシート張り替え】

②朝読書の読み聞かせ

毎週水曜日の朝、各学級に読み聞かせに来てくださっている。登録していただいているボランティアは現在7名である。図書室で教職員と一緒に選んだ児童の興味関心に沿った絵本や、各ボランティアが子どもたちに伝えたい内容の絵本を読んでくださっている。子どもたちの反応を直接見ながら、次週によかったところや反省点を交流しながら進めていただいている。

③ゲストティーチャー

多才な方が多いため、各教科等で教えていただきたいことがあると、すぐに声をかけるようにしている。学習に応じてゲストティーチャーとして招き、学習に協力していただいている。

④全校ふれあい遠足の引率、立哨

今年度は残念ながら雨天のため中止となったが、引率や、立哨の募集をしたところ、22名の方に引き受けていただいた。ふれあい遠足も5年目を迎え、ボランティアに担っていただく内容もよく理解していただいている。子どもたちとふれあっていただくよい機会であるので、来年度も継続していきたい。

⑤音楽会の伴奏

単学級が増え、音楽会に向けた指導体制が組みにくくなったため、今年度よりピアノ伴奏のボランティアを募集した。保護者の方が2名登録してくださり、1年生と3年生の伴奏をしていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

5月に学校支援地域本部事業の総会を開いている。年間を通して、どのような活動をするのかを年度初めに話し合っておくことで、いつ、どのような活動をするのか見通しをもつことができる。また、ボランティア同士の話し合いの中で、学校だけではなかなか改善できていない点などを指摘していただいている。学校全体を見ていただく機会にするとともに、各ボランティアの交流の場としても活用している。

平成25年度よりボランティアが外の活動を終えて、休憩していただく部屋（支援室）を用意した。そのまま外から入ることができ、子どもたちも入れる部屋である。ボランティアにとって子どもたちとの交流もできるよい場になっている。

■ 事業の成果

地域のいろいろな団体に所属されている方が多く、様々な場面で子どもたちにかかわってくださっている。特に気になる子たちの地域での様子を知ることができ、次の指導に生かすことができる。また地域の方が学校に入っているいろいろな活動をしてくださることが、子どもたちから保護者へと広がり、地域と保護者とのつながりもできてきている。活動の様子は学校だより等をおして保護者へお知らせしている。ボランティアへの連絡も、子ども達が直接お家を訪問してお手紙を渡す形であり、子どもたちが地域を知ることにつながっている。

■ 事業実施上の課題

高齢化に伴い、学校支援地域本部事業に登録していただく方を増やしていくことが必要であるが、今年度地域の方への登録募集をかけたことで、5名の方に登録していただいた。登録をやめられた方が2名あったため3名増となった。各地域の回覧板を利用しての募集であったが、引き続き事業内容等を地域に知っていただく機会を設けていきたい。

学校と地域の「豊かなつながり」(金城小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
中央中学校区支援地域協議会・金城小学校
■ 関係する学校
金城小学校・平田小学校・中央中学校 平田幼稚園・金城幼稚園

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	113人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

子どもと地域、学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの教育活動の充実と人権が守られ安全で安心な学校づくりをめざして本事業に取り組んできている。

本事業が開始される以前より、金城学区では、「健やか金城の会」が結成され、子どもたちの健全育成や防犯見廻りなどで、地域の方々に学校を支援していただいていた経緯がある。その活動を本事業につなげて、継続発展して、今日まで取り組んできている。

■ 特徴的な活動内容

① 登下校の安全パトロールとあいさつ

金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、登下校の安全を見守り、「おはよう」「おかえり」と声をかけてくださっている。ボランティアの方々との関わりのなかで、挨拶ができる子どもの育成にもつなげている。また、登下校中の子どもの様子を逐一知らせていただき迅速な子どもの実態把握に役立っている。

② 学習支援

例年、特別支援学級の大藪かぶらの栽培、3年生の昔のあそびと昔のくらしの学習について、ゲストティーチャーとして学習の支援をしていただいている。5年生の米づくりでは、田植えから稲刈りまで田んぼの管理をしていただき、収穫したお米を使った、おにぎりパーティに招待した。また、4年生の野外活動時（オリエンテーリング）の安全確保のためにも力を借りた。

③ 読み聞かせ、影絵

年間を通して、読み聞かせボランティアの方に、水～金曜日に絵本の読み聞かせを、10月の全校集会では影絵を行っていただいている。豊かな情操の育成につなげるとともに、11月には人権週間にちなんだ絵本を選んでいただき、子どもたちの人権意識の向上といじめ防止に役立っている。

④ 学習環境の整備

学校花壇の世話、校庭の樹木の剪定を毎年実施していただいている。本年度は、教材園周囲のレンガ積みや図工室作業機の天板の張り替えを行っていただくなど、子どもたちが学習しやすい環境整備に取り組んでもらっている。

■ 実施に当たっての工夫

毎月、第3水曜日に定例会を開催し、活動内容の計画と確認を行っている。また、活動内容を学校通信「金城小だより」やボランティアの活動の様子の写真掲示を通して、子どもたちや保護者に伝えるようにしている。ボランティアの方々へ、6年生児童が暑中見舞いのはがきを出したり、PTA行事とタイアップして5、6年生児童が感謝の気持ちをメッセージカードで伝えたりしている。また、PTAとしても音楽会やもちつき大会にボランティアの方を招待し、日頃の活動に対する感謝の意を表している。

■ 事業の成果

子どもの様子で気になることがあれば、ボランティアの方からすぐに連絡をいただいた。互いに連携をとることで、校内では気づかない子どもの情報を得て、児童理解と指導に役立てることができた。

また、子どもたちは、地域のさまざまな人々によって守り育てられていると感じ取っている。活動を通して、人の温かさや親切に対して感謝する心を育てるひとつのよい機会とすることができている。

■ 事業実施上の課題

本事業の取組が、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知されていないことが課題である。今後も、取組の広報活動を行っていく必要がある。そのことを通して、ボランティアの方のやりがいを高めるとともに、子どもたちが、さまざまな人に支えられ大切にされていることに気づいていくようにしたい。

また、子どもたちとボランティアの方のつながりをより一層深めていく取組を行うことも課題である。子どもたちが、ボランティアの方に気軽に話すことができ、悩みごとを聞いてもらえる関係を築くことができれば、いじめ防止対策のひとつの手だてとなると考える。



【稲刈り体験】



【PTA行事への招待】

■ 彦根南サポートオフィス5年目の取り組み ～継続は力～（南中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・南中学校
■ 関係する学校
南中学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・亀山小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	13 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

今年で事業に取り組んで5年目を迎える。校区内の中学校と4小学校の各地域支援コーディネーターとご担当の先生方で定期的に会議を持ち、情報交換と運営について話し合っている。また地域への啓発とボランティアの人材確保を目的とした「ボランティア便り」を発行し、保護者への配布と地域回覧を行っている。

中学校においては、①放課後学習支援②環境整備③家庭科ミシン学習支援を中心に活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

①放課後学習支援

毎週水曜日の放課後1時間、「水曜ゼミ」の名で3年生を対象に数学・英語・漢字の基礎プリントの学習をしている。昨年まで県立大学の学生にお手伝いいただいていたが、今年は就活や講義の時間の関係で十分な協力が得られていない。

②環境整備

今年度は夏に校舎正面に作られたグリーンカーテンのパイプの撤去作業を実施した。生徒の地域貢献活動と合わせて、保護者8名と生徒20名が集まって作業を行った。次年度のグリーンカーテン設置を考え、パイプと金具・ネットをグループ分けし、中庭の倉庫まで運搬していただいた。

③家庭科学習支援

昨年の3学期に担当の先生からの依頼で行ったミシン実習の補助を、今年度も継続して支援の予定をしている。昨年は延べ10日間、授業時間20時間を超えたが、必ずボランティアの方が授業に入ってください、製作をスムーズに進めることができた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・環境整備のグリーンカーテンのパイプ撤去については、高所での作業を行う危険があるため、大人の人数を増やしたいということから、PTAの本部役員会の折にお願いに行き、快くご協力の返事をいただくことができた。
- ・「ボランティア便り」発行に関して、担当の先生方と連絡を取り合い、できる限り各小学校へ出掛けて、活動の様子を直接取材させていただくようにしている。



【 環境整備 】

■ 事業の成果

- ・グリーンカーテンの最初のパイプ設置に関して、昨年彦根中学校の「緑のカーテン作り」で活躍されたボランティアの方々に来校いただき、暑期中、機材など全てを持ち込んで、校区を越えてお手伝いをしていただいた。また、リーダーの方にはパイプの撤去に関しても、事前の相談・当日の指導もしていただき、次年度より自校区内で自立して活動できるよう、たくさんのアドバイスをいただくことができた。
- ・保護者の方を中心にボランティアの呼びかけをその都度行っているが、毎回熱心に参加してくださる方が増え、活動の大きな力となっている。
- ・家庭科学習支援に関しては、保護者ボランティアが声掛けくださった近所の方も参加していただき、地域の方にご協力いただくことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・放課後学習支援のボランティア確保に苦労している。中学生の学習支援ということで難しく思われ、保護者からの協力がなかなか得られない。また学生も忙しく、長期間にわたって協力を得ることの難しさがある。
- ・校区が広く、中学校に対しては地域の意識が薄いように感じられる。また、協議会もコーディネーターと担当の先生のみで運営しているため、地域の団体の方とのつながりが薄く、連携を図ることができていない。
- ・保護者が中心のボランティアのため、お子さんの卒業と共に終わってしまい、人数が増えなかったり、減少してしまったり、せっかく継続してきた活動が止まってしまっている。保護者が子どもの卒業後、地域住民になられた時もチャンスと考え、ボランティアの継続をお願いしていかなければならない。



【 放課後学習支援 】

■ 学校と地域で作る子どもの学び（城南小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・城南小学校
■ 関係する学校
城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・亀山小学校 南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	86 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校では、主に読書ボランティア、スクールガード（子ども見守り）、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。

■ 特徴的な活動内容

○読書ボランティア

- ・朝のさわやかタイムの読み語り
- ・図書室の本の整理・環境づくり

○スクールガード活動

- ・登下校時の通学路の見回り（安全指導）
- ・下校時の公園等の見回り（不審者対応）



【地域の方に遺跡の話を聞く】



【地域の方とさつまいも掘り】

○学習支援

- ・特別支援学級
 - 「絆を深めよう」「花を育てよう」「地域に方とふれ合おう」
- ・1年 生活科 「つながりあおう園児と仲良く」「おじいちゃん、おばあちゃんとなかよく」
- ・2年 生活科 「生き物とふれ合おう、育てよう」【写真右】 「町の人と仲よしになろう」
- ・3年 社会科 「もっと知りたい！大好きな私の町」【写真左】 「地域の伝統文化を未来に伝えよう」
- ・4年 社会科・総合的な学習の時間 「地域の住みよい町かんきょう」「いつまでも住み続けたいやさしい町づくり」
- ・5年 社会科・理科・総合的な学習の時間
 - 「米作りから見える食環境」「大切なびわ湖を守り続けよう」「地域の安全マップを作ろう」
- ・6年 社会科・総合的な学習の時間 「平和な世界をめざして」「今の私、未来のわたし」
- ・全校 行事 「ふるさとのよさ再発見 城南学区の今と昔」
- ・委員会 「花いっぱい住みよい町づくり」

■ 実施に当たっての工夫

どの活動においても支援して下さる地域の方や団体との事前の打ち合わせを行い、学校の要望や地域の方の思いを双方で出し合い意思疎通を図ることで、活動を値打ちのあるものにしていけるよう心がけた。

■ 事業の成果

○読書ボランティア

朝のさわやかタイムでは、週2回割当ての学級へ読み語りに来ていただいた。紙芝居や絵本など、発達段階に合わせた内容のものを選んでいただいている。また、環境づくりとして、本の整理や掲示物の工夫などを心がけ、子どもたちが少しでも本に親しめるように心がけてもらっている。とりわけ掲示物は、季節に合わせた内容のものを作成いただき、子どもたちも毎回楽しみにしている。今年の生活アンケートからも、読書を好む子の数が今年さらに増えていることがわかった。

○スクールガード活動

毎日登下校時に見守り活動をしていただいております、子どもたちは安心して学校生活を送ることができている。

○学習支援

学校と地域コーディネーターが連絡をとりあい、学習内容に合わせて支援者を探していただいたり進め方を相談したりして活動を進めている。地域の方にさつまいもや花の育て方を教わり、一緒に苗植えをしてもらったり、地域の施設や遺跡、伝統行事について丁寧に教わったり、戦争時の地域や学校の様子を説明してもらったりと、地域の方とふれあい、地域への愛着の心を育む大切な活動になっている。

■ 事業実施上の課題

学校支援地域本部の活動は、学校にも地域にも定着しつつあり、学習の時期が近づく地域の方から声をかけていただくこともある。学習内容や活動は年間計画にも位置づけているが、その分、新しい内容や活動を取り入れるなどの活性化が図りにくい面がある。

■ つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～ゲストティーチャーから実感を伴った学習を～（城陽小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・城陽小学校
■ 関係する学校
城陽小学校・城南小学校・若葉小学校・亀山小学校 南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	75 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方々や、専門的な技術をもった方々から、ご指導していただく機会を積極的に設け、地域の方とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色の一つとして位置づけている。ゲストティーチャーとして子どもの学習に携わっていただき、図書ボランティア、水泳の指導、夏休みの算数教室、スキー教室、校外学習の引率補助などにもご協力いただいている。

■ 特徴的な活動内容

○第2学年 生活科

「どきどきわくわく まちたんけん」

校区のまちたんけんの学習の時には、地域からボランティアを募り、道中の交通安全や目的地での活動の補助をしていただいた。

イチゴ農家の方からはイチゴを育てる上での苦労や工夫についてお話を伺ったり、できたてのイチゴをいただいたりした。老人福祉施設では入所されているお年寄りと一緒にゲームをしたりして、地域の人と交流を深めることができた。保育園を訪れたときには、園児と交流することができた。県立大学では、学生と一緒に水生生物の観察をしてふれ合うことができた。

地域の様々な方とのふれあいを通して、自分の住む地域を見つめ直す機会とすることができた。



【どきどきわくわく まちたんけん】

○第6学年 総合的な学習の時間

「みんなと共に生きる町～さぐろう城陽未来遺産～」

地域の歴史や自然を調べる学習の中で、子どもたちが抱いた疑問について地域の方からお話を伺った。また、貴重な写真や資料等を効果的に使って、自分たちの住むふるさとの各町や寺院・神社、犬上川、荒神山等の歴史について説明していただいた。活動を通して、先人の思いや自分たちの住む地域を大切にしようとする人々の思いを考えることができた。

また、城陽子どもまつりでは、地域の方を招いて自分たちの学習の成果を発表し、さらに学びを深めることができた。



【さぐろう城陽未来遺産】

○全学年 夏休み算数科補充学習

毎年夏休みには、希望者を対象に、3日間算数科の補充学習を行っているが、この時に地域の方にゲストティーチャーとして採点や、個別指導に当たっていただいている。また、近くの県立大学の学生もボランティアでゲストティーチャーをお願いし、補充学習の成果を高めている。

■ 実施に当たっての工夫

効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打ち合わせを行った。また、事後の学習の様子を知らせ、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。

また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

■ 事業の成果

本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話いただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度か学校を訪問していただくことで、学校とのつながりをより深めることができた。

■ 事業実施上の課題

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ 共に手を取り 共に高まり合う学校支援をめざして (若葉小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・若葉小学校
■ 関係する学校
若葉小学校・城南小学校・城陽小学校・亀山小学校 南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	43 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校では、主に以下のような学校支援の活動をしていただいている。

- ① 子どもたちが読書に対して興味関心をもつための読み聞かせ活動やオープンスペースにある図書室の環境整理。
- ② 学年栽培活動等の支援を行う花壇・畑の整備活動。
- ③ 昔の遊び(生活科)やミシン・調理実習補助(家庭科)、町探検(社会科)等の支援を行う学習支援活動。
- ④ 校地内の除草作業、枝打ち等の環境整備。子どもたちの登下校を見守るための、スクールガードの皆さんによる安全指導。

■ 特徴的な活動内容

- ・本校では読書活動を推進している。その学習活動の支えとなっているのが、読書ボランティアによる読み聞かせと図書ボランティアによる図書室の整理である。読書ボランティアは、毎週金曜日朝自習の時間を中心に活動いただいている。今年度よりボランティアの数が7人に増え、さらに活動的に取り組んでいただいている。1年生から6年生まで、それぞれの発達段階のあった本を、毎回読み聞かせしていただき、どの学年の子どもたちも食い入るように話を聞いている。図書ボランティアは、図書室の整理整頓を週2回していただいている。本を指定の場所に返却したり、傷んだ図書を修復したりする等、環境整備に尽力いただいている。
- ・学習支援については、ミシンや調理実習、畑の土おこしから大根の栽培等、学習支援の場が広がった。何回か来ていただくことで、子ども達との親睦が深まり、来ていただいている方もより積極的に支援に取り組む姿が見られた。



【6年生ミシンの実習支援】

■ 実施に当たっての工夫

- ・これまでいくつかの学校支援活動はしていただいていたが、支援をいただいている方同士の横のつながりがないままであった。また、ボランティアの数についても、しっかりと把握できていなかった。そこで今年度は、地域コーディネーターを中心とした組織作りを行い、ボランティアについても、学区全戸に募集用紙を配布し、その数を把握することにした。
- ・組織作りにあたっては、何度かリーダーになる方に集まっていただき、話し合いを深めた。組織を再構築し各活動を明確化する等有意義な話し合いがなされた。また、ボランティアについては「チームわかバンク」と銘打ち、より多くの方に参加していただく土台作りができた。
- ・学校内に、「チームわかバンク」の教室を設置し、自由に学校に来ていただき子どもたちを見守っていただいたり、学習支援に参画していただいたりするようにした。「チームわかバンク」の教室には、地域の方の手作りの作品を展示し、子ども達にとっても憩いの場となるよう工夫いただいた。



【「チームわかバンク」の教室での話し合い】

■ 事業の成果

- ・今年度は学校支援本部事業の組織作りを行い、各活動のチーフを決定し、チーフによる話し合いの場も計画的に設けることができた。その結果、それぞれがどんな活動を行い、どんなところに課題があるか等情報交換ができ横とのつながりができた。また、今後の方向性等も話し合えたことも有意義であった。組織作りとともにボランティアを募集したことでその数も増加した。学校側も、学習支援等の依頼を一本化できたことで、連携がスムーズとなり学校支援活動がより効果的に実施できるようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・本校は開校以来20年目の新しい学校であり、新興住宅が多い等の事情もあって、地域や保護者の教育力が弱い。そのため、本事業のねらいを理解してもらいボランティアの人数を増やしていくこと、特に若い世代の方に積極的に学校支援に関わってもらうよう今後進めていく必要がある。

■ その他

- ・同じ中学校内でも、学区ごとに学校支援に対する意識や取組に差が見られる。互いの実践を日頃から交流し、中学校ブロック全体が盛り上がっていきけるよう、さらに連携を深めていければと思う。

■ 地域が支える教育活動の充実（亀山小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・亀山小学校
■ 関係する学校
亀山小学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校 南中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	30人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

学校地域支援本部地域コーディネーターに、様々な地域学習や教育活動の支援に必要なボランティアを見つけ依頼していただいている。教員のニーズに応じた人材を見つけていただき、教育活動の充実につながっている。

■ 特徴的な活動内容

① ふるさと学習への支援

本校の子どもたちに、「亀山大好き」というふるさとへの思いをもたせるために地域学習の充実を図っている。

本年度は5月13日に、全校で「茂賀山学習」を行った。学校の裏側にある小さな山で、学習や遊びなどで子どもたちが登り、利用している茂賀山の歴史について、地域コーディネーターやボランティアから話を聞いた。いつも慣れ親しんでいる山の話に子どもたちは興味津々に耳を傾けていた。

3年の地域学習や2年の生活科などでも、ボランティアの方々から地域のことについて詳しく話を聞き、ふるさとへの思いを深めることができている。

年度末には、亀山っこ発表会を学校で開催し、お世話になったボランティアの方々を招き、1年間のふるさと学習の成果を披露している。

② 家庭科学習への支援

家庭科のミシン学習や調理実習に、ボランティアをお願いした。子ども一人一人への支援が充実し、満足のいく活動となっている。

③ 学力向上への支援

夏休みに、3年生以上の希望者を対象に学力補充教室（算数教室）を開催している。今年度は、地域の教員OB10名に入っただき、個別指導に当たっていただいた。

④ クラブ活動支援

クラブ活動への支援として、茶道や華道について教えていただいている。ボランティアの方の熱心な指導のもと子どもたちは生き生きと活動に取り組むことができている。



【ふるさと学習・地域学習への支援】



【クラブ活動支援・華道】

■ 実施に当たっての工夫

- ・本校では、地域コーディネーターを退職教員にお願いしている。学校の事情に精通し、ニーズについてもよく理解していただいている。
- ・担当教職員と地域コーディネーターとの打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについて十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。
- ・毎週金曜日の放課後に定期的に地域コーディネーターに来校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしている。
- ・校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援の様子を子どもや保護者、地域に発信している。

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターに学校のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。
- ・小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に行事を実施することができている。
- ・ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感することができた。
- ・地域とのつながりが希薄になりがちだが、支援を受けることで子どもたちは地域でもボランティアに挨拶をするなど、かかわりを深めることができている。

■ 事業実施上の課題

- ・現在の地域コーディネーターには、大変よく動いていただいている。しかしながら、次年度は辞退される予定であり、今後同じように動いてくださる方が見つかるか心配である。
- ・地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。

■ 地域と学校・生徒で創る地域活動・・・地域のお役に立てる彦中生！（彦根中学校）

■ 彦根市	コーディネーター数	4 人
■ 活動名 彦根中学校区支援地域協議会・彦根中学校	ボランティア登録数	32 人
■ 関係する学校 彦根中学校・高宮小学校・河瀬小学校	開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

①緑のカーテンプロジェクト

昨年度から取り組み始め、2年目。3教室分のゴーヤのカーテンに取り組み。

②学校行事などに参加・協力

地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集。

- ・長距離遠足の交通指導・給水活動など
- ・合唱、体育大会など大きな行事時の駐車場案内
- ・校地内の環境整備・・・葉刈り、除草作業など

③地域貢献活動への参加協力

自治会長さんに中学生が参加できる行事を報告依頼。全校生徒に活動を案内し、ボランティアを募る。

④ゲストティーチャーによる特別講義

- ・助産師による性教育（1年）
- ・職場体験前のマナー講座（2年）
- ・蘭の栽培講習（特別支援学級）

■ 特徴的な活動内容

☆緑のカーテンプロジェクト

取り組み2年目。「今年は、特選をねらおう！」を合い言葉に生徒と地域の方と力を合わせて取り組む。

5月上旬：3年生の学年集会で取り組み説明

近隣のビニールハウスで種まき・ポットに移植（ボランティア生徒19名・地域の方6名）

中旬：支柱立て・ネット張り・プランターに移植（ボランティア18名・地域の方20名）

中旬～ 生徒会環境委員による水やり。休日は、活動中の部活動による水やり

6月以降：地域コーディネーターによる追肥 夏休み：部活動で水やりを分担

10月中旬：ゴーヤの撤去作業（ボランティア20名・地域の方15名）

昨年以上に地域・学校・生徒が協力でき、今年度は特選を受賞した。

☆地域貢献活動への参加

「地域にお役に立てる彦中生！」を目指して、地域貢献活動に積極的に参加できる生徒の育成に力を注いだ。

- （1）年度初めに自治会長さんに年間行事やボランティア活動で中学生が参加できるものを報告依頼する。
- （2）報告された活動・行事を生徒に知らせ、ボランティアを募る。
- （3）参加希望の生徒は申込用紙を提出する。
- （4）希望者をまとめて活動団体に参加者名簿報告する。
- （5）参加要項を聞き、希望生徒に配布する。
- （6）参加生徒は、活動後に報告書を提出する。
- （7）年度末に活動参加の多い生徒を表彰する。

■ 事業の成果

- ・緑のカーテンプロジェクトについては2年目でもあり、スムーズに取り組むことができた。また、移植や水やり、撤去作業など委員会や部活動、ボランティアなど多くの生徒の参加が得られた。
- ・本校の伝統行事である長距離遠足については、地域の理解も深まり支援してくださる地域の方々も多く、当日中学生に声をかけてくださるなど学校支援の輪も広がってきている。また、生徒たちも地域に守られていることを実感できた。
- ・生徒の地域行事への積極的な参加により地域の中学生の見方が変わり、がんばる中学生の姿を肯定的に見ていただけるようになった。一部の地域行事においては、中学生の協力が不可欠となっているものもあり、地域の一員として活動の場が広がってきている。中学生自身も成就感や自己存在感を感じることに繋がっていると思われる。
- ・ゲストティーチャーについては、小学校・中学校ともに来ていただいている人もあり、生徒や小中でのつながりを知った上での講話をしていただけたのでよかった。

■ 事業実施上の課題

- ・地域ボランティアの方々の仕事との関係から日程調整が難しい面がある。
- ・まだまだ、担当者と地域コーディネーター中心の活動になっており、全職員の関心事にはなっていない。
- ・学習支援をしていただける人を探していたが、なかなか地域の方で協力していただける人が見つからない。中学校の学習となると壁を感じられるようである。
- ・地域にはさまざまな技術や職種の支援者がおられることがわかり、今後、さらなる事業の充実が図れるような取り組みを進めていきたい。



【ゴーヤの栽培】

■ 町の先生は遊び名人 ～わくわく交流会でいっしょに遊ぼう～ (高宮小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
彦根中学校区支援地域協議会・高宮小学校
■ 関係する学校
高宮小学校・河瀬小学校・彦根中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	80 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

- 地域の高齢者の会「和楽会」の方と高宮文化協会の方、合わせて約50人に学校へ来ていただき、昔の遊びなど、様々な遊びを教えてください、一緒に体験したりしている。
- 今年度も6月19日と11月17日の2日、13:30～14:15の時間帯に来ていただいた。遊びの内容は、彦根・高宮カルタ、カロム、将棋、すごろく、トランプ、お手玉・めんこ、けん玉・おはじき、こま、あやとり、石けり、ゴムとび、カンぼっくり、まりつき、紙飛行機、おどって遊ぼう の15の遊びである。

■ 特徴的な活動内容

- 「おどって遊ぼう」では、「地域のおどり『高宮音頭』を子どもたちに伝えたい。これからも残していきたい。」という高宮文化協会の方の強い思いから、高宮音頭を取り上げていただいた。振り付けをていねいに教えてもらい、みんなで心を一つにしておどることができた。
- 3年生の総合的な学習「たんけん！発見！わたしたちの高宮」では、約20年前に作成された高宮カルタを利用して、高宮の歴史を学ぶきっかけをつくっている。そのカルタをわくわく交流会でも取り上げ、遊びを通して地域に親しむ活動としている。子どもたちが札を取った後に、読み札にまつわる話を聞きながら進めていただいた。子どもたちは、何気なく読んでいた高宮の場所で「昔こんなことがあったのか」「だからこういう名前がついているのか」等再発見しながら、カルタを楽しむことができた。
- 「紙飛行機」では、「折り方一覧」のプリントを全員分用意してきて、ていねいに折り方を教えてくださった。誰の紙飛行機が一番よく飛ぶか、長く飛ぶか、きれいに飛ぶか等判定をしてくださったり、うまく飛ばない時は改めて作り方を教えてくださったりした。そして、子どもたちは自分が満足する紙飛行機を完成させ、大事に教室に持ち帰り、他の子に飛ばして見せる姿も見られた。



【紙飛行機づくり】

■ 実施に当たっての工夫

- 交流会終了後、各教室で一人ひとりが活動を振り返り、一緒に活動してくださった方へのお礼状を書いている。各クラス数点の手紙をまとめてお渡しし、手紙を通しての交流も図っている。
- 交流会の進行や準備、後片付けはわくわく委員会の子どもたちが行った。控え室となった会議室からそれぞれの活動場所への案内、交流会終了後に再び会議室に案内して、お茶を出しお礼の気持ちを伝えるところまでを子どもたちが行った。

■ 事業の成果

- カロム以外は人数の制限がないため、子どもたちは自分がやりたい遊びを自由に選んで、異学年の友だち・町の先生と一緒に楽しい時間を過ごすことができた。その遊びが上手にできるコツを教えていただいたり、町の先生と直接対戦したりして、交流会終了後は、とても満足そうに各教室に戻って来る子どもたちの姿が見られた。
- 和楽会とは年2回のわくわく交流会の他に、町の先生として来校いただき、3年生が「昔の遊びやおやつ作り」を教えていただく機会をもちたり、6年生が「三世代交流～餅つき大会～」で交流したりしている。ふれあいが日常化することにより、子どもたちと和楽会会員との間には、親和な関係が築かれてきている。



【和楽会・あやとり】

■ 事業実施上の課題

- 町の先生による月2回の読み聞かせ、安全ボランティアによる毎日の登下校時の見守りをはじめとして、本校の子どもたちは地域の方々の大きな支えをいただいて、日々生活をしている。わくわく交流会に来てくださった人をはじめ地域の方に対する「ありがとうございます」の気持ちが、学校以外の場でも自然と表れ、伝えられるように、活動を継続していく。
- 学校から和楽会の役員へ「こんな内容でお話しをしてほしい。こんなことで協力をしてほしい。」と伝えると、喜んで手伝いをしていただいている状況である。今後、6年生の「平和学習」で戦争体験の話を聞かせていただく等、新しい分野でも協力をお願いしていく。
- 教師一人ひとりがこの事業の意義を理解し、自らがコーディネートできる力をもつことが必要である。そのためには、教師が進んで地域に出かけ、まずは地域を知り、情報を収集・教材化していかなければならない。

■ 地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～ (河瀬小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
彦根中学校区支援地域協議会・河瀬小学校
■ 関係する学校
河瀬小学校・高宮小学校・彦根中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	78 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

子どもたちが、地域の先生から体験を通して学んだ学びを地域へ還元することで、よりよい地域・学校づくりを目指して、「地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～」を合言葉に、数年来、学校支援地域本部事業を展開している。

本年度も、5月の「田植え体験」「緑のカーテン作り体験」からはじまり、年間を通じて様々な学校の体験教育活動に支援をしていただいた。毎日の交通指導にも各地域で多くのボランティアに児童が安全に登下校できるよう支援していただいている。

本校で実施しているどの活動も子どもたちの学習活動を充実させることに役立っている。ご協力いただく方々の専門性を活かした活動や、学校職員が時間的な制約があってもなかなか取り組めないような活動への支援が多く、学校教育の助けにもなっている。

■ 特徴的な活動内容

「まちたんけん」

3年生の社会科「わたしのまち みんなのまち」で東西南北、4方向に4回、学校のまわりの町探検に出かけている。それぞれの地域で、歴史や地域のよさ、特徴的な地域の取組などをボランティアの方にお話ししていただいた。特別支援学級の児童も地域の学習として町に出かけた時には、お話を聞かせていただいた。

実際にその場所で、地域に住み、地域を守り育てている方からお話を聞くことは、自分たちの地域を知るだけでなく、自慢や誇りに思えるよい活動となった。

「学習支援」

本年度は、書写の学習支援に数名の方が登録してくださり、毛筆の指導を中心に、年間を通して授業の支援に来てくださっている。また、音楽科の合奏、合唱の指導や家庭科のミシンの指導など実技面での支援にも来ていただいた。個別に、すぐ近くで、または手を取ってふれあひながらの指導を受けられた。専門的な知識や技能をもった方の指導は、子どもたちの学習の意欲の向上にもつながっている。

「米作り 緑のカーテン」

5年生の「米作り」4年生の「緑のカーテン作り」のそれぞれの取組も数年来続けている。「米作り」では、「田植え」「稲刈り」「脱穀」といった活動を指導、体験させていただいた。「緑のカーテン作り」では、一緒にゴーヤやヘチマの苗を植え、蔓が広がるようにする摘心の仕方を教えていただいた。

「米作り」「緑のカーテン作り」ともに、知識や技能、また、子どもたちが体験するためには道具や機械準備が必要となる。また、植えた後の長い生育期間には順調に育つように様々な支援もしていただき、活動が成り立っている。

■ 実施に当たっての工夫

毎年続けて取り組んでいる活動については、ボランティアの方も続けて取り組んでくださっている方が多く、前年の成果や課題を踏まえながら、少しずつ変化を加えている。米作りでは、本年度新たにかかしの制作にも取り組んだ。また、まちたんけんのお話は、地域コーディネーターの方に連絡を取り、人材を紹介していただいた。

■ 事業の成果

ボランティアの方は、毎年続けて、また、年間を通して何度も指導に来てくださることで子どもたちも慣れ親しみ、気軽に話しかけアドバイスもらえるよい関係となっている。それぞれの得意な分野で保護者の方のみならず、地域の方が身近な先生となって教えてくださり、子どもたちはより興味を持ち、個別に指導を受ける機会も増え学習の成果が上がっている。

■ 事業実施上の課題

数年前より、河瀬学区全戸に「各種学校支援ボランティア」の募集をかけ、人材バンクの充実を図っている。本年度も保護者の方のみでなく、地域の方数名が新たに登録してくださり、授業の支援等に活躍していただいている。本年度は3年生の地域探検で地域コーディネーターを通じて人材の紹介をしていただいた。しかし、ボランティアの固定化や高齢化は大きな課題で、その確保は喫緊の課題である。今までのような地域コーディネーター個人の人脉だけで確保するのではなく、公民館などの社会教育施設やブロック内の小中学校の連携・連絡によるネットワークの構築・拡大がその糸口になるのではないかと考える。



【 3年生 まちたんけん 】



【 5年生 米作り 稲刈り 】

鳥居本学校サポートオフィスの取り組み (鳥居本中学校)

■ 彦根市
■ 活動名 鳥居本中学校区支援地域協議会・鳥居本中学校
■ 関係する学校 鳥居本中学校・鳥居本小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	200 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

○学習支援

実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校していただき授業支援を行った。今年度は、技術・家庭科(家庭)、保健体育科、美術科、理科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書、夏・冬休みの補充学習の支援で実施した。

- ☆1・2年家庭科(1・2年ゆかたの着付け、2年和菓子づくり、2年郷土料理について：3学期実施予定)
- ☆3年理科(天体：3学期実施予定)
- ☆3年人権学習(部落問題学習)
- ☆各学年絵本の読み聞かせ
- ☆総合的な学習の時間(3年卒業研究)
- ☆3年美術(茶道体験：1月実施予定)
- ☆夏・冬休みの補充学習
- ☆1～3年保健体育科(剣道：1月実施予定)

○環境支援

- ☆グラウンドの芝生の草刈り作業や水やり

■ 特徴的な活動内容

○男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験することで、森林の保全と有効な活用との調和について理解する。

- ☆1年…植樹 2年…間伐 3年…活用する

○地域との連携

地域の行事に生徒が参加し、地域活性化の一翼を担っている。

- ☆宿場祭り ……鳥中ソーランの披露
- ☆学区の運動会……吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏 ……中学生が役員として活動
- ☆学区の文化祭……鳥中ソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究の発表

○さんあかレンジャー

鳥居本中学校のキャラクターとして3年前に生徒より考案された、さんあかレンジャーが、地域の支援により今年着ぐるみが完成し、さっそくあいさつ運動で小学校に行って活躍している。

■ 実施に当たっての工夫

鳥居本地区域教育協議会を年3回持つことにし、1学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。2学期には中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。また、3学期には年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■ 事業の成果

○地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、生徒の励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。

○学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老社会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取り組みや、3学期には、1年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

○今年度も、校外へ出て、茶道体験をする(1月実施予定)ことが大きな収穫であった。地域の教育力を活用できた点が評価できる。

○3年前より、補充学習に学習支援として地域の方が教えに来てくださっている。3年前は、冬休みだけであったが、一昨年度から夏休みと冬休みに来ていただくことができた。このことは大きな収穫と考えている。地域の人材を活用できたということ、地域の方と生徒とのつながりができたということなどの観点からもよかったと考えている。

○地域行事への中学生の参加が、地域の活性化につながっている。

■ 事業実施上の課題

○学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。



【宿場祭り・鳥中ソーラン】



【さんあかレンジャー・あいさつ運動】

「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援 (鳥居本小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
鳥居本中学校区支援地域協議会・鳥居本小学校
■ 関係する学校
鳥居本小学校・鳥居本中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

本校では、教育活動を四つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜び」があり、地域の人・もの・自然を教材にした学習活動を行っている。

1・2年生の生活科のまち探検、自然や生き物との触れ合い、3年生社会科の地域探検、地場産業、3年生以上の総合的な学習の時間の活動、5年生のたんぼのこ体験事業、全校縦割り活動で行うウォークラリー、読書ボランティアによる読み聞かせ（通年）など様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

■ 特徴的な活動内容

○1・2年 生活科 「川遊び」

例年5月に1・2年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行っており、本年度も実施した。青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮して下さる。多年度に渡り地域の協力を得て実施している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。



【生活科「川遊び」】

○3年 総合 「鳥居本お仕事名人」

10月・11月、3年生児童が、もの作りをしておられる工場や工房に見学に行く活動を実施した。醤油を製造・販売されている仕事、消火栓を製造・販売されている仕事、また地域の森林生産組合の組合長さんから話を伺う活動を通して、この道一筋でがんばっておられる地域の方の生き方に触れ、その素晴らしいことに気づくことができた。



【総合「鳥居本お仕事名人」】

○4年 総合 「矢倉川調査隊」

6月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん3名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、身近な川に対する見方を新たに児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かり、児童はその思いをより強くした。

○5年 総合 「米づくり」

小野町在住の方の支援を得て、5年生は米づくりを行った。支援者の計らいで環境こだわり米「みずかがみ」を育てることとなり、児童は地域の産業である稲作を体験するとともに、環境への配慮についても考える機会となった。また、自然の恵みや地域の方々の尽力に感謝する気持ちをもつことができた。

○6年 総合 「ふるさと鳥居本」

5月、6年生は地域の方から鳥居本の歴史について話を聞いた。中山道を中心に歴史的建造物がたくさんあることを改めて知る児童も多く、地域に対する新たな見方ができるようになった。

■ 実施に当たっての工夫

活動の事前に担任が協力して下さる地域の方を訪ね、綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを担任から明確に伝えることが大切である。

■ 事業の成果

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを深めることができた。

■ 事業実施上の課題

地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域の教材開発を行っていききたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。

■ 全校園一致した学校支援の広報活動 (稲枝中学校)

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝中学校
■ 関係する学校
稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ふたば保育園・ことぶき保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	8 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

稲枝中学校区支援地域本部事業は、8年目になり各校園の支援活動は充実・深化してきているところである。支援組織においても連合自治会をはじめ各種団体で組織する「学校支援協議会」が中心となり、学校・園支援活動の輪が確立している。現在96名の登録ボランティアの皆さんが、学校や園の要望に沿いながら、「読み聞かせ」をはじめ、登下校見守り、校地内の環境整備、地域学習の講師、野菜花づくりの指導、学習の補助支援など、校園の特色に合わせてさまざまな活動を展開している。また、本事業は、一昨年度から「いじめ対応」の視点による支援として、校・園内はもちろん登下校中や地域での児童・生徒に対してきめ細やかな寄り添い支援を続けている。

■ 特徴的な活動内容

《広報活動》

これまで学校支援事業を実施していくのに、年2回の協議会と6回の委員会を開催して活動の内容や運営の方法などを協議してきたが、常に課題としてあがっていることは、次の3点である。

- ①いかにボランティアの輪を広げていくか
- ②後継者をいかに見つけ育てていくか
- ③持続可能な事業としての活動や組織はどうあるべきか

「子どもは地域(家)の宝だ」だからきちんと育ててほしいと願うのは、地域(保護者)の共通の思いである。学校任せでなく家庭や地域が協力支援をして子どもを育てていかねばならない。その一環としての学校支援事業であるが、上記3点のような課題が挙がっている。それには、本事業の趣旨や意義、活動の様子を地域のみなさんや保護者の方に知ってもらうことが大切だということで、稲枝中学校区支援地域本部では、次の2点の広報活動を実施している。

1、広報紙「いなっ子」の発行(事業発足当初からの取り組み)

年4回、稲枝地区全戸(約4500戸)に自治会長さんを通して配布している。内容は次の通りである。

- ・学校支援の意義
- ・ボランティアのお願い(募集要項)
- ・ボランティアの活動の様子
- ・ボランティアの活動後の感想
- ・読み聞かせの様子と子どもの感想
- ・学校からの声

本年度末で32号を発行することになるが、今後も紙面を工夫しながら継続して発行しなければと考えている。



今年度発行の「いなっ子」



稲枝中学校 廊下掲示

2、学校掲示板(今年度の重点的な取り組み)

学校支援活動を知ってもらい理解してもらうのに、目に見える形で伝えることが効果的だという

意見が第1回評議員会で出た。現在、3小学校、1中学校、1幼稚園、1保育園で、玄関や職員室前廊下などに活動の写真を中心に掲示されている。それぞれの校園では工夫した掲示が見られる。稲枝北小学校では、読み聞かせの後に読んだ本の表紙とボランティアの名札をデジカメに撮り、読み聞かせ日程一覧表に掲示され、本選びにとっても役立っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・広報「いなっ子」では、校園に偏りなく満遍に掲載していくことと、誌面構成で写真なども多く取り入れ読みやすい物となるよう努力している。
- ・学校掲示板では、学校支援担当の先生に負担のならないよう校園なりの掲示にさせていただいている。

■ 事業の成果

- ・広報「いなっ子」を見て新たにボランティアに参画していただいたり、「稲中生、よう頑張ってるな。」との声を聞いたりすると「いなっ子」を発行してよかったと感じる。
- ・ボランティア活動を「いなっ子」に掲載したり廊下掲示することにより、学校支援活動を理解してもらうと同時にボランティアの輪を広げたりボランティア活動の励みにもなっている。

■ 事業実施上の課題

広報活動では、誌面の都合や発行費用の面で全てを掲載するわけにいかない。毎年同じような支援活動をしている中で、どこにスポットを当て、いかにインパクトのある誌面や掲示にするかが課題である。また、読者が広報を手にとった時、学校を身近に感じたり、学校を支援していこうとする気持ちになってもらうことも大事だと考えている。

■ 子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動 (稲枝東小学校)

■ 彦根市
■ 活動名 稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝東小学校
■ 関係する学校 稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝中学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	19 人
開始年度	平成20年度

■活動の概要

本校区にはJR稲枝駅があり、近年、駅周辺の開発が進み、新興住宅地が増えつつある。それでも校区全体から見れば、二世帯・三世帯家族があったり、スポーツ大会や祭りが開催されたりするなど、地域住民同士の関わり合いが多い校区と言える。そのような校区で子どもたちは生活をしているが、地域と繋がり合いの深い子どもは、大人のそれと比較するとあまり多くない。習い事やスポーツ少年団などで休日を過ごす子どもが多く、あまり参加できていないのが現状である。

本校では、地域の自然や歴史、または人々を題材として、豊かな自然や生活環境、そこに生きる人々から学び、大切に考える教育活動を「地域の力」をお借りしながら推進している。様々な形で地域と関わり合いをもち、子どもたちの学びが豊かになることをめざしている。

■特徴的な活動内容

本校では、「トイレの神様」と称して、校内のトイレ清掃の補助をボランティアの方々からお世話になっている。日ごろから校内の清掃をしている子どもたちだが、水を大量に使うなど教室清掃とは仕方が変わるため戸惑う子どもが多い。そこで、ボランティアの方々のお力を借りて、手際よく美しく清掃する仕方を教えていただいている。子どもたちは仕方を教わるとともに、ボランティアの方々とのふれあいを通して、敬語をはじめとする人との気持ちのよい関わり方を学ぶことができる。



【掃除に取り組む様子】

また、地域の温かいまなざしにふれることで「わたしたちのために来てくださっている」と感じ、感謝の気持ちや「自分も学校を大切にしたい」という愛校心を育てることに繋がっている。

■ 実施にあたっての工夫

日々、お世話になっている「トイレの神様」だが、トイレの掃除のみならず他の面においても支援や配慮をいただける。ボランティアの方々1年を通して継続的に関わってくださるので、子どもたちの人間関係にまで留意いただくケースがある。日々、コミュニケーションをはかり、学校との間の風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく上で大切であると感じている。

■ 事業の成果

○ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介して下さることも多く、学校支援への熱い思いがボランティアの方々の中で受け継がれている。

○従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄ってくださっている。

○年間を通して関わってくださる活動が多く、子どもたちの人間関係にまで留意いただくことも多い。子どもたちの気になる言動については直ぐさま学校へ情報を伝えてくださり役立たせてもらっている。

■ 事業実施上の課題

栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

■ 地域とともに 学びの充実をめざして (稲枝西小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝西小学校
■ 関係する学校
稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝中学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	35 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

新入生が毎年20名を下回るようになり、全校児童数が年々減少している。今までどおり、活動を続けていきたいことがたくさんあるのだが、子どもたちや職員だけでは無理が生じてきた。また、子どもたちの視野を広めたり、いろいろな経験や体験をさせたりして心豊かな子どもに育ててほしいと願っているが、交通機関が不便な地でもどこへ出かけるのにも時間がかかり、あきらめざるを得ないことも多い。

本事業では、地域の方々のたくさんのお力を借りながらいろいろな経験や体験を通し、子どもたちを心豊かに育てたいと願っている。そして、地域の方とふれ合うことで、ふるさとやそこに住む人々を愛する心を育てたいと願い、活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

○地域をあげての花づくり…毎年、春と秋に学校や地域にたくさんのお花を咲かせている。特に、学校のメイン花壇やサブ花壇、中庭には、フラワー委員が中心となって育てたお花が咲き誇る。その準備としての種まきや土おこし、植えかえ、草刈りなど子どもたちの活動時間に合わせて地域の方に協力いただいている。

○読み聞かせ…10名の方がいてくださり、各学年の発達段階にあった本を選び、読み聞かせをしていただいている。

○クラブ活動…昨年度に引き続き、子どもたちにいろいろな経験や体験をさせたいと考え、地域の方をお願いをした。ホッケークラブ・ダンスクラブ(聖泉大学)・工作クラブ・茶道クラブ(それぞれ地域の方)を立ち上げることができた。運動会や音楽会などでその成果を披露することもできた。

○学習…「総合的な学習の時間」では、各学年で地域学習を組み込んでいる。3年では「地域の名人・達人」「昔の暮らし」、4年では「地域に残るわき水」、5年では「米作り」「人にやさしい町づくり」、6年では「町のお宝」「平和学習」である。それぞれの活動の中で、たくさんのお花の方に来ていただき、話をさせていただいたり、現地で説明をしていただいたりしている。

毎年、学習でもお世話になっているので、子どもたちが、地域の方やふるさとを愛する気持ちを膨らませていることを感じている。



【楽しみにしている読み聞かせ】



【はえみの会の方と一緒に田植え体験】

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちと一緒に活動していただくことを大切にしている。そのため、まず始めに、地域コーディネーターさんに活動内容を事前に話しておき、実際に活動する日が決まったら、また、連絡を取らせていただくようにしている。その間に、コーディネーターさんが人材を集めていただいている。当日は、希望どおり、たくさんの方が来てくださり充実した学習ができている。

また、私たちをサポートして下さる地域のボランティアさんがいてくださることや、どんなことをサポートしていただいているのかを全学年の子どもたちが知っているべきだと考える。そこで、1学期に、全校児童と地域ボランティアさんとの顔合わせを行った。いろいろなところで、私たちや私たちの学校を支えてくださっていることを知り、感謝の気持ちを持つ機会としている。

■ 事業の成果

何度か来ていただく内に、顔見知りになり、親しみを感じるようになる子どもたち。安心して話しかけたり活動したりすることができた。また、新しいことに挑戦できる機会が増え、生き生きと活動する姿も見られた。支援していただく内容も様々、年齢層も様々。こうした幅の広い支援者の方がいてくださることもよかった。また、子どもたちと活動を共にしていただくことで、子どもたちの日常の姿を知っていただけることも大きな成果である。

■ 事業実施上の課題

たくさんの方にお世話になっているにもかかわらず、子どもたちにとっては一部の方や短い交流で終わってしまっている。もう少し、じっくりふれ合う機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝える場も持ちたいと願う。

また、学校・地域・家庭の交流が深まり、相互の信頼関係が深まり、地域ぐるみで子育てができるように、今後の活動も充実させていきたい。

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして（稲枝北小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝北小学校
■ 関係する学校
稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝中学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	45人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校は小規模校で、地域は少子高齢化が進み、どのように地域を活性化していくかも課題となっている。この地域には、すばらしい歴史や伝統があり、また、それを支える堅実で温かな地域の人々が存在する。そんな地域性を生かし、子どもたちには、地域のよさを知り、この地域に生まれ育ったことに誇りや自信をもち、さらに、地域を支える一人として行動できる人に育ってほしいという願いをもち、教育活動を行っている。このことは、地域の活性化にもつながるのではないかと考える。その地域のよさを学ぶことを、各教科や総合的な学習の時間に各学年で進めており、その学習は地域の方の協力により成立している。また、行事等でも小規模校の悩みである教職員数の少なさをカバーしていただき、学習、環境整備、行事など様々な場で、学校と連携しながら適切なサポートをしてくださっている。また、これらの活動はボランティアと子どもたちが互いに理解し合う機会にもなっている。

■ 特徴的な活動内容

①おはなしタイム（隔週木曜朝 8:15～8:30 各教室で読み聞かせ）

- ・おはなしボランティア7名。絵本等の読み聞かせや紙芝居など。
- ・学期末に行うお話ボランティアの交流会では本の選び方などを交流している。

②環境整備活動

- ・ひょうたん栽培、米作り、農園づくり、花壇づくりなどの支援。
- ・まちづくり協議会の方々による校内の環境整備・・・池の掃除、運動場や砂場の整備、植え込みの刈り込みなど。

③各教科学習活動（ゲストティーチャー）

- ・焼きいも体験（1・2年）・米作り・縄ない体験（3年）・曾根沼干拓について学ぶ（4年）・琵琶湖の昔と今（5年）・未来に残したい地域のよさを見つけよう・戦争中のお話を聞こう（6年）・ミシン学習補助・書き初め指導・栽培環境委員会への苗作り指導（高学年）など、様々な場で支援していただいている。

④登下校見守り（スクールガードボランティア）

- ・下学年、上学年の下校時に共に歩いてくださる。スクールガード講習会にも多数参加して下さり、子どもの安全を守る活動に多くの方が協力してくださっている。

⑤「稲村かるたオリエンテーリング」（平成27年5月22日実施）

- ・今年度で26年目の本校恒例の行事。豊かな自然につつまれ、文化財を巡りながら、郷土のよさを知り、自然や文化を愛し、郷土を愛する心を育むことをねらいとしている。縦割り班グループでオリエンテーリングを行うことで、異学年の児童間の協力と信頼の気持ちを育てることができる。今年度は、上西川・上岡部・田原・出路方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を巡った。各班には、支援ボランティアの方が複数名ついてくださり、安全も確保できた。各ポイントでは、地域の学習支援ボランティアの方による説明を熱心に聞いたり、問題に答えたり、お寺の鐘をつく体験をしたりと有意義な活動となった。



【環境整備作業：池掃除】



【稲村かるたオリエンテーリング出発前】

■ 実施に当たっての工夫

年度当初に学校からボランティア募集をする際、具体的にどんなことが可能かを選ぶ様子に変えたところ、新たにボランティアとして登録して下さる方もあった。また、ボランティアとして活動してくださっている方が様子分かるよう玄関前に掲示コーナーを作ったり、全校集会で子どもたちとの顔合わせ会を行ったり、行事の折にボランティアを紹介する場をもったりし、感謝の気持ちを表せるようにしている。

■ 事業の成果

地域の宝、よさを実感でき、自分のふるさとに誇りをもちることができた。また地域の大人の皆さんと交流することで、つながりが生まれ、他の場で出会ったときに挨拶ができるようになった。地域の方が子どもたちと密接に関わる中で、気になる言動や、1人で登校する児童の存在など、家庭環境、人間関係の変化などに気づき、学校へ情報をいただくことで、早めの対応につながった。

■ 事業実施上の課題

ボランティアを直前にお願ひすることもあり、無理が生じることもあるため、見通しをもち、適切な時期に余裕をもってお願ひできるようにしていきたい。また、現在多くの方に支援していただいているが、十分なお礼の気持ちを表せていないように感じる。学校全体で意識を高め、ボランティアの方々にとってのやりがいにつながるよう、感謝の気持ちを表したり、交流したりする場を大切にしながら進めていきたい。

■ 近江八幡市における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

各校園に学校支援地域コーディネーターを配属し、地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する。そのために各校園に「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりの確立をめざし、次の3点を柱に事業を展開する。

- ①地域の教育力の活性化
- ②地域の人が社会教育で学んだ成果を活かす場づくり
- ③教員が子どもと向き合う時間の拡充

■ 本年度の活動

- 4月28日（火）事務局会議（学校担当者対象）〔安土支所〕
- 4月30日（木）事務局会議（コーディネーター対象）及び委嘱式、情報交換会〔安土支所〕
- 5月29日（金）コーディネーター研修会（通信の作り方講座）〔ひまわり館〕
- 7月27日（月）学校支援メニューフェア in 近江八幡〔金田小学校〕
- 10月2日（金）滋賀県社会教育研究会（安土幼稚園の取組発表）〔ピアザ淡海〕
- 2月18日（木）成果発表会〔老蘇コミュニティセンター〕

■ 本年度の成果

本事業を継続して進めてきた結果、地域の中での理解者が増え、コーディネーター間の連携や情報交換によってボランティアとして協力して下さる方々の活動の範囲が広がりを見せている。また、夏休みに開催した「学校支援メニューフェア in 近江八幡」においては、市の社会教育関係団体の研修も兼ねて参加者を募り、より多くの人に認知されることとなった。出展いただいた各企業の団体や企業の模擬授業や展示ブースは学校にとって具体的にイメージしやすいため好評であった。

■ 今後の課題

校園が必要としているボランティアの発掘が大切なため、他校園のコーディネーターの取組や他市の活動などの情報を収集しながら、それぞれの校園の状況に合わせた活動の広がりや深まりを探っていきたい。

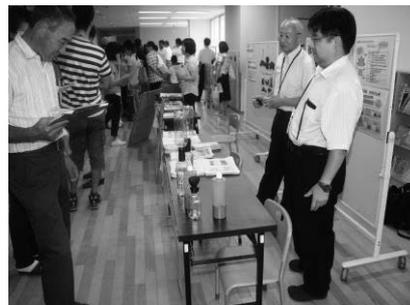
学校支援メニューフェアについては、出展者も参加者もともに納得と満足ができ、生き生きとした子ども達の姿に結びつくようなものとなるよう、さらなる内容の工夫を加えていきたい。

■ その他

平成23年度から人生の先輩として地域住民のもつ生き方・知恵や技術を伝承していくために、学校・園にゲスト講師を派遣できる「近江八幡人生伝承塾」を組織し活用している。「人生伝承塾」に登録していただいた講師陣のリストを作成し、小中学校に講師として出向いていただいている。



【メニューフェアの様子】



【メニューフェアの様子】

■ 地域の宝を学校に！（八幡小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡小学校支援地域本部
■ 関係する学校
八幡小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	117 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

「地域の宝を学校に！」をテーマに本事業を展開して4年目になる。コーディネーターをつなぎ役として、豊かな体験活動や地域資源を生かした特色のある学習の創造を実現するため、ボランティアの方々の協力を得て実践を深めている。その中で、学校と地域、家庭の連携が一層強まり、地域ぐるみで子どもを育てる風土をつくることを目指している。

■ 特徴的な活動内容

今年度、新たにボランティア登録をしていただいた方が8名あり、4年目は117名となった。活動は大きく分けて次の6分野にわたっている。

- ①環境整備…花壇整備、花の植え替え、樹木剪定、生け花、図書事務、テント設営・撤収
- ②絵本の読み語り…1、2年は毎週、3年は隔週、4年は1ヶ月に1回、朝10分間
- ③学習支援…水泳補助、合唱伴奏、ミシン補助、ソーイング補助、ヨモギ団子作り、ピザ作り補助、さつまいも調理補助、おでん作り補助、八幡堀学習、デイキャンプ指導補助、組み体操補助など
- ④児童引率補助…校区たんけん、町巡り、八幡山引率など
- ⑤クラブ活動支援…家庭科クラブ、日本伝統文化クラブ、卓球クラブなど
- ⑥栽培活動支援…さつまいも栽培、夏野菜作り、へちまの棚作り、大根作り、北之庄菜作りなど

■ 実施に当たっての工夫

今年度は、1階ホール横にボランティアルームを設置した。ボランティアの方と打ち合わせをしたり、活動前後にボランティアの方々に休憩をしていただいたりできる部屋である。これにより、ボランティア活動を通して地域の方々自身がお互いにつながりを深めてくださることもできると考えた。また、活動内容を幅広く知ってもらうため、校内の掲示板を活用して実施内容を紹介した。同時に地域の方にはコミュニティセンターの掲示板を使って活動の様子を発信した。

ボランティアの方々と教職員には「ボランティア通信」を発行することで、他学年の実施内容を互いに知ったり、ボランティアの輪が広がったりすることを目指した。自治会へは、年度の終わりに本事業の活動の報告とお礼を兼ねて文書回覧をしている。

年度末にボランティア交流会をもち、6年生を送る会を参観するとともに1年を振り返っての成果や課題を確認し合っている。



【育てた野菜を使ったピザ作り（2年）】

■ 事業の成果

- ・ボランティアの方々に学習支援をしていただく中で、教職員が豊かな体験活動や地域資源を生かした特色のある学習を創り出すことが比較的容易になった。
- ・子どもたちは、地域のボランティアの方々から学んだり、支えていただいたりする中で様々な人とのふれあいにつながりができ、地域に生活する一人としての自覚が芽生え、地域への愛着が深まった。
- ・ボランティアの方々は支援して下さる中で、子どもとかかわる楽しさを味わったり、得意なことが発揮できた達成感を感じたりして、充実した時間を持つことができた。
- ・コーディネーターがきめ細かく動いてくださることで、教職員が打ち合わせにかかる時間を短縮できた。また、コーディネーターの声かけにより、ボランティアの方々が来校しやすい雰囲気を作ってくれた。



【地元野菜北之庄菜栽培（3年）】

■ 事業実施上の課題

- ・新たに取り組む学習については、該当学年の担当がそのねらいを明確にした上で、ボランティアの方々を迎えることになるが、数年間継続している学習の場合、担当が十分ねらいを把握できずにコーディネーターやボランティアの方に頼ってしまうことがあり、体験後の学習の深まりが見られない場面もうかがえる。
- ・毎年、ボランティアの数や活動時間数が増加しているが、さらに教科における日常の学習支援も視野に入れながら、活動の幅を広げるための呼びかけを行う必要がある。

■ その他

- ・子どもたち自身が地域の一員としてボランティア活動を行う体験を模索していくことで、さらに地域との一体化が期待できる。

■ 地域とともに豊かな学びをめざして（島小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 島小学校支援地域本部
■ 関係する学校 島小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	487 人
開始年度	23年度

■ 活動の概要

本校区は「重要文化的景観」の第一号に選ばれた水郷など、豊かな自然や史跡に恵まれた地域であるとともに、「ほんがら松明」やヨシ原の保存に地域を挙げて努めるなど、伝統の継承にも熱心な地域である。また、昔ながらのコミュニティの特徴を色濃く残し、学校に対する期待も大きく、学校への支援にも非常に協力的である。そこで、本校教育目標である「ふるさとに誇りをもち、瞳輝く島の子」のもと、地域コーディネーターを中心に、コミュニティ・センターとも連携を図りながら本事業を展開してきた。子どもたちの学びをより豊かなものにするための学習活動の支援、学習を効果的に進めるための環境整備、安全な下校のための見守り活動の3つの柱で実施している。

■ 特徴的な活動内容

校区内には、琵琶湖、西の湖、ヨシ原、里山、水田、大規模干拓地等や、由緒・歴史のある寺社仏閣があり、自然環境と人々の生活が深く結びついた地域である。そこで、校区内の恵まれた自然・歴史・文化等の環境を大いに生かし学習活動を進めてきた。

特に「菜の花エコプロジェクト」は、3年生の9月から5年生の4月まで、学年を越えて1年半以上の長いスパンで取り組んでいる。地域の祭で松明を作るときに菜種ガラが必要なため、学校周辺の田畑では菜の花が栽培されており春には黄色のじゅうたんが広がる。そのように慣れ親しんだ菜種を題材に地域学習と環境学習を兼ねて取り組んでいる。地域学習においては地域のボランティアの方に年間を通して支援していただき、環境学習においては専門的な機関や地元の高校と連携し進めている。

学 年	実施時期	学習内容
3年生	9月	菜種の種まき 菜種の話（ゲストティーチャー）
	10月	菜種の植え替え 栽培 → 6月
4年生	4月	菜種の観察（理科） 菜種の風景スケッチ（図工）
	5月	菜種の刈り取り 菜種の種落とし体験
	10月	菜種の搾油体験
		バイオ燃料実験 バイオ燃料でカートを走らせる。
	11月	エネルギー・資源の循環学習（他学年へ発表） 絞った油を使った調理 廃油を利用したキャンドル作り
	2月	松明作り
5年生	4月	春の地域の祭で燃やしていただく。



【4年生 菜種の種落とし】

■ 実施に当たっての工夫

刈り取り、種落とし、菜の花植え、松明作り、祭については地域の方々に指導や支援をいただき、搾油やキャンドル作りは専門的な機関の方に、バイオ燃料作り、カートの試乗は、八幡工業高等学校の先生や生徒の方々と連携し実施してきた。また、校舎内の花壇にも菜種を栽培し、理科等の学習とも関連させながら菜種を栽培できるよう工夫している。

また、学習支援においては、授業者（担任）が学習のねらいや計画をしっかりとコーディネーターや地域のボランティアに伝えることを心がけ、担任自らも積極的に地域に関わっていくようにした。

上記の「菜の花エコプロジェクト」の他にも、2年生の「権座（内湖に浮かぶ島）での野菜の栽培と収穫」、3年「ヨシと私たちの暮らし」、5年「ゆりかご水田」など地域の暮らしや自然環境と深く結びついた学習を年間を通して実施している。その際、できるだけ年間を通して同じ方々に支援いただくことで、担任と意思疎通を図りながら学習のねらいに沿った活動が展開できるよう工夫している。



【3年生 ヨシ原でのヨシ刈り】

■ 事業の成果

実際に地域の方と出会い、実体験をもとにしたお話を聞いたり、松明づくりなどを実際に経験したりすることで、地域の豊かな自然、風習や暮らし、先人の知恵にも触れることができる。人を通しての地域学習は、理解のみだけでなく、携わる人の思い、その思いが受け継がれていること（伝統や風習）を感じ取ることができ、子どもの豊かな学びにつながっていると感じている。

さらに、子どもたちの地域や地域の伝統文化への知識や関心が高まり、自分たちの故郷への愛着や誇りが育めると考えている。

■ 事業実施上の課題

本事業の支援体制が定着し、地域学習の充実が図れるようになってきたが、学習活動の時間数には限りがあり活動を精選する必要もある。教科や学習のねらい、学年間の系統性を明確し年間指導計画を見直し、次年度の学習の更なる充実を目指したい。

地域の自然や人と共存した教育の充実をめざす（沖島小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
沖島小学校支援地域本部
■ 関係する学校
沖島小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	約10人
開始年度	平成25年度

活動の概要

本校では、めざす子ども像として、「おもいやりのある子」「きたえあう子」「しまを愛する子」「まなび合う子」を掲げている。沖島の自然や伝統にふれたり地域の人々とふれあったりすることで、郷土を愛する心情を育み、また、交流やたてわり活動を通して、学び合いの経験を積み重ねていきたいと考えている。

その活動の一つとして、地域の方に教えていただいて、沖島の自然を生かした昔ながらの食べ物を作るという取組を行っている。地域の方から児童へ、高学年から次の学年へと、伝統的な食べ物やその作り方が受け継がれている。また、漁業（島民の7割の方が漁業組合に関わっている）といった地域の産業についても、地域の方に協力していただいて、計画的に学習している。他にも、年間を通して野菜作りに関わっていただいている。沖島小学校においては、地域の方の協力が必要不可欠であり、地域と家庭、教師ならびに児童が密接に関わり合いながら、学習活動を行っている。

特徴的な活動内容

【食育に関する学習活動】

- イバラの葉団子作り… 学校の裏手にあるケンケン山に自生するサルトリイバラの葉を採集し、柏餅のようにして食べる。沖島には柏が自生していないため、その代わりとしてサルトリイバラの葉を用いたことに始まる。島内でもお年寄りの方しか作り方が分からなかったため、お招きして教えていただいた。それ以降、毎年自分たちで作っている。他にも、冬イチゴジャムやサクラの塩漬けなども作っている。
- お米作り……………今年度、幼稚園が休園になったことから、幼児用のプールで米作りをした。苗を提供してもらい、田植え稲刈りなどを、教えてもらいながらおこなった。稲の束ね方やもみすりなどを老喜の里のお年寄りに手伝っていただいた。

【産業に関する学習活動】

- 沖島の漁について…… 漁についてインタビューをしたり、実際に漁船に乗せていただいたりして、学習を深めている。今年度は、刺し網漁を見せていただいた。
- フナ寿司作り……………総合的な学習の時間に、沖島の漁や漁師について学習したことをきっかけに、その発展として4年前から始めた。地元漁師の方にニゴロブナを調達していただき、4月にうろこをふくなどして塩切りをし、2月に出荷している。漬けたフナ寿司は学校で保管し、児童が交代で水替えを行っている。



【フナ寿司作り】

高学年が鱗を落とし、エラを取り除く作業を手際よく行った。
2人だけだったので昨年より数は少なかった。



【漁業体験】

漁船に乗せてもらい、漁の実際を目の当たりにした。

【感謝の気持ちを表す学習活動】

- なかよし会……………自分たちで育てた野菜を使って、全児童が協力をしてカレーなどを作り、お世話になった方にふるまう。低学年の児童も、野菜を洗ったり食器を拭いたりするなど、できる仕事を積極的にしている。
- ふるさと集会……………地域の方をお招きして、学習発表会を行う。その際に、地域のお年寄りの方と一緒に、おやつを作って食べるなどして、交流を深めている。

実施に当たっての工夫

- ・前年度に引き続き、地域への発信に力を入れた。学校便りは、地域に配布するだけでなく、食育担当者が作成している食育だよりとともに、通船の中や漁港の掲示板、待合室などにも掲示して、地域の方以外の目にもふれるようにしている。

事業の成果

- ・他の学校ではできない体験活動を体験することができた。
- ・沖島の自然と積極的にふれあい、それぞれの学習に意欲的に取り組むことができた。
- ・島外から通う児童にとって、地域の方とふれあったり、沖島の良さを知ったりする良い機会になっている。

事業実施上の課題

- ・地域の方の高齢化が進んでいるため、それぞれの体験の人材確保が年々難しくなる。
- ・年ごとに学年の人数が大きく変化するために、前年度と同じ取り組みができにくいことがある。
- ・島内の児童の減少により、地域と学校とのパイプが細くなっていく可能性がある。

■ 地域とともに学びの充実をめざして（岡山小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
岡山小学校支援地域本部
■ 関係する学校
岡山小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	約180名（※登録制はとっていない）
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

本校では、平成22年度より本事業に取り組んでいるが、この事業が始まる以前から地域が学校に対しいへん協力的であり、ボランティアや外部講師の方が、多くの学習に関わっていただいている。こうした地域の特性から、ボランティアの登録制はとらなくても、学校が要望する人材等を地域コーディネーターに依頼することで、環境整備や学習支援など学校と地域が連携したさまざまな学習を展開している。

■ 特徴的な活動内容

（1）「田んぼの学校」、野菜づくり支援

2年生と5年生の異年齢交流として、営農組合、農業委員さんたちやJAの方の支援・協力を得ながら田植え、稲刈りの体験活動に取り組んでいる。また、米作りの他に野菜づくりにも取り組んでいる。地域の野菜づくり名人に来ていただき、土作りから世話の仕方などを教えてもらい、夏野菜・冬野菜を育て収穫する。地域コーディネーターの企画で、2年生の校区探検のコースの一つに、地域の方に呼びかけ、野菜畑で作業してもらい、見学やお話を聞かせてもらった。また、11月には、米作りや野菜づくりでお世話になった方を招待して収穫祭を開き、五平餅をいっしょに作って食べながら、地域の人や自然食に感謝する活動を行った。



【2・5年 収穫祭 五平餅作り】

（2）福祉学習

中学年を中心に取り組んでいる障がい者理解の学習では、視覚障がい者の方や車椅子生活をされている方に来ていただいて、生活や思いなどを聞くとともに、その前向きな生き方を学んだ。また、車椅子やアイマスク体験の学習をした。4年生では、学校の前にある共同作業所の所長さんに来ていただいて、作業所の仕事内容や仕事をされている人について話を聞いたり、後日作業所に出かけ、その様子を見学したりした。



【1年 どんぐり工作】

（3）校外学習等の引率・活動補助

地域の方には、校外学習（安土での歴史学習や校区探検、フィールドワークなど）で、自転車等での移動の際、交差点などに立っていただいたり、いっしょに引率していただくなど子どもの安全確保に協力していただいている。また、1年生の河辺生きものの森での活動では、どんぐり工作の補助にたくさんのボランティアの方が協力していただき、限られた時間内で有意義な活動をすることができた。3学期には、4年生が「琵琶湖一周鉄道の旅」を実施する。本校では、湖西・湖北の地域から、班ごとに調べたい場所や見学場所等を決め、見学依頼の交渉も子どもたちがして班別に活動するため、引率者がたくさん必要である。そのため、地域のボランティアの協力を得て実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校支援の実施にあたっては、学校と地域コーディネーターの役割を概ね分けている。地域コーディネーターは、主に地域のボランティアとのコーディネートをしていただき、学校は、外部講師の依頼をしている。
- ・図書ボランティアとは、年度当初に打合せ会議や学期始めに計画の作成している。また各学年と地域コーディネーターとの日程調整や学習内容などの打合せをしている。
- ・本校は、学校だよりを学区全戸配布しているため、支援活動等を適時掲載して地域に発信している。

■ 事業の成果

- ・ボランティアの方が学校に来ていただいたり、子どもたちが地域に出かけたりした時に、たくさんの方が、教育活動に支援してくださることで、子どもたちとのつながりが広がってきた。また、そのお礼に手紙を送ったり、収穫祭など学校に招待したりして、感謝の気持ちをあらわす取組などを通して、社会性や感謝・思いやりの心が少しずつ育ってきている。とりわけ、いろいろな教育活動の中で、地域の同じ方が何度も支援に来ていただくと、子どもたちも顔見知りになり安心感が生まれてきている。
- ・教育活動が充実し、教職員や子どもたちも、地域のたくさんの方に支えられていることを感じる事ができた。

■ 事業実施上の課題

- ・継続して何度も支援に来ていただける方は、安心してお願いできるが、今後、地域の人材をさらに広げ、学校との連携、交流の充実を図る必要がある。
- ・2学期は、同じ日に複数の学年で、ゲストティーチャーやボランティアが来られる日が何度かあり、全校的な活動計画、日程調整が必要である。

■ 金田のいいところみつめ～地域の力で教育活動の活性化（金田小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 金田小学校支援地域本部
■ 関係する学校 金田小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	25年度

■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部事業は、校区の方を委員として「金田学区地域教育協議会」を組織するとともに、学校支援地域コーディネーターを配置して一昨年度からスタートした。本校では、以前から教育活動に地域の方々の力を得て教育の充実に努めてきたが、コーディネーターが「金田学区まちづくり協議会」や「金田コミュニティセンター」とのパイプ役、関係機関との調整役を担い、より一層学校・家庭・地域が連携協力し、授業等の学習補助や教員の業務補助などの学校支援を行うことを中心活動とした。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 1年「昔遊び・お正月遊び」「音楽鑑賞」
- ・ 2年「おでんを作ろう」
- ・ 3年「金田学区のいいところ」「昔のくらし」「畑ではたらく人々」
- ・ 4年「地域を守る消防団」「蛇砂川の話と現地見学」「紙すき体験～はがきづくり」「福祉体験」
- ・ 5年「田植え・稲刈り」「環境学習」「ミシンの使い方」
- ・ 6年「国際理解～青年海外協力隊」「ナップザックづくり」「落語に親しもう」「平和学習」



【3年「金田学区のいいところ
～スクールガード】



【3年「金田学区のいいところ
～田んぼ・畑】

■ 実施に当たっての工夫

実際に見たり、聞いたり、触れたり、話だけでなく体験を中心とした活動を多く取り入れていただいた。また、コーディネーターを中心に依頼や連絡調整をし、教員の業務補助をしていただいた。

■ 事業の成果

日頃気にかけていなかった地域のことや環境・歴史のことなど見たり聞いたりし、すばらしい技術をもった方から直接指導を受けることにより、子どもにとって、地域、技術、人が身近なものに感じられるようになった。地域に親しみを感じ、自分が住んでいる地域や人に誇りをもつようになった。

また、ゲストティーチャーやボランティアの方々は、子どもたちに優しく接し丁寧にわかりやすく話したり、説明したりしてくださるので、子どもたちにとって、地域に対する思いや願いを実感するとともに、学習内容の理解がより深く、印象に残るものになった。指導者一人ではできにくい対応やきめ細やかな対応によって、子どもたちは作業等に自信をもって取り組み、最後までしっかりやり遂げる姿が見られた。事後も地域やボランティアの方との交流がより一層ひろがっていった。

■ 事業実施上の課題

コーディネーターを中心に年度当初に計画はするが、子どもの様子や担任団の希望で急きょ活動がふえたりするので、縦のつながりを考えた活動計画が必要である。大規模校ということもあり、ゲストティーチャーやボランティアの人数を確保し、日程調整をすることが難しい。児童数が多いので2回や3回にわけているため、ボランティアの負担も大きいと感じる。また年度当初に地域の方々には好意で快く引き受けていただいているが、できることならほんの少しでもお礼ができるとよい。

■子どもたちにとって居心地の良い学校環境作りのために（桐原小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
桐原小学校支援地域本部
■ 関係する学校
桐原小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	125 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

- 1 登下校時・昼休み・掃除時間を中心とし「見守り活動」の継続
- 2 図書室・多目的ホール等を活用した「子どもの居場所づくり活動」、子どもたちにとって「居心地のよい空間づくり活動」
- 3 学習に関する技術支援や講話、資料提供

■ 特徴的な活動内容

- ・掃除時間や昼休みなどに子どもたちに声をかけながら校舎を巡回していただいたり気軽に話したりしながら、子どもたちの居場所作りに関わってくださっていること。



【学習支援 5年家庭科】

■ 実施に当たっての工夫

- 1 「いつ、誰が、どんな支援で来られ、準備物は何か、事前の打ち合わせ方法はどうか」などをボードに示すことで計画的に進められるよう配慮した。
- 2 地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニセンタ―だよりに学校地域支援の様子の紹介や支援募集を行った。
- 3 学期ごとに学校支援地域本部事業の様子を紹介する壁新聞を作成し、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。

■ 事業の成果

- 1 昼休み・掃除時間の見守り活動
毎日昼休み、居場所作りとして地域ボランティアの皆様、学校内や校庭を見守っていただきながら子どもたちへの声かけ活動を継続・展開していただいている。また、掃除の時間にも校舎内を巡回し、声かけをしていただいたりしている。見ていただいた子どもたちの様子を職員室にたすきを返却するとともに職員に伝えてくださっている。
- 2 登下校時の見守り活動と交通量の調査
子どもたちの安全・安心の登下校のため、スクールガードの皆様、毎日活動を展開していただいている。また、来年度の校舎移転にかかわる通学路の変更に伴い、交通量を独自に調査しながら立ち位置を考えてくださっている。
- 3 校外学習での見守り・支援活動
6年生の野洲・奈良への歴史学習、4年生の日野川フィールドワーク、3年生のまち探検、2年生の駅探検と校外学習などの際に、子どもたちの安全と見学の様子を見守っていただいた。
- 4 図書室、多目的ホールを活用した「子どもの居場所づくり」「居心地のよい空間づくり」活動
地域の方々が子どもたちと気軽にふれあい、一人になりがちな子どもの相談相手・遊び相手として校舎のいろいろな場所を有効に活用しながら、子どもたちにとって居心地のよい空間づくりに努めていただいている。
図書館教育主任(司書教諭)と連携しながら、図書ボランティアの皆さんが、図書室の環境を整えたり、修理や廃棄手続きの支援をしていただいたりした。また、新校舎への移転作業の支援も計画的にいただいている。
多目的ホールでは、毎月1~2回昼休みに、地域の方が自作の木工パズルやゲームを用意していただき、子どもたちにワクワクした楽しい時間を提供していただいている。さらに、毎学期昼休みに、ザ・ミッションの皆様によるすてきな演奏会を開催し、歌と演奏が多目的ホールに響き、心地よい時間をプレゼントしていただいた。
- 5 家庭科やクラブ活動など様々な学習に関わった支援活動
5年生では、家庭科の裁縫やミシンを使う活動にミシンボランティアとして支援していただいている。また、コンピュータクラブでは、毎回技術指導のため、その操作に堪能な方が指導のため補助をしていただいている。他にも子どもたちの活動には多くのボランティアの支援をいただき、ふれあいの中で子どもたちの健やかな成長を支えていただいている。

■ 事業実施上の課題

- ・職員とボランティアの皆さんとの子どもへの指導の線引きが難しいところであると感じている。昼休み・掃除時間等の見守り活動の中で、子どもたちのちょっとしたトラブルなどでの指導の場面で、その場での対応が求められるときがあるからである。
- ・また、ボランティアによっては、活動の輪を広げるという思いから、記録画像の扱い方やお知らせの方法等についても、しっかりと協議する必要性を強く感じた。



【昼休み・掃除 見守り隊】

■ 地域の人に支えられ、価値ある体験を継続する（桐原東小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 桐原東小学校支援地域本部
■ 関係する学校 桐原東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	152 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

4年目を迎え、「教科等への学習支援」「朝の時間や休み時間の充実のための支援」「学校環境を整える支援」を中心に活動を行ってきた。「教科等への学習支援」では、生活科、総合的な学習の時間、家庭科等において学習ボランティアを招き、授業の支援をしてきた。また、「朝の時間や休み時間の充実のための支援」では、月に2～4回、朝読書の時間における読み聞かせや昼休みの手作りおもちゃ広場等を実施した。「学校環境を整える支援」としては、継続的にボランティアの方に来ていただき、図書室の飾りつけや前庭の花の世話、剪定等行っていただいた。

■ 特徴的な活動内容

5年生では、「白鳥川の景観を良くする会（略称 景観隊）」の方々の支援をいただき、総合的な学習の時間において以下の日程で環境学習を実施した。

- 10月15日（木）白鳥川事前学習（景観隊の方々と出会う。白鳥川の様子や特徴について知る。）
- 19日（月）現地学習（白鳥川に行き、景観隊の方々に説明を聞きながら、川に入り、自然や生き物などを観察する。白鳥川の様子や特徴をつかむ。）
- 20日（火）～11月12日（木）体験したことをもとに白鳥川環境についてまとめる。
- 11月13日（金）発表会（景観隊の方々を招き、自分たちがまとめたことを発表する。）
- 12月 景観隊が4月に実施する「白鳥川桜まつり」の桜ボンボリの絵を各自が描く。



【白鳥川の生き物観察と水質調査】



【景観隊のみなさんによる
活動概要説明】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアの方々と事前に目標や内容について詳細に打ち合わせを行い、支援のポイントを明らかにした。
- ・ボランティアの方々が生き生きと活動していただけるように支援の場の設定を工夫した。
- ・実施したことの啓発のため、地域コーディネーターが校長室前のコーナーに掲示物を貼ったり、広報紙を発行したりしてきた。

■ 事業の成果

- ・ボランティアの方々と学習やふれあいを通して、人との関わりの大切さやすばらしさを子どもたちが感じるようになった。
- ・身近でありながら知らなかった地元地域の様子を知ることができ、活動の場が大いに広がった。
- ・子どもたちとのふれあいを通して、ボランティアの方々も大きな充実感を味わい、今後の活動に対してより意欲的になられたようであった。

■ 事業実施上の課題

- ・新しいボランティアの人材発掘が必要である。
- ・取組内容のマンネリ化が見られるので、新しい題材の開発が必要である。
- ・各学年が価値ある体験活動を行い、学習を深めているので、取組内容を他学年や全校に向けて発表する機会を増やすことが必要である。

■ その他

- ・学校ホームページのブログ集で、学校支援の様子を紹介しています。
(URL <http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~kirihiga/>)

■ 地域でともに育てる馬淵っ子（馬淵小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
馬淵小学校支援地域本部
■ 関係する学校
馬淵小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	70 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

本校では、「まごころのある子、ふかく考える子、ちからいっぱいがんばる子」をめざす子ども像として、地域と協働で取り組んで4年目となる。以前から地域の方々力を借りて教育活動の充実を努めてきたこともあり、今年度は新しい地域コーディネーターのもと、さらにボランティア活動の充実と新しい支援の方法を考えていくことを中心に取り組んだ。新しい支援の方法をさぐり、新しい人材を発掘し、支援内容の充実が広がることをめざした。

■ 特徴的な活動内容

（1）年間を通した図書支援とクラブ活動支援

図書支援では、「居心地の良い図書室作り」をめざして、本を読む・調べる・ほっとする場という3点を基本にボランティアが、月2回、読み聞かせ・工作教室・整理・廃棄作業などに取り組んだ。

読み聞かせの活動日には、図書委員の子どもたちと一緒にカードにハンコを押して取り組んだ。また、工作教室では、簡単な楽しい工作を本の中から選んで教えた。さらに、廃棄作業では教師と協力して本を選別し、ボランティアが廃棄作業を行うという連携で取り組んだ。その結果、棚がすっきりして新しい本の置き場所を確保することができた。

クラブ活動支援の「家庭科クラブ」では、夏休みにボランティアが教師と一緒に作品の試作をして、子どもたちが取り組みやすい作品を決め、手順を検討する時間を作った。「昔遊びクラブ」では、竹を削って竹とんぼ作り、けん玉、コマ回し等の指導を受けた。また、「囲碁クラブ」では、年間をとおして囲碁の楽しさを教えてもらった。

（2）各種団体や個人など幅広い人たちの連携による植物栽培支援

4年生の植物を育てる学習では、ひょうたんを育てるための土作りから、支柱立て、ネット張り、収穫、作品作りなどの一連の作業を実施した。この支援には、老人会、民生委員や地域の様々な方々の支援を受けて連携して取り組んだ。地域の方の熟練した技術を見せていただきながら、力を借りて学習への支援を続けている。

（3）地域と連携した体験活動支援

1学期に6年生で地域のボランティアの方4名に来ていただき茶道体験を馬淵コミュニティセンターの茶室を借りて実施した。室町時代から続く伝統的な日本の文化に触れ、茶道の奥深さから児童は大きな感動を得た。また、田んぼの学校では、地域の農業委員さんや地主さんからお米作りの工夫と苦労を教えていただき、2年生と5年生で協力して、田植えと稲刈り体験を経験した。さらに、田んぼの日常の管理を教えてもらい、2年生ではおにぎりパーティをひびきあい活動で実施し、5年生は家庭科の学習でお米を炊く調理実習を実施した。

地域の方から直接教えていただき、学んだことを実践することで子どもたちは自信を持ち、感謝する気持ちを学ぶ大変良い機会となった。

（4）その他の支援

水泳、書道、家庭科学習、ハザードマップ作り、障害のある方の学習（福祉学習）、ビニールハウス見学、干し柿作り、しめ縄作り、獣医師会出前授業などの学習支援活動を実施した。

■ 実施に当たっての工夫

高齢化を理由に活動を辞退されるボランティアがおられたので、新しいボランティアの発掘のため横の繋がりを広めながら実施した。また、ボランティアの活動日には掲示ボードでお知らせをして、来校される方や先生方にも認識してもらえるように配慮した。

■ 事業の成果

事業も4年目をむかえ、校内でも地域でも周知されてきたのでスムーズに取り組みが進められるようになった。その結果、自宅で教室を開いておられる方が支援してくださったり、退職後の時間をボランティア活動に充ててくださったりする方があり、専門的な内容での支援が可能となった。また、教師は専門的な内容に自ら知識を深めることができ、子どもたちは顔馴染みのボランティアの来校を楽しみにするようになってきている。さらに、ボランティア自身は、継続することにやりがいと楽しみを感じてもらえるようにもなってきた。それぞれが充実した取組となってきた。

■ 事業実施上の課題

- ・本校は、ほぼ単級なので新年度に担任が変わると前年度の引継ぎが十分なされない場合がある。
- ・顔馴染みのボランティアが支援をしすぎると、子どもたちが頼りすぎる場面が出てきて、子ども自身の力にならないことがある。
- ・専門知識のあるボランティアが増えすぎると、一般の方が遠慮される場合がある。



【読み聞かせ】



【ひょうたん栽培】

■ 学校と地域が一体となった『地域循環型』の活動に（北里小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
北里小学校支援地域本部
■ 関係する学校
北里小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	400 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

（1）地域ぐるみのボランティア活動

これまで同様、本年度も北里商業協同組合のご協力を得て、小学校・保育園・幼稚園などへボランティアに来てくださった方々に、北里商店街の買い物補助券（ボランティアポイント）をお渡ししている。学校へ来ていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取り組みとしてかなり定着してきたように感じている。

（2）コーディネーターを核として広がるボランティアの輪

北里小学校区を基盤としながら、ボランティア登録はしていないが、本年度も300名を超える方にお世話になった。

本校児童の一部が自転車通学をしており、地域の自転車屋さんを中心に無料点検を実施して下さったり、昼休みに手作りおもちゃを運び込んでのおもちゃランドを開いたりして子どもたちのために活動して下さっている。

また、地域探検では、故郷の歴史や史跡の説明など、たくさんの方にガイドしていただいている。

教科の学習支援としても、家庭科のミシン補助や調理実習補助、福祉体験教育のための講師など、これもまた多くの方に来校いただいている。



【3年 地域探検】

■ 特徴的な活動内容

○ボランティアグループ [ほんわか]による読み語り

落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指して、全校で朝10分間読書に取り組んでいる。また、木曜日には読書ボランティアグループ [ほんわか]による「読み語り」を継続している。

12月の人権週間には学校からの要望で、人権に関する内容の読み語りを、学年に応じた本の選定も含めて実施していただいた。読書ボランティアは在校生の保護者が中心となって活動してもらっている。読み語り終了後、図書室の整備をして下さる方もおられる。また、図書館に勤務されていた専門家が、多いときには週3回図書室の整備をして下さっている。新刊本の登録作業や、データの定期的なバックアップも担当して下さり、図書館主任と連携しながら、子どもたちを暖かく支えて下さっている。その方の姿を見てか、徐々にできる範囲で図書室の整備をして下さる方の輪が広がってきている。

■ 実施に当たっての工夫

○地域商店街(商業協同組合)との連携をはかるなかで、ボランティアポイントを発行し、地域商店街の活性化に繋がる事業展開を実施していること。

○地域を基盤とした豊富で多方面にわたる人材を確保することができたこと。

○人材バンク的なものにとらわれず、適宜必要なボランティアに依頼していること。

○保護者のみならず、学区全体に情報発信していること。

■ 事業の成果

（1）地域との連携

教育活動に協力いただいた方々に、お礼の手紙や成果物、ボランティアポイントを渡した。ボランティアポイントについては、現保護者は対象外とし、それ以外のボランティアの方々に渡した。このポイントは北里商店街のみに有効ではあるが、大変好評であった。地域の活性化にも貢献している。

（2）まちづくり協議会との連携

まちづくり協議会の組織の中に、学区の子どもたちに多様な体験活動を仕組んで下さる方々がおられる。もちろん、ここにもたくさんの方々が関わって下さっている。この「子ども体験活動部」と学校の支援事業が昨年度から連携を始めることとなった。

■ 事業実施上の課題

- ・今後まちづくり協議会との連携が、より結びつきの強く深くなるよう、組織の面からも連動することが必要であると考え。
- ・活動が多岐にわたり関わって下さるボランティアの数が多いため、コーディネーターの負担がどんどん大きくなっている。

■ ボランティアの方々の特徴を生かし、学校のニーズに合わせてつなぐ（武佐小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 武佐小学校支援地域本部
■ 関係する学校 武佐小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	75 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

- 地域の方にボランティア登録をお願いし、学校の授業や行事に必要な時に来ていただく。
- ボランティアの特徴は登録時に確認し、学校のニーズに合わせてコーディネーターがつないでいく。

■ 特徴的な活動内容

- プールやクラブ活動、家庭科等、少数の教員だけでは一人ひとりに十分に支援できない授業に定期的に参加してもらう。
- 体験的学習で、華道や茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらう。
- 地域の文化遺産の紹介や歴史等について、現地での説明を行ってもらう。
- 警察や郵便局等、官公庁や企業で学校に協力をしていただける所を探し学習に活用する。

■ 実施に当たっての工夫

- 学年や学級の実態に合った支援になるように、先生の思いをじっくりと聞き取る。
- ボランティアの思いや意欲を理解するために、できるだけ直接出会うようにし、自宅を訪問して打合せを行ったり、学校に来られたときには顔を合わせたりするようにしている。
- ボランティアどうしもお互いに話ができるように、ボランティア室を設けて打合せや休憩に使ってもらっている。
- ボランティア便りを作成し、活動の様子を伝え理解が得られるように、ボランティアに送っている。

■ 事業の成果

- 地域のボランティアの方に学校に来て、児童の支援を行っていただくことで、学校や児童の様子をよく知っていただくことにつながった。
- 地域のボランティアの方と児童が顔見知りや仲良くなることで、地域であいさつしたり声を掛け合ったり、また、地域行事に参加しやすくなるなど関わりが増えた。
- 授業や行事で教員の力だけではできない専門的な支援を行ってもらえる。また、担任以外にボランティアの方が支援に入っていたので、児童一人ひとりによりきめ細やかな支援ができた。
- 教室内の教科書を中心とした授業だけに代わらずに、実際に見たり触れたりできる体験的な学習を多く取り入れられた。

■ 事業実施上の課題

- 企業やボランティアのできることと学校の要望が合わずに、たくさんの方に登録いただき、それぞれのボランティアが良い特徴を持っておられるにもかかわらず、うまく活用し切れていないことがある。
- コーディネーターの勤務時間に限りがあるので、ボランティアや先生との打合せや聞き取りが不十分になることがある。



【1年と6年のたけのこ掘り】



【さつまいもパーティー】

■ 学校・保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動（安土小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 安土小学校支援地域本部
■ 関係する学校 安土小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	135 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

教職員が地域コーディネーターと意思疎通を図りつつ、保護者や地域住民と連携を深めながら、地域の人材を学校に招いたり、児童が地域に出向いたりして効果的な学習をしている。地域ボランティアの協力を得ながら、地域のよさを学ぶ体験学習に多く取り組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 3年「物づくり体験」… 信長ねぎ収穫、ちまき作り、せんべい作りの各体験の地域学習を行った。
- ・ 4年「西の湖学習」… 地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを行い、環境について学習した。
- ・ 5年「米作り体験」… 田植え、除草、稲刈り、調理という米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
- ・ 6年「茶道体験」… 地域の施設の和室で、茶道教室の先生の指導により本格的な茶道体験をさせてもらった。
- ・ 全校「見守り、あいさつ運動」… 日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしてもらった。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんとともに6年や児童会の子どもたちも参加して、校門であいさつ運動が行われた。
- ・ 全校「朝の読み聞かせ」… 毎週木曜日、朝読書の時間に、読書ボランティア「によきによきさん」に来てもらって、各学級で読み聞かせをしてもらった。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 教職員が地域コーディネーターと日常的に関わり、気軽に話せる関係を作っている。そうして、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域コーディネーターから、多くの有益な情報を得ている。
- ・ あいさつ運動には、大人だけでなく、6年生を中心に児童会の子どもたちが参加して活動を盛り上げている。
- ・ 読書ボランティア「によきによきさん」と教職員や地域コーディネーターが日常的に情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。

■ 事業の成果

- ・ 地域コーディネーターが教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方々の講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。
- ・ 地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。
- ・ 子どもたちがボランティアの方々とふれあう機会が多くなることにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。ボランティアの方々も、子どもたちと関わることで、生きがいを感じていただいている。

■ 事業実施上の課題

- ・ 地域の人材を発掘し、いかに学校支援をしていただける方々の登録を増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を通信やホームページ等で発信するとともに、情報収集に努める必要がある。
- ・ 地域ボランティアの方々の思いを聞いたり、ボランティア同士が交流したりする場を設定することも大切である。
- ・ コミュニティセンターやPTAとの連携を深め、広く地域住民を巻き込んだ取組を進めていく必要がある。

■ その他

安土小学校（URL）<http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~adusyo/>



【3年体験学習（ちまき作り）】



【読書ボランティアの読み聞かせ】

■ 「地域の人々の思い」「ものづくりの力」に出会いながら育つ老蘇っ子（老蘇小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 老蘇小学校支援地域本部
■ 関係する学校 老蘇小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	19 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

水田での稲作の学習をはじめ、菜種栽培やれんこんの栽培、蜂蜜の採取など、地域の様々な生産活動にふれ、それに携わる方々の思いにふれながら、本校児童は働く人々へのあこがれやふるさとの愛着を深めている。また、年間を通じての読み聞かせ活動や、まちづくり協議会、営農組合さんの協力を得ながら、餅つきや地域の伝統文化を学ぶ「オープンスクールデー」も実施している。

■ 特徴的な活動内容

〔農業に学ぶ〕

- ・もみまきから収穫までの餅米栽培体験（5年）
- ・蜂蜜採取、いちご狩り、（4年）
- ・れんこん栽培、（3年） ・たけのこ掘り、野菜栽培（2年）

〔歴史・伝統文化を学ぶ〕

- ・安土考古博物館見学、お茶碗製作、お茶会、戦争体験の聞き取り（6年）
- ・シーサー作り（5年） ・しめなわ作り（5・6年）
- ・ふるさと絵屏風や養蚕の学習（4年）
- ・むかしのくらし聞き取り（3年）

〔環境を学ぶ〕

- ・ニゴロブナ稚魚の放流、水生生物調べ、びわ湖揚水機場見学（5年）
- ・西の湖学習からよし灯り作り（4年）
- ・ピオトープでの学習活動（全学年）
- ・菜の花栽培から油作り、調理、廃油のBDF化（3・4年）

〔様々な人々の生きざまに学ぶ〕

- ・アイヌ文化を学ぶ（5年） ・盲導犬とのくらし（3年）

〔学びをささえていただく〕

- ・くすくすさん読み聞かせ（全校） ・ミシンボランティア（5・6年）
- ・マラソン大会立哨（全校）

〔地域の人々と過ごす〕

- ・オープンスクールデー（全校） ・デイサービスセンター訪問（2年）
- ・むかしの遊び体験（1年） ・ピオトープコンサート（全学年）



【西の湖学習（4年生）】



【茶道体験（6年生）】

■ 実施に当たっての工夫

- ・様々な農業生産活動や自然環境が豊かに存在することをいかし、児童の発達段階に合った学習素材を取り上げ、教材化すること
- ・実施に際して、コーディネーターが本校での経験が豊かであることをいかし、先々の見通しをもつこと
- ・担任が事前にゲストティーチャーと顔を合わせ、体験の狙いや内容について十分相談して当日を迎えること
- ・学習体験を「地域支援だより」や「校長通信」で地域に発信し、感謝の意を伝える。

■ 事業の成果

- ・児童が校外に学習に出かけることが当たり前の学習活動として定着し、あたたかく見守ったり、声をかけていただいたりしている。また、自分の仕事について児童に話したり、田畑の様子を見せてやりたいと考えてくださる方が多くなり、特に低学年の生活科、中学年の地域学習が主体的に学べるようになってきた。
- ・ゲストティーチャーとの出会いで学ぶことの意味を担任が考え、出会いに至るまでの学習、出会いの後の学びについて考え、単元として構成するようになってきた。
- ・授業での出会いや、お礼の手紙を書く活動などを通して、普段の地域生活の中でもコミュニケーションが深まっている。
- ・日時設定や内容の概略についてコーディネーターにゆだね、進めておいてもらえる部分が多く、担任の労力が軽減されている。

■ 事業実施上の課題

- ・小規模校なので、各学年の体験活動の日程を調整しないと指導者、引率者不足になりやすい。
- ・前年踏襲の発想に陥るとせっかくの貴重な体験が身をもっての学びの獲得まで高まらない。
- ・地域の方が大きな労力をはらって学習に協力してくださっていることへの感謝と尊敬の念を忘れずに、児童がこの地域で学べてよかったと思える内容にするよう努力しなければならない。

■ 地域とのふれあいのなかで、人とのつながり方を学ぶ（八幡中学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡中学校支援地域本部
■ 関係する学校
八幡中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで、地域全体で学校を支援するシステムを地域・家庭・学校が連携して構築するとともに、地域の教育力の向上を目的とし、地域より学校支援ボランティアを募り、学校の諸活動を支援するシステムを構築しようとしている。主に授業などへの支援活動と人生伝承塾を実施している。

■ 特徴的な活動内容

【授業支援ボランティア】

1年被服実習支援（12月～2月） 2年調理実習支援（6月～7月）
 全学年水泳実習支援（6月～7月） 全学年書道（毛筆）実習支援（10月）
 全学年剣道実習支援（11月～12月）

【総合学習支援ボランティア】

1年八幡フィールドワーク支援（10月）
 2年職場体験学習交通安全指導支援（11月）
 3年牧水泳場清掃活動交通安全指導支援（8月）

【学習支援ボランティア】

全学年夏・冬休みの補充教室・質問教室学習支援（7月～8月・12月～1月）

【人生伝承塾】・・1年生

目的を近江八幡に根づく伝統工芸や物産、現代社会を形成する新技術など、近江八幡での「ものづくり」の見聞、体験を深め、「ものづくり」の楽しさ、難しさ、人間が生み出した技術のすばらしさを知る。加えて、生徒が自分の将来や身近な職業について考える機会とし、以下の場所で1月下旬に活動をする。

伝統工芸…数珠玉加工（株式会社カワサキ）、瓦細工（瓦ミュージアム）
 畳制作（西川畳店）、布団制作（愛善ふとん店）、看板製作（美十）、
 皮革製品（コトワ）、金箔細工（五十子仏壇）、葦細工（西六商店）、
 パン作り（お菓子司にしかわ）網修繕（川田商店）、巻きずし（ひょうたんや）、陶芸（吉川さん）、竹細工（竹松商店）

現代の新技術…工業製品（八幡工業高等学校）、工業製品（ポリテクカレッジ）



【調理実習の様子】



【書道実習の様子】

■ 実施に当たっての工夫

- 各コミュニティセンターと連携を密にとり、地域から広くボランティアを募った。
- 地域担当の職員を各学年1名配置し、時間割上に会議ができる時間を設定する。職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に交流がもてるように配慮した。
- 調理実習・水泳実習・書道実習・剣道実習・フィールドワーク引率ガイドでは、授業中の活動なのでボランティアの方がどこまで生徒に接していいの事前の確認が必要であったため、特に事前の打ち合わせを重視した。

■ 事業の成果

- 実技教科の実習では、教師一人では目が届きにくい（指導が徹底しない）場面が多々ある。しかし各授業に平均3～4人の学習支援ボランティアの方が来ていただいている。生徒はわからない事などをすぐ聞くことができる環境で実習に取り組むことができおり、生徒にとってとても有益である。
- 校外での活動では、交通立ち番をしていただくなど、生徒の安全確保に成果をあげている。

■ 事業実施上の課題

- 100名近くの支援ボランティアがおられるため、案内配布や事前打ち合わせの諸準備などで、地域コーディネーターの負担が大きくなっている。
- 諸事情により時間割が急に変更になることがありボランティアの方に迷惑をかけたときもあった。

■ その他

- めざす地域連携の形として【学校を支援する地域】⇔【地域に貢献する学校】を目指している。八中太鼓の地域での演奏や生徒個々も各学区のイベントにボランティアとして積極的に参加している。また、職員も一人5回の数値目標を立て地域の行事（懇談会・お祭り等）に進んで参加するなど「地域に貢献する学校づくり」を目指している。

■ 地域とともに子どもを育てる学校支援地域本部事業（八幡西中学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡西中学校支援地域本部
■ 関係する学校
八幡西中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	16 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

本校は「美しく生きる」を教訓にして、思いやりのある生徒、たくましさのある生徒、きびしさのある生徒の育成をめざした教育活動に取り組んでいます。その実現のために地域の人々に協力を願った結果、学校支援コーディネーターを中心にいろいろな分野での学校支援活動の輪が広がっている。

■ 特徴的な活動内容

(1) 部活動支援

部活動については、毎年、大きな支援をいただいている。現在、ソフトボール部、テニス部、バレーボール部・軟式野球部で、ほぼ1年をとおしてお世話になっている。これらの部活動の支援員は練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指導をしていた。また、技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

(2) 学習支援

地域学習（郷土学習）で聞き取りや体験活動の講師として、また人権学習では体験や活動を語っていただく講師として、さらに今年度は、放課後の補充学習（質問教室）の学習支援者としてボランティアの方にお世話になった。

(3) 学校行事の支援

今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員にお願いしている。ホームページの更新作業も、支援員により定期的をお願いしている。行事等があった場合は時間を空けず、その日のうちに情報を提供していただいている。昨年度からの修学旅行での情報提供に加えて今年度は、緊急時の連絡などの「お知らせ」をホームページ上に構築し、保護者が利用しやすいように変更していただいた。

(4) 環境整備支援

支援員とPTAによる環境整備事業を計画的に取り組んでいただいた。夏休みの一斉除草作業や卒業式の花道に使うパンジーのプランターへの花植えなどの活動などである。

また、プランターへの花植え活動は桐原学区コミュニティセンターの事業である「地域花いっぱい運動」と協同行い、幼稚園や小学校、子どもセンターなど地域施設へのお裾分けを行った。

■ 実施に当たっての工夫

今までは定期テスト前の放課後に質問教室を教員が指導者となり行ってきたが、今年度は、本校卒業生の大学生を指導者として依頼し協力してもらった。公募等で大学生のボランティアを探すことは困難ではないかと考え、今年度本校で教育実習を行った大学生にボランティア登録をしてもらった。

また、専門的な知識や技能が必要となる部活指導の支援として昨年度まで本校に勤務され退職された教員にコーチを依頼した。

■ 事業の成果

- ・部活動の指導においては、長年の経験や専門性を生かした指導をしていただき、子どもたちはプレーに集中しやすくなり、部活動を休んだり遅刻したりする数が減った部もある。
- ・部活動では、社会に必要な礼儀やあいさつなど人として基本的で大切なことがらを指導していただき、あいさつができるようになった。さらに、支援員への感謝の気持ちが持てるようになってきた。
- ・部活動の技術指導においては、教師ができない専門的な指導がしてもらえ、技術の向上が見られた。
- ・環境整備事業で中庭の校長室に面した花壇にチューリップ、ストック、桜草等を植えてもらい、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れたお客様はもちろん生徒、教師の心を豊かにしてもらっている。

■ 事業実施上の課題

- ・地域には子どもの健全育成に対して熱心に取り組んでこられた方もたくさんおられ、学校教育に協力の意思を示してくださっている方もあるが、「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという実態がある。また、支援員の高齢化が進み、新たな人材の確保が急務である。
- ・今年度は、教育実習生を支援員として取り組んだが、今後も継続的な支援が期待できるように教職経験者や本校卒業の大学生や保護者の協力、さらには、候補者の新規掘り起こしなどを行いたいと考えている。
- ・今後は、日常の授業支援、行事の際の業務支援等で子どもの学習や活動を支えていただけるような取組を進めていきたい。



【八幡堀について現地での聞き取り(地域学習)】



【プランターの花植作業(環境整備支援)】

■ 地域力を学校に！！ 学校支援ボランティア（安土中学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 安土中学校支援地域本部
■ 関係する学校 安土中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	60 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための1つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくり」を進めている。以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。本事業でも学校支援コーディネーターを核として多くの学校支援ボランティアの方々の協力を得て、地域の特色を生かした教育活動を展開している。茶道体験活動、読書活動、環境整備活動等、地域の方々の協力を得て多くの体験活動を実施する中で、生徒たちはいろいろなことを学んでいる。

このように、この事業を通じて地域の方々の目を学校に向け、地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで、家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくりが更に進むことを期待する。

■ 特徴的な活動内容

① 茶道体験活動

安土町は織田信長ゆかりの地として知られ、その信長は茶道をこよなく愛したと言われている。また、信長が茶を点てるのに使ったといわれる湧き水が現在も残っている。そこで、本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の一つとして、茶道体験を行っている。今年度も1年生全員を対象とした茶道体験教室や希望する生徒を対象とした茶道体験クラブ（三井古流煎茶・裏千家）を実施した。また、文化祭「天正祭」には、保護者や地域の方々向けの茶道教室を実施している。茶道体験は、年数も重ね安土中学校の伝統となりつつある。



【茶道体験クラブ】

② 読書活動

本校では朝に10分間の「こっこつタイム」があり、1、2年生は朝読書に取り組んでいる。校区の2小学校でも読書活動が盛んで、小学校からの積み上げの効果もあり、ほとんどの生徒が10分間の読書活動に静かに取り組んでいる。そのような中、月に一度の読みきかせを読書ボランティアに依頼して全学年で実施している。



【環境整備活動】

③ 環境整備活動

本校には、植栽豊富な中庭があり、またその中には県下唯一の茶室「天正庵」がある。また、校舎周辺には6月頃に見頃を迎える千数百本もの紫陽花が植えられている。これらの植栽の剪定・除草作業の支援をいただいている。さらに、学校菜園での野菜等の栽培の支援もお願いしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・各活動が長続きするためにも、活動内容や活動スタイルをあまり変えることなく、毎年同じ事を確実に実施している。
- ・各活動で、学校支援ボランティアの方ができる範囲の中で準備から後始末までお願いして実施しているため、学校の準備などの負担は少なく済んでいる。
- ・各活動の企画・運営すべてを学校支援コーディネーターにお願いするとともに、学校支援ボランティアの手配等もすべて担当していただいている。

■ 事業の成果

- ・環境整備活動や図書室の整備活動などで学校支援ボランティアの方の中には、活動日以外にも日常的に関わってくださるボランティアの方も出てきた。
- ・茶道体験活動では、生徒も一生懸命学ぶことで充実感を感じており、教える側のボランティアの方々も生徒が一生懸命に取り組む姿勢を見て、喜びを感じていただいている。お互いが良い相乗関係を生み出している。
- ・同じ活動内容であっても「継続は力なり」で、毎年繰り返すことによって一つの伝統を生み出してきていると感じる。

■ 事業実施上の課題

- ・学校支援コーディネーター、学校支援ボランティアの方々が同じメンバーでいつまでも活動していただけるわけではないので、事業を継続するためにも後継者をしっかり発掘しておく必要がある。

■ “ にこ、キラ、武佐っ子 ” を育むあったか支援の力（武佐こども園）

■ 近江八幡市
■ 活動名
武佐こども園支援地域本部
■ 関係する学校
武佐こども園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	21 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

- ・こども園の保育・教育に地域の人材を生かし豊かな経験ができるようにする。
- ・人との温かいかわりや地域の自然・行事に触れ、郷土への愛着心を育てる。

■ 特徴的な活動内容

①絵本の読み聞かせ

毎月2回、クラスごとに絵本の読み聞かせをする。いろいろな人に絵本を読んでもらい、ほっこりした時間を過ごす。読み聞かせ研修として、元図書館司書の実演とワンポイントアドバイスを行う。

②栽培活動

園畑で幼児が季節に応じた野菜を栽培している。畑を耕す時に肥料の混ぜ方や畝の作り方を学んだり、野菜の種まきや苗植えの方法を教してもらったりした。さつまいもの収穫時には一緒に芋掘りをしてたくさんの芋が収穫でき、共に収穫の喜びを味わうことが出来た。

③行事支援

やきいもや餅つき、食育活動などの行事に協力いただき、それぞれの活動について話を聞いたり、手本を見せてもらったりしながら活動を楽しめるようにしている。

④保育教材作り（布製おもちゃ）

人形の服やままごとのエプロン、乳児の布製おもちゃ等の修理や作成などをする。布製のおもちゃは温かみもあり乳児の手にもやさしく扱いやすい。人形の服をたくさん作っていただいたことで、着せ替えをしたくて人形に触れる機会も増え、以前よりも大切に扱う姿が見られる。

⑤あいさつ運動

毎月1日、15日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って、あいさつをしながら迎える。5歳児もあいさつ運動に参加するようになり、保護者への啓発になっている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・絵本の読み聞かせと手芸など、ボランティアが重なる人もいるので、出来るだけ同じ日に設定して参加しやすくした。
- ・子どもと直接かかわることが少ない活動（手芸）は、活動の場を園児が見学したりお礼を言う場を作ったりしながら、ボランティアの支援の力に気付ける機会を持った。

■ 事業の成果

- ・地域の人、様々な世代の人とかかわることを楽しむ姿が見られ、人間関係が豊かになり、あいさつをしたりお礼を言ったり社会のマナーを自然と覚え身につけることができた。
- ・栽培活動など、経験豊富な方からの指導を受けることで、職員も学ぶことができ、より関心を持って活動に取り組むようになった。
- ・園に来ていただくことで職員とは違った視点でアドバイスを受けたり、環境整備に協力をしていただいたりし、園内環境がよくなった。
- ・おもちゃ作りや栽培活動など、職員だけではなかなかできないことに協力してもらえ、園児の活動がより充実する。

■ 事業実施上の課題

- ・協力ボランティアとの日程調整や参加人数把握が難しい。
- ・空き教室がないためおもちゃ作り等の場所の確保ができず職員室での活動となるので、活動の拠点となる部屋が必要である。
- ・ボランティア登録人数が少なく、一部のボランティアが重複していくつもの活動に参加している。支援活動に無関心な保護者も多い。なかなか保護者に広がっていかないので、子どもの姿などをボランティアだより「武佐っ子クラブだより」などで知らせ、協力者を増やしたい。



【 夏野菜の苗植え 】



【 人形の服 】

■ 創立 110 周年に向けた取組（八幡幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名 八幡幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 八幡幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	24 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

本園では、今年度から学校支援地域本部事業に取り組む。地域の力、専門的な立場の方のノウハウを生かし、保育に取り入れることで、子どもたちの経験の幅を広げ、より楽しい幼稚園生活が送れるようにしていく。

具体的には、

- ①3歳児保育支援
- ②栽培活動支援
- ③歌唱指導
- ④江州音頭指導
- ⑤書道体験
- ⑥フラワーアレンジ体験等の活動に取り組む。

■ 特徴的な活動内容

書道の先生を講師に招き、書道体験として、墨を使って、大筆で字を書く体験、墨汁の手形体験を行う。

■ 実施に当たっての工夫

全園児がリズム室に集まって、大きな紙に大筆で「110 さいおめでとう」の文字を書く。全員は体験できないので、代表の子どもが、書道の先生と一緒に書き、その様子をみんなで見守る。また、墨汁を使った手形を全園児が経験する。4、5歳児は、リズム室で行い、3歳児は各保育室で行う。それぞれの年齢に応じて、墨汁の手形を楽しむことができた。

■ 事業の成果

今年度、八幡幼稚園は創立 110 周年を迎え、11 月 28 日に記念式典を行う。子どもたちと共に体験した「110 さいおめでとう」の書と、墨汁の手形をリズム室壁面に飾り、盛大に 110 周年を祝うことができた。なかなか、書道に触れる機会がない子どもたちにとって貴重な体験となった。

■ その他

書道体験の他に、「フラワーアレンジ体験」「江州音頭指導」「歌唱指導」など、それぞれのプロから専門的な指導を受けることができ、創立 110 周年記念行事に花を添えることができた。職員だけの力では出来にくいことも、学校支援地域本部事業を活用することで、さらに素晴らしい取り組みを展開することができた。



【 書 道 体 験 】



【リズム室壁面に飾られた手形と書】

■ 地域の子どもは地域みんなで育てる（岡山幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名 岡山幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 岡山幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	33 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

- ・「地域の子どもは地域で育てる」という岡山学区民の思いを大切にしながら、幼稚園・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てていこうという目的で事業を進めている。

■ 特徴的な活動内容

- ・幼児教育の充実のために地域の方々の力が発揮できるような活動を中心に計画し取り組んだ。
 - ①保育支援・・・3歳児の入園当初の生活支援・プール遊び、給食時の見守り支援
 - ②環境整備・・・プランターの花苗植え、植え方指導・樹木の剪定・野菜栽培指導
 - ③託児支援・・・保育参観や保護者が参加する園行事の時の託児
 - ④保育参加・・・地域の方をゲストティーチャーとして迎え、特技披露と指導

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域の会議で活動を周知し、コミュニティーセンターだより、園だより、クラスだよりで活動の報告をしている。

■ 事業の成果

- ・「地域の子どもは地域で育てる」という岡山学区民の思いがあり、とても協力的で、幼稚園事業を進めることができる。
- ・初めての集団生活を送る3歳児にとって地域の人たちにも関わってもらうことで安心して幼稚園生活を過ごすことができた。
- ・地域に人材が豊富で、こまわし教室等いろいろな特技を持っておられる方々に丁寧に子どもたちに関わっていただくことで子どもたちもあこがれたり活動への意欲をもったりすることができた。
- ・地域の方々に幼稚園に来ていただくことで子どもの姿を知っていただくことができた。また地域の方々の子育てへの思いや地域での子どもの様子を知る機会となっている。

■ 事業実施上の課題

- ・今年度は地域の大工さんと交流する機会があり、大工さんの仕事や道具の使い方等を知ることができ、保育の中に計画的に地域の方に参加してもらうことができた。今後はさらに人材を発掘いろいろな方に参加していただき子どもたちの興味関心が高まり人とのかかわりを育てていきたいと思う。



【5歳児 大工さんの仕事を知らう！】



【3歳児 たまねぎ苗をうえよう！】

■ 保護者・地域の豊かな人材を保育活動のなかに・・・(金田幼稚園)

■ 近江八幡市
■ 活動名 金田幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 金田幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	25 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

- ・年度当初にボランティアを募り、支援の内容を登録する。
- ・昨年度より、引き続きのところは、コーディネーターが連携をとり、園の活動に合わせてつないでいく。
- ・手作りのオモチャや服をつくるなど、子ども達の喜ぶ笑顔、個性、感性を育て、物の大切さを学習するきっかけにし、幼稚園でより楽しく安全に過ごすお手伝いをする。

■ 特徴的な活動内容

【保護者ボランティアの協力】

- ①手芸・・・使用しなくなったたくさんの生地でいろいろなものを作ってきた。代表的なものは、ピアノカバーで、11クラスほぼ渡し終え、次にバレリーナのようなチュチュや、ごっこ遊びに使えるマントを作成中。
- ②絵本の読み聞かせ・・・毎週1回、1学年ごとの読み聞かせ。子ども達も楽しみにしており、保護者に読んでもらう良さを感じる。
- ③畑の活動・・・さつまいも、玉ねぎ、大根、いちごなどの苗植えや種まき・収穫など、一年を通して畑づくりや作物の世話など支援していただいた。子ども達は、やり方を教えてもらったり、一緒に収穫を喜び合ったりすることで、友だちのおじいちゃんに親しみをもち、交流も広がった。
- ④その他・・・日本舞踊・文化琴（日本文化）などに触れる活動。

【地域ボランティアの協力】

- ①木工の活動・・・廊下に洋服等をかけるコロコロ付きのハンガーが置いてあり、園児たちが歩行する度に洋服が落ちたり、つまずいたりして危ないことから壁にフックの設置をお願いした。子ども達が気持ちよく安全に過ごせる環境づくりの一助となっている。
- ②栗林での栗拾い・・・毎年のご厚意で、園の近くで栗ひろいをさせていただいている。「おじいさんのくりばたけ」という紙芝居も出来、地域の人との温かい関わりが、子ども達を豊かに育てることにつながっている。
- ③園外保育・・・篠田神社（花火の話を聞く）、コスモス畑など

■ 実施に当たっての工夫

- ・手芸活動を通して・・・大量にある生地で何が作れるのか、ボランティアと会議を行い、先生方とも相談しながら試作品をつくり、安全面でクリアしているかどうか確認してから作業に入った。
- ・木工活動を通して・・・フック取り付けは、毎年少しずつしてもらっている。ボランティアからも「今年はどこをしますか？」と声をかけていただき、地域の力が活かされているのを感じる。

■ 事業の成果

- ・ボランティアから園児達へ直接受け取ることにより、感謝の気持ちや大事に使ってほしいという優しい気持ちが芽生えた。ボランティアにとっては、園児達、先生方からの感謝の言葉が励みと自信につながり、得意分野ではあるがさらなる向上と、もっと頑張ろうという意欲がわいてくる。
- ・地域に出かけることで、家庭からも行くきっかけとなり、地域の良さを子どもも保護者も知る機会になった。

■ 事業実施上の課題

ボランティアに参加してくださる方は、得意分野以外にも積極的で、何でもお手伝いをしてくださる。その気持ちとは反対に負担になっていないか心配に感じることもある。

今までボランティアに参加したことがない保護者の方や地域住民の方の人材発掘と、得意とすることを活かしていただける場の工夫などがもう少し必要である。



【手作りのチュチュ】



【フック取り付け】

■ 地域とともに・・・子どもたちに豊かな体験を（桐原幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名 桐原幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 桐原幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	40 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本園での事業も3年目に入り少しずつ浸透してきたが、より多くの方に活動を知ってもらえるように月に一度、活動内容や成果を「ボランティア通信」としてお便りを配布している。主な活動として、子どもたちが野菜を育てる園庭の畑の下準備（土を耕す・畝を作る・マルチをかける）、プランターへの花苗植えの環境整備、保育室のピアノカバーや子どもたちの遊びを広げる布おもちゃを作成する手芸、PTA総会・講演会・運動会前日準備の託児支援、絵本の読み聞かせ、入園直後の子どもたちへの保育支援活動を実施している。

■ 特徴的な活動内容

絵本の読み聞かせでは、ボランティアの方々も季節にそった絵本や子どもたちの興味をそそる絵本、科学の絵本などを2～4冊選んで、4・5歳児は給食が終わって一息ついた時間に、3歳児は午前中に来て読んでくださる。ボランティアの方々も子どもたちの喜んで一生懸命聞いてくれる姿や子どもたちとのやりとりを楽しみに、喜んで読みに来てくださっている。絵本だけでなく子どもたちの聞く力が育つように、素話（すばなし）も取り入れてくださり、読み聞かせの時間は子どもたちにとって楽しみな時間でもあり、先生や保護者以外の方に絵本を読んでもらうという良い経験ができていないかと思う。

地域の方が「地域の子どもは地域で育てる」という趣旨の元、「学校応援団」を立ち上げてくださった。園・コーディネーターと連携し、保護者ボランティアが参加出来ないPTA総会や講演会の際の託児支援などの時に、地域ボランティアの方々に支援をお願いしている。



【絵本の読み聞かせ】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティア活動の内容・成果をまとめたお便りを月一回作成、配布し、ボランティアの興味のあることから参加してもらえるようにした。
- ・活動の時間を「子どもを送った後から」という形で伝え、保護者ボランティアが気軽に参加しやすい時間に設定した。
- ・布おもちゃを作る手芸の活動の際は、ボランティアの思いを尊重し、子どもたちに作ってあげたいものを作成するようにした。

■ 事業の成果

- ・園の畑で子どもたちが種を蒔く、苗を植える、水をあげるなどお世話をすることにより野菜が生長するのを体験し、それを収穫し食べることの喜びを味わうことができた。
- ・本園にボランティアに来てくださる地域の方々は、スクールガードや小学校のボランティアとして子どもたちと関わってくださる方も多いため、小学校に入学してからも知った人がいることで、子どもたちの安心感につながっていると思われる。子どもたちにとっても、保護者や祖父母以外の地域の方と関わるのが良い経験になっている。
- ・PTA総会・講演会の際の未就園児の託児は、普段ゆっくりお話を聴けなかった保護者も集中して聴くことができたと言っていた。
- ・地域ボランティアの方を中心に、環境整備の畑の準備をすることで、農作業の経験のない保護者ボランティアもやり方などを教えてもらいながら、作業を進めることができた。また、保護者と地域の方の異世代交流にもつながった。



【焼きいもパーティ】

■ 事業実施上の課題

活動においてボランティアが固定化してきている。特に保護者のボランティアは参加して下さる方が偏ってしまうので、ボランティアの負担にならないように、支援ボランティアの参加拡大をどのように図っていくかが課題となってきている。今、活動して下さっているボランティアの方々を中心にしながら、より地域や学校応援団、保護者に活動状況を情報発信していきたい。

■「えほん見て（読んで）くれて ありがとう」「よう覚えているね うれしいよ」（北里幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名
北里幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校
北里幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	21 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

(1) 読み聞かせや紙芝居を中心に

・事業の中心として大事にしているのは、地域の方や保護者（うさぎさんサークル）が中心となって行っている読み聞かせである。月4回くらい来ていただいているが、それぞれに特徴があり、良い機会となっている。回を重ねるごとにお話の世界に入り込み、聞き入っている姿がある。他に「英語で遊ぼう」の中でも、英語の絵本の読み聞かせをしていただいている。

(2) ボランティアポイントの取組

・北里商業協同組合のご協力を頂き、ボランティアしていただいた方に商店街の買い物補助となるポイント券を渡し、お礼のひとつとしている。（PRの意味でポイント券を広めてほしいということに使わせていただいている。）

(3) 園の年間計画と事業をかみあわせての実施

・どの行事や事業にボランティアに来ていただくと良いのか、保育展開の中にどのように生かしていけば良いのか等を考え合わせながら活動を展開させた。

■ 特徴的な活動内容

(1) 紙芝居・絵本の読み聞かせ

・毎月第1火曜は紙芝居、第2木曜は保護者による読み聞かせ、第3火曜はボランティアの読み聞かせとして年間計画を立て、実施した。内容については、その都度、相談を受けたり季節や行事にちなんだものをお願いしたり、時には子どもたちのリクエストを入れたりしながら、進めていった。

(2) 食育サポート（カレー・焼き芋・大学芋・おでんパーティー等）

・園で栽培し収穫した野菜を使っのクッキングを手伝っていただいたり、子どもではできない大学芋をつくっていただいたりして、収穫した物を食すという経験からその喜びを大いに感じ、感動することができた。また、ボランティアにそばで見守ってもらったり包丁の持ち方を教えてもらったりすることで自信と関心が持て、その後家庭で料理する姿が増えたようである。

(3) その他（環境整備・畑の指導・お茶会・昔遊び・英語で遊ぼう・腹話術等）

・園の行事に合わせて指導に来ていただいたり（お茶会・腹話術）、子どもと共に作業しながら教えていただいたり（畑などの作業）した。昔遊びや英語で遊ぼうでは、子どもたちの興味や関心、親しみを広げることにつながった。

■ 実施に当たっての工夫

- ・昨年度の良かった点、反省課題も考えながら今年度の活動内容を検討し、募集チラシを作成、全戸配布してボランティアを募った。
- ・学期ごとに活動内容がわかるような掲示物を作成し、みんなの目に触れるところへ展示して、見ていただいた。写真やイラストを入れるなどの工夫を凝らし、保護者はもちろんのこと、来園者や子どもたちにも関心を持ってもらえることができた。
- ・幼稚園から発行している便り（地域向け・保護者向け）に記事を掲載し、保護者や地域への情報発信に努めた。
- ・活動毎に実施記録を作成し、参加者や内容、感想、反省、課題等を記録に残し、次回の活動に役立てた。

■ 事業の成果

- ・事業毎にいろいろな方が来てくださり、子どもと触れ合い関わっていただけたことは、子どもの経験を広げる意味でも成果があった。また、いろいろな人と挨拶を交わす機会が多くなり習慣となっていくことで、ボランティアの方にも喜んでいただけた。
- ・「英語であそぼう」は2年目の取組であり、今年度は八幡西中のALTベン先生を迎えて、外国の人に触れながら本物の英語にも触れ親しむという目的で行った。いろいろと課題も見えてきたが、親しみを持って遊んだり話したりできたことでは成果があった。
- ・畑作業のサポートボランティアでは、畝づくりや肥料のやり方、時期など教えていただくことができ、特に若い職員には良い経験と学びになった。
- ・絵本の読み聞かせや食育活動などに新たなボランティアが加わってくださり、「子どもからパワーがもらえる」「私自身が楽しんでいる」など、生きがいを感じていただくご意見もいただき、双方にとってプラスとなった。
- ・絵本修理を自ら申し出ただき、丁寧で愛情が感じられる修理をしていただき、改めて大事に使おうという気持ちが強くなった。
- ・事業毎に反省会をもったことで、ボランティア同士の親睦を深めることにもなり、新たなアイデアも生まれ、事業の広がりにつながった。

■ 事業実施上の課題

- ・園の行事と支援していただける事業をうまく合わせながら、有効な人材活用ができるようにする。また、行事が増えすぎないように、精選していく。より健やかな子どもの育成につながるような事業内容を検討していく。



【紙芝居】



【大学ポテトづくり】

■ つながる・ひろがる、ボランティアの輪（安土幼稚園）

■ 近江八幡市	コーディネーター数	1 人
■ 活動名 安土幼稚園支援地域本部	ボランティア登録数	50 人
■ 関係する学校 安土幼稚園	開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

本園でのボランティア活動は4年目となり、園の活動の流れに自然と位置づけられるようになってきた。ボランティアは、保護者、地域の方々を始め、専門的な分野で活動しておられるグループの方々など、コーディネーターが核となりネットワークを広げている。活動としては、「託児」・「図書」・「環境」の3つの柱を中心に、園のニーズに応じて地域の方のもっておられる力を園の活動の中に入れて保育をより充実させていっている。

■ 特徴的な活動内容

①託児・・・参観日等、保護者が参加する園行事に、就園前の子どもの託児をする活動で、ボランティアは女性に限らず、男性の方も一緒に託児をして下さっている。それぞれの持ち味を生かしながら、子どもたちにかかわって下さることで、家庭とは違う人との関わりが持てる場にもなっている。

②図書・・・主に読み聞かせを計画・実施する部門と、絵本の修繕、絵本室の環境構成の部門に分かれている。昨年度末に、読み聞かせグループ『まんまる』を発足し、月1回の子どもたちへの読み聞かせをしている。加えて今年度は、なつまつりの一つのコーナーに読み聞かせの場を設け、普段は子どもたちだけに行っている読み聞かせを親子を対象にすることで、親子で楽しんでもらい、活動をより知って理解してもらうきっかけの場となった。

また、子どもたちにより絵本を好きになってほしいという思いから、園側と相談しながらアイデアを、絵本室の環境を変えていった。その中で、壁面に飾るものを作成するのが得意な方が、絵本室の壁面等を飾って下さり、温かく居心地のよい雰囲気になった。また、子どもたちが読みたい絵本を選びやすく、返しやすくなった。

③環境・・・今年度は、芝生植栽という大きな事業があり、それに向けて計画をしていく中、例年とは違う作業の必要性が出てきた。準備段階の園庭の草刈りは、数日間かけて保護者ボランティア、地域の方と作業をした。しかし、あまりにも表面の土が硬いことが分かり、コーディネーター会議で話を出したところ、他地域のコーディネーターの方が表面の土を耕して下さったり、植栽準備に地域の方を始め、関わりのあるボランティア、コーディネーターの方も一緒に作業をして下さったりして、たくさんの方のつながりの中で無事に終わることができた。現在は、園庭一面に芝生が広がり、よい環境となった。



【参観日の託児の様子】

■ 実施に当たっての工夫

ボランティアの方々活動していることを園側がしっかりと把握し、園のため、子どもたちのために尽力して下さっていることを心に留めながら、可能な限り園側も一緒になって活動したり、子どもたちにもしっかりと伝えて感謝の気持ちをもったりして、コーディネーターを介しながら、つながっていくように心がけていった。

また、誰もができる、できる時にできる人が参加するボランティア活動ということに基づき、かかわっていく中で見えてくる個々のキラッと光る持ち味や特技を生かせる場を模索していくことで、さらにボランティア自身がよりやりがいを感じながら活動できるようにしていった。



【新しくなった絵本室の壁面】

■ 事業の成果

園、コーディネーター、ボランティア、それぞれがもっている“幼稚園をよくしたい”“子どもたちのために”という思いを出し合って話し合う機会をもちながら進めていくことで、互いに気持ちよく活動ができ、よりよい成果に結びついていった。

■ 事業実施上の課題

現在位置付けられている活動だけでなく、地域の方の人材を少しずつ保育の中に取り入れていっている。地域にどんな力を持った方がおられるのかをより知っていく中で、保育にどう活かしていけるかを探っていきたい。

■ 地域の方と共につながる園教育を！（老蘇幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名
老蘇幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校
老蘇幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	34 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本園での学校支援地域本部事業の取組は3年目を迎え、地域や保護者の中に浸透しつつある。①子どもたちが気持ちよく過ごせる環境づくり（栽培活動・除草作業・木々の剪定作業など）②絵本の読み聞かせ（月2回～4回）③託児支援（保育参観・学級懇談会・PTA研修会など園の行事の間）④水遊び支援（3歳児の水遊び時の着替え支援）を中心に教育活動を支援する。今年度も支援ボランティアを募集し、できる方ができる時に活動に参加してくださるよう、コーディネーターの連携のもと事業を進める。

■ 特徴的な活動内容

- ・栽培活動
畑作りからサツマイモの苗植え、収穫を一緒にする。（3・4・5歳児と一緒に）
夏の花苗植えをする。（4・5歳児と一緒に）
- ・園庭整備
運動会に向けて、保護者と共に園庭の環境整備をする。
- ・絵本の読み聞かせ
給食後・・・絵本室で子どもたちの選んだ好きな本を読む。
降園前・・・保育室で3・4・5歳児それぞれのクラスで、ボランティアが選んだ本を子どもたちに読み聞かせをする。
- ・水遊び支援
3歳児の水遊びの時に、水着への着替えや衣服の着脱支援をする。
- ・託児支援
保育参観・学級懇談会・給食試食会・PTA研修会など園の行事に、託児をする。
- ・園外保育付添い
安土山や観音正寺の山登りなど一緒に登っていただき、子ども達に地域のよさを伝えていく。



【 託児支援の様子 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・老蘇コミュニティセンターに協力していただき、保護者や地域の方に昨年の成果や事業内容を知ってもらえるよう、手紙を老蘇学区の全戸に配布し、昨年度より参加されている方は継続してそして更に人数が増えるようボランティアを募った。
- ・絵本の読み聞かせにおいて、外国ルーツをもつ方に外国の絵本を読んでいただいたり、外国語に親しんだりする機会をもった。また、活動の様子の写真やコメント・絵本紹介を掲示することで、保護者にも興味や関心をもってもらえるようにした。

■ 事業の成果

- ・地域のボランティアの方が園のために活動してくださっていることを、保護者が知ることで、“自分たちも手伝おう”“何かできることはないか”と意欲的に協力する保護者が増えた。
- ・栽培活動では、畑作りから苗植え収穫まで指導していただき子どもたちと一緒に作業をしていただいた。子どもたちも水やりなど頑張ったり、おいもパーティーをひらいたりして、収穫の喜びを一緒に味わうことができた。
- ・運動会前に園庭の除草作業の手伝いを募ったところ今年度はより保護者の参加が増え、ボランティアの方と一緒に作業を進めることができた。
- ・絵本の読み聞かせは、外国籍ルーツをもつ方に、外国の絵本や言語を紹介してもらい、多文化共生のきっかけづくりとなった。パネルシアターを作ってくださったり、CDに合わせた歌を取り入れたり、動いたり子どもたちがお話の世界を楽しむ機会ももった。また、家庭にも絵本の紹介をすることで保護者が興味や関心をもつようになってきた。
- ・保育参観や学級懇談会・PTA研修会など園の行事に、託児をしていただいたことで、下の子を気にせず、保護者は安心して我が子の様子を見たり関わったり研修に参加することができた。
- ・支援ボランティアの方も子どもたちの名前を覚えて親しみをもって関わってくださり「一緒に遊んで楽しかった。」「元気をもらった。」喜んで参加してくださる姿が見られた。



【 環境整備支援の様子 】

■ 事業実施上の課題

- ・充実した事業を進めるためには、豊かな人材の発掘が必要であり、より多くの方に地域ボランティアとして気軽に参加していただけるよう努めていきたい。地域の事を教えてもらったり、特技を生かしてもらったりするなど、今後も地域の方とのつながりを大切にしたい。園教育の理解をしていただきながら、園と地域がともに子どもたちを育てていけるようにしていきたい。

■ 草津市における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域のそれぞれがもつ教育機能を生かしながら、子どもと大人が学び合い・かかわり合い・よろこび合い・認め合う協働の積み重ねを通して、輝く人づくり・まちづくりを目指している。

今年度から、7つの小学校をモデル校として、地域コーディネーターを導入し、学校支援地域本部の制度を有効的に取り入れることで、人材や事業のさらなる拡充を図り、「地域の子どもは地域で守り育てる」という意識の定着と、つながりを大切にした豊かな学びづくりを進めている。

■ 本年度の活動

4月17日（金）学校支援地域本部事業説明会

学校支援地域本部事業の趣旨説明および地域コーディネーター導入について

5月1日（金）地域コーディネーター研修会

地域コーディネーターの機能と業務について

8月18日（火）第1回運営委員会（地域協働合校事業検証委員会）

実践事例検討および情報交換

12月2日（水）地域協働合校全体研修会

講演「斜めに交わる場所づくり～地域創生と協働～」

講師 滋賀県立大学 地域共生センター助教 上田 洋平 氏

2月～3月 第2回運営委員会

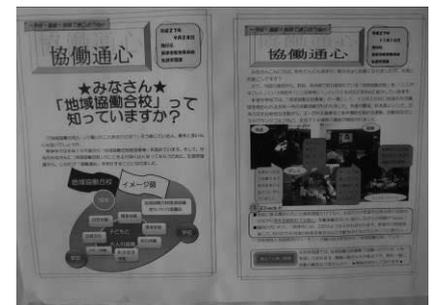


【 事業検証委員会 】

○事業の円滑な実施に向けて、学校訪問を通して、子どもたちや地域の方の活動の様子や地域コーディネーター、学校担当者との懇談から成果と課題を随時把握集積し、「中間報告」という形でまとめ、各本部に還元した。

○市全体で取り組むという意識を醸成するため、広報活動の一環として掲示コーナーの作成や通信の発行に着手し、庁内他課に対して、事業理念や学習支援の姿を広く周知した。

○事業拡充に向けて、年度末には実践事例集やリーフレットを作成し来年度につなげていく。



【 広報誌「協働通心」 】

■ 本年度の成果

- ・地域や保護者にネットワークを持った地域コーディネーターからの発信は、学校窓口担当者と地域の直接的なラインと比べて、複数のラインとなることが多く、事業の沿革に関わる地域人材とも学校が結びつき、結果的に学校支援ボランティアの組織化や「地域が学校を支えている」という当事者意識の向上につながっている。
- ・子どもたちが、様々な場面で地域の方と接することで、学習の充実化とともに、自分たちも地域の一員であるという自覚が育まれている。

■ 今後の課題

- ・学習内容だけでなく体験や活動を通じて「どんな力をつけたいのか」というねらいを学校、地域コーディネーター、学校支援ボランティアが共有するための時間的な確保も含めた工夫が必要である。

■ 「地域の人に学び、地域で生きるわたしたち」(志津小学校)

■ 草津市
■ 活動名
志津小学校地域協働合校
■ 関係する学校
志津小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	400 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

■ 活動の概要

「人に学び、地域で生きるわたしたち」をテーマに

「人・もの・地域」との出会いを大切に『志』の教育活動に取り組んでいます。

- ①志津小学校区の「地域資源」を生かした授業づくりに取り組んでいます。
- ②志津小学校地域協働合校推進事業の地域への啓発に取り組んでいます。

■ 特徴的な活動内容

①田畑づくりへの支援と交流

- ・さつまいも作り さつまいもの苗を植えよう さつまいも掘り いもパーティー (1年) 【地域老人クラブの方】
- ・米作り 田植えをしよう 稲刈り体験 収穫祭 (5年) 【地域の方】

②校内での学習支援

- ・クラブ活動支援 (4・5・6年) 【お茶・手芸・料理クラブボランティア】
- ・本大好き会 (全校) 【読書ボランティア】
- ・ホタルの生態を知ろう (3年) 【地域の方】
- ・ピオラ演奏体験 (5年) 【地域の方】
- ・書写の学習支援 (3年) 【地域の方・保護者ボランティア】
- ・昔遊びを楽しもう (1年) 【地域老人クラブの方】
- ・昔の道具を知ろう (3年) 【地域老人クラブの方】
- ・3世代ふれあい人権集会 (全校) 【地域の方】



【 昔遊びを楽しもう 】

③校外における学習支援

- ・校外学習の引率支援 乗り物にのってでかけよう (2年) 【保護者ボランティア】
- ・まち探検 (2年・3年) 【地域の施設】
- ・志津お宝発見 カーネーション栽培のお話 (3年) 【地域の方】

④学校安全・環境支援

- ・あいさつ運動 【地域・保護者の方】
- ・環境整備 【地域・保護者の方】



【 あいさつ運動 】

■ 実施に当たっての工夫

学年の要望を簡潔にまとめ、コーディネーターによる綿密な計画を立てている。

学校の要望を地域の方に伝え、地域の方の得意とされることを活かせるようにしている。

打ち合わせ準備・当日・振り返りなど、単発ではなく話し合いを重ねている。

■ 事業の成果

地域の方に、本校の特色や目指している姿を理解していただき、支えていただいた。

児童が地域の方と接することで、顔見知りとなり、挨拶ができ、地域の中の一員であることを理解するようになった。

児童は、地域の特色や伝統、地域の方の意気込みを知り、自らも続こうとする姿がみられた。

今年度よりコーディネーターが間に入るにより地域の方の声を取り入れやすくなり、クラブボランティアの組織化や

書写ボランティアという新しい支援を得ることができた。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの活動希望日時と学校側が求める活動日時が異なることが多く調整が難しい。

■ その他

志津小学校のホームページに「That's my 地域協働合校 report」のパナーをつくり、地域協働合校事業の取り組みを写真などで紹介している。

<http://www.shizu-p.skc.ed.jp/report.html>

■ ふれあい、学び合い、心をひびかせる 草津っ子（草津小学校）

■ 草津市
■ 活動名
草津小学校地域協働合校
■ 関係する学校
草津小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	139 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

■ 活動の概要

歴史と伝統のある草津小学校では、温かい地域の方の支えにより、「ふれあい、学び合い、心をひびかせる草津っ子」を合い言葉に、自分のよさ、学校のよさ、地域のよさを共に高め合おうと取り組みを続けてきた。草津市の市街地の中にある本校だが、校地内に作っていただいた学校田や畑で、毎年米作りやサツマイモ作りを続けている。また、ボランティアの方を招いて毎年「お米パーティー」や「おもパーティー」を開き、親交を深めている。子どもたちとの交流だけでなく、ボランティア同士の交流や親睦が深まり、自主的に参加してくださる方が少しずつ増えてきて、地域との関わりが高まってきている。

■ 特徴的な活動内容

○「はなややさいをそだてよう」

1年生の生活科で、環境ボランティアの方に指導していただきながら、サツマイモを植え、植物のいのちを感じながら水やりをして育てている。秋には収穫したサツマイモを使って「おもパーティー」を開き、ボランティアの方を招待して共に収穫の喜びを味わい、交流を深めている。

○「水のめぐみ、米作り大作戦」

5年生の総合的な学習で、冬の土作り、代掻きから1年間に渡って「米作り」について学び、学校田で米を栽培している。特に田植え、稲刈りの時は一人ひとりの手を取って丁寧に指導していただき、米作りにかかる思いや願いを感じながら学習することができた。秋には「お米パーティー」にボランティアの方を招いて学んだことを発表し、収穫した米をおにぎりにして共にいただき、交流を深めている。

○「名人に学ぼう」

4年生の総合的な学習で、日本の伝統的な文化（茶道、日本舞踊、謡曲、和太鼓）に関して、地域や草津市内におられる名人さんに話を聞いたり、実技を指導していただいたりして、学んだことを互いに発表しあった。子どもたちが日本の伝統文化にふれるよい機会となり、発表会に指導していただいた名人さんを招待して交流を深めている。

○読書ボランティア「にじ」による読み聞かせ

読書ボランティア「にじ」のみなさんが、朝のはげみタイム（10分間）に絵本や紙芝居の読み聞かせを各学級の教室で行っている。また、「おひるのお話会」として、昼休みに紙芝居やパネルシアター、絵本の読み聞かせなどを行っている。何度も来ていただいているうちに、ボランティアの方とも顔なじみになり、子どもたちは来てくださることを楽しみにしている。

■ 実施に当たっての工夫

高齢化や体調により、活動を辞退されるボランティアの方がおられたので、ボランティア同士でも声かけをしていただき、新しい参加者が増えた。また、ボランティア同士の交流や親睦が深まるように、活動後に必ずミーティングや懇談の時間をもち、「来てよかった、また来なくなる」ボランティア活動を目指した。ミーティングの場では意見交流を行い、次の活動に生かすようにしている。また、子どもたちとの交流がそのとき限りにならないよう、学習後も発表会などでふれあいや関わりを深め、次年度へとつながるように心がけている。

■ 事業の成果

何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、担当が交代しても、ボランティアの方が活動の流れを把握していただけており、毎年、主だった活動にスムーズに取り組んでいる。また、継続して取り組んでいることが、ボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という生き甲斐や誇りにつながっている。学習のまとめである「おもパーティー」、「お米パーティー」、運動会や歌声集会にも積極的に参加していただき、交流や関わりが深まり、子どもたちの豊かな学びにつながっている。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの方の熱心な支援で、子どもたち一人ひとりに丁寧に指導していただいている。おかげで、学習は予定通りスムーズに進んでいくが、「子どもたちが立ち止まって考えたり、試行錯誤をしながら自力解決したりする力が育つ機会を減らしているのかもしれない」という危惧の念を抱くことがある。事前の打ち合わせなどで、学習内容だけでなく、体験を通じてどんな力をつけたいのかという学習のねらいや、役割分担について、学級担任やボランティア同士の連携を密にし、十分に共通理解しておくことが大切である。



【仲良くサツマイモ植え】



【学校田で田植え】

『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！（草津第二小学校）

■ 草津市
■ 活動名
草津第二小学校地域協働合校
■ 関係する学校
草津市立草津第二小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	107 人
開始年度	平成27年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

草津市では、17年前から、子どもと大人の協働を通して『輝く人づくり』を進めるため、地域に開かれた学校を目指すとともに、子どもの学びを学校と地域で連携して支援することを目的にして『地域協働合校』事業を進めてきた。今年度から、学校支援地域本部事業と連携し、「地域コーディネーター」を配置して新たな取組を始めた。本校では、「『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！ ～地域と協働し活力のある学校をめざして～」をスローガンに、地域や保護者と協働でさまざまな活動に取り組んだ。

■ 特徴的な活動内容

(1) 各学年での特徴的な学習支援

□1年生「昔遊びにチャレンジ」

友だちと群れて遊ぶことが少なくなった子どもたちに、地域の高齢者の方々から、めんこ、だるま落とし、あやとり、けん玉、コマ回し、お手玉、おはじきなどの遊びを教えていただき、伝承遊びに興味をもち、意欲的に遊ぼうとする子どもたちを育てる。

□2年生「赤ちゃん先生プロジェクト」

NPOと地域の企業との協働により、0歳児の「赤ちゃん先生」との5回のふれあいを通して、命の大切さ、成長の喜びを感じる体験をする。自分にも赤ちゃんの時期があり見守られながら成長していること、かけがえのない存在であることを感じていく。

□3年生「ふれあいお店体験」

草津駅前の商店街で、3年生児童がお店体験をすることにより、地域の方々と積極的に関わり、交流しようとする態度を育てる。また、どのような思いや願いをもって働いておられるかに気づき、働くことの大切さについて体験を通して学ぶ。

□4年生「バリアフリーってなあに」

実際に車いすを体験したり、車いすを利用している方（車いすテニスプレーヤー）のお話を聞いたりすることで、利用している人の視点で介助を行うことや、バリアフリーについて学ぶ。

□5年生「田んぼのこ」

学区内に唯一残っている田んぼを学習田としてお借りし、田植えから稲刈り、そしてお世話になった地域の方々（田んぼのこ応援団）を招待して開催する「収穫感謝の会」を実施して、農業について体験的に学ぶ。

□6年生「マイドリーム」

地域の方や卒業生をゲストティーチャーに招き、今の仕事に就こうと思ったきっかけや努力したこと、仕事をする上で困ったことややりがいなどについて話をしていただく。自分の将来に夢を描き、その実現に向けて努力していこうとする意欲を高める。

（ゲストティーチャー：アナウンサー、救命救急士、パティシエ、カメラマン、他。計7回）

(2) 図書室支援

□図書館ボランティア「よもとライブラリー」の皆さんが、読み聞かせや図書室の整理、図書の貸し出し支援、図書の修繕や廃棄等、熱心に活動されている。

(3) クラブ活動支援

□クラブ活動（野球、陸上、ニュースポーツ、書道）の指導や準備・後片付けなど、子どもたちの活動を支援してくださっている。

(4) その他

□運動会前に、運動場の芝生の雑草抜きをボランティアの皆さんが集まってしてくださっている。

■ 実施に当たっての工夫

年間計画を年度末に見直し、新年度初めに新たに作成することで、一年間の活動に見直しを持つとともに、地域コーディネーターと連携して、地域の方へ早めに連絡・予約をとり、スムーズに実施できるようにした。

また、保護者や地域へ取組を周知するために、積極的に情報を記者提供した。

■ 事業の成果

地域協働合校からの積み上げがあるうえに、地域コーディネーターが意欲的に動いていただいたので、ボランティアの人数や分野が増え、子どもたちの学習が一層充実した。



【駅前商店街でのふれあいお店体験】

■ 事業実施上の課題

今年度から配置された地域コーディネーターが一層活躍できるように、学校内の役割分担や教員との連携を高めていきたい。

■ いいなあ いいなあ とともに学んで ふれ合うまち 渋川（渋川小学校）

■ 草津市
■ 活動名
渋川小学校地域協働校
■ 関係する学校
渋川小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	80 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働校事業は平成 10 年度から実施)

■ 活動の概要

地域に開かれた学校として開校し 13 年目を迎えた本校では「いいなあ いいなあ とともに学んで ふれ合う町 渋川」をスローガンに、地域と共に活動を展開している。子どもたちが地域の様々な人や物と出会い、人と人とのつながりを深めていけるような場を作れるように取り組んだ。

■ 特徴的な活動内容

(1) 地域の伝統文化「渋川の花踊り」継承事業

地域の人々が受け継いできた「渋川の花踊り」を保存継承するための努力を理解し、渋川という自分が住んでいる町にほこりと愛情を持つ気持ちを育てる機会を持つと 3 年生の子どもたちのために「渋川の花踊り」保存会の方に来ていただき学び体験する機会を作った。学んだことからポスターを制作し町内会の掲示板に掲示させていただいた。そして「学区ふれあいまつり」では、地域のみなさんと全校児童の前で「渋川の花踊り」を披露し会場を盛りあげた。

(2) 近隣高校生との交流事業

本校の隣に滋賀県立草津東高等学校があり、高校生から運動の楽しさを学ぼうと、体育科の生徒に来てもらい 5 年生・6 年生を対象に自分の課題を持ち、記録を伸ばすために助言をもらいながら交流を深めることができた。

(3) 図書室支援と読書支援

本校では図書ボランティアサークル「アトム文庫」による支援を継続している。主な内容は、図書室支援では、図書室での昼休み貸し出しの手伝いや新着本配架準備等を、読書支援では、絵本読み聞かせ、ペープサート劇（年 2 回）、「おすすめ本バトル」企画等を行い、その他には夏休み工作教室や「お話キャラバン隊」を開催し好評だった。

(4) ビオトープ管理支援

開校時に、一年がかりで地域の方々と子どもたちの手で作られたビオトープを、子どもたちが学習の場、憩いの場となるよう地域の方々と P T A の方々により年に 3 回整備作業が行われている。

(5) 「渋川・風景の記憶絵」活用支援

6 年生が地域で 5 年前に制作された「渋川・風景の記憶絵」を見ながら、地域の方に当時の様子や思い出を話してもらい渋川の歴史を学ぶ機会をもつことができた。その後「渋川かみしばい」制作に発展し地域に披露する展開となった。



【学区ふれあいまつり】



【渋川・風景の記憶絵】

■ 実施に当たっての工夫

地域の方々とコミュニケーションをとり、実施にあたって早めにお願ひし、実施内容をしっかり説明できるように準備を進めた。

■ 事業の成果

地域の方々に様々な形で支援してもらうことができて、渋川ならではの事業を行うことができた。子どもたちは、今まで知らなかったことを知り、自分たちの住む渋川を今までより愛する気持ちを持つ機会となった。

■ 事業実施上の課題

支援して下さる地域の方々が、学校と関わりやすい環境をつくり、気軽に学校に来てもらえる雰囲気づくりを大切にしたい。

■ 協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢そだて（笠縫小学校）

■ 草津市
■ 活動名 笠縫小学校地域協働合校
■ 関係する学校 笠縫小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成 27 年度 (地域協働合校事業は平成 10 年度から実施)

■ 活動の概要

本校では、「夢いっぱい 生き生き学ぶ 笠縫の子」をめざす子ども像として、地域との協働による活動を推進している。本校の活動では、「栽培体験合校」、「地域の人と学ぶ合校」、「読書推進合校」を活動の窓口として、計画を進めている。

以前から地域の方々の協力を得て教育活動の充実に努めてきたこともあり、さらに、今年はコーディネーターの協力も得て、様々な活動に地域の人材をもとめて活動している。

■ 特徴的な活動内容

- ①「栽培体験合校」では、子どもたちのサツマイモの栽培活動、アオバナ栽培、米作り体験などの学習の場で、地域の方々に「畑の先生」、「アオバナの先生」「田んぼの先生」、ボランティアなど、多様な形で支援してもらいながら協働している。
- ②「地域の人と学ぶ合校」では、昔遊びの先生、町の名人先生、故郷の歴史の先生をはじめ、子どもたちの福祉体験の先生、ミシンや調理の先生など、多くの学習活動の場で地域の方々と協働している。
- ③「読書推進合校」では、読書ボランティア「お話の森」さんによる毎月のお話を始め、子どもたちが楽しく何度も行きたくなくなるような図書室づくりや、読書活動推進への取り組みなどについて協働している。
- ④「地域安全・学校安全合校」では、見守り隊による登下校の見守り、保護者による校内巡視なども支援していただき、安心安全な地域・学校の環境づくりに協働している。

■ 実施に当たっての工夫

本校の事業の実施に当たっては、できるだけ地域に根差した教育活動でありたいと考えている。自分の住む地域の良さに気付いたり、自分の学校や校区の事を詳しく調べたり、校区の人たちの生き方や温かさに触れたりすることで、自分の住む地域の良さに気付けるような活動も大事にしたいと考えている。

一例として、「アオバナ博士になろう」の取り組みがある。草津市の花でもある『アオバナ』が、校区内で今も栽培されていて、アオバナ生産の伝統を受け継ぐ名人がいて、その技が生き続けている校区である。例年、3年生児童は、総合的な学習の時間で、「アオバナ博士になろう」という学習に取り組み、地域のアオバナ名人の話を聞き、アオバナの栽培を指導してもらって、花摘み体験をしたり、アオバナで染物をしたりして、アオバナのことや地域の伝統、名人の生き方や願いなどを学んでいる。

その中で大事にしているのは、

- ・校区のアオバナ名人に、アオバナの先生として子どもたちと関わっていただくこと。
- ・アオバナの苗を学校の学年園に植えて栽培体験をして、アオバナについても学ぶこと。
- ・植え方、育て方などもアオバナ名人に教えていただく中で、名人の生き方や願いに触れること。などである。

また、6年生では「ふるさと歴史探訪」として、地域に伝わる文化遺産ともいえる伝統行事を窓口保存会の方たちを先生として学んだり、地域の先人もいえる著名な画家の人生や業績についてよく知る人や、その子孫の方たちを先生に学んだりしている。

すべてが地域に根差すものばかりではないが、地域に学び、地域の人と触れ合いながら学びを深める部分は、今後も大切にしていきたいと考えている。



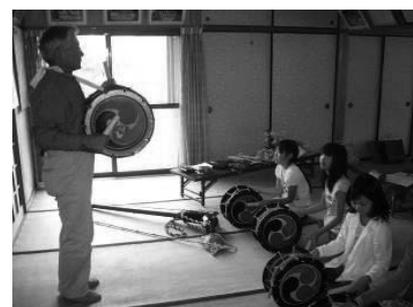
【 アオバナの先生 】

■ 事業の成果

「栽培体験合校」や「地域の人から学ぶ合校」、「読書推進合校」「地域学校安全合校」という窓口から、様々な取り組みを進めることは、活動の方向性が分かりやすく、計画・立案やその実践の改善・充実に役立っている。そして、それらの学びや活動に取り組むことで、地域の人と出会い、生活の場が学びの場になり、自分のふるさとである笠縫の地域についても多様な観点からの理解へとつながっている。

■ 事業実施上の課題

子どもたちは、年々進級していくが、その学年でそれぞれの学習や活動に出会うので、毎年改善や修正をしながら積み上げをするようにしている。課題としては、「〇〇の先生」の裾野を広げていくことと、スムーズなパトタッチをしていくための人材発掘をコーディネーターと連携して進めていくことが課題といえるだろう。



【 ふるさと歴史探訪 】

■ ふるさとの「いのち」とふれあう東っ子（笠縫東小学校）

■ 草津市
■ 活動名
笠縫東小学校地域協働校
■ 関係する学校
笠縫東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	80人
開始年度	平成27年度 (地域協働校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

本校は、「葉山川」をはじめとする豊かな自然環境と、学校教育に協力的な地域住民が多いという人的環境とに恵まれた学校であり、これまでから、たくさんの地域の方々の力を借りて教育活動の充実に努めてきた。今年度はコーディネーターの活躍により、今まで以上に学習ボランティアへのサポートがきめ細かにでき、学習活動をスムーズに推進することができた。

■ 特徴的な活動内容

(1) 全学年が行う「葉山川学習」(環境学習)

地域の葉山川を素材として、1年生から6年生までの系統的なカリキュラムのもと、地域の学習ボランティアとともに環境の学習を行い、その成果を11月の地域ふれあいまつりの場で「ふるさと葉山川博物館」として、地域住民や保護者に向けて発表する。

- ・1年生・・・葉山川の土手で、春と秋の虫さがしをしたり植物に親しんで遊んだりする。
- ・2年生・・・春に葉山川付近の水路で生き物さがし。秋には、葉山川周辺を探索し、特徴的な生き物・草花のマップ作り。
- ・3年生・・・理科の昆虫の学習とリンク。春と秋に葉山川土手に出かけ、各季節の昆虫の様子を比較する。
- ・4年生・・・葉山川の魚調べ。昔の葉山川の歴史や様子を知り、現在と比較し川と人々の生活とのつながりを考える。
- ・5年生・・・川と琵琶湖の関係やプランクトンの様子を調べ、琵琶湖の環境保全を考える。
- ・6年生・・・地域の環境保全に取り組む方々の話を聞き、その活動や思いを知り、自分には何ができるかを考える。

これらの取り組みを、学年ごとにブースに分かれて、「ふるさと葉山川博物館」で発表することが定着している。

(2) 「民生委員さんとの交流」

3年生と地域の民生委員・児童委員の方々が、地域安全マップを作ったり、交流活動（百人一首や楽しいゲームなど）をするなかで、地域の人たちに守られて成長してきたことに気付く。

(3) 「夢・未来教室」～ようこそ先輩・ただいま授業中～

各界で活躍する本校卒業生等が4年生から6年生に授業をし、子どもたちが夢や憧れをもって頑張ろうとする意欲を喚起する。

(司法書士、ヨット選手、医者、カメラマン、翻訳家、救急救命士、新聞記者など)

(4) その他

朝の読み聞かせ（全学年）、米作り体験（5年生：「種もみの話」から「収穫感謝集会」まで）、茶道体験（6年生：茶器制作から「感謝のお茶会」まで）、「昔の遊びを楽しもう」（1年生）、着衣泳体験（6年生）など多数の活動への支援がある。

■ 実施に当たっての工夫

協力してもらった学習ボランティアには、子どもたちがお礼の手紙や学習の感想を書いて渡したり感謝集会を開いたりして、感謝の気持ちを伝え、活動後も地域などでお互いの交流が図れるようにしている。

■ 事業の成果

本校の中心事業である「葉山川学習」は、校外でのフィールドワークが中心となるため児童の安全確保と活動支援に多数の学習ボランティアが力を貸してくださっている。また、学習ボランティアの植物や昆虫・魚に対する専門知識と、事前の川の水量確認や土手の草刈りなどの準備もなくはない支援になっている。コーディネーターの存在により、学習ボランティアとのさらなるきめ細かな連絡が図れたことにより、学習活動の充実につながった。

■ 事業実施上の課題

各学年での活動が定着すればするほど、マンネリ化する傾向がある。その年度の子どもの実態に合わせて、教師が活動の工夫をすることが求められる。

また、学習ボランティアも固定化されがちなので、新しい人材発掘のため、教師が地域の活動に関心をもつことも大切である。



【 葉山川土手での昆虫採集 】



【 葉山川での魚採りの様子 】

■ ふるさと だいすき 常盤っ子（常盤小学校）

■ 草津市
■ 活動名 常盤小学校地域協働合校
■ 関係する学校 常盤小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	300 人
開始年度	平成27年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

子どもたちを、学校と家庭、地域が、一体となり、見守り、支えていくことを目標に活動を展開している。子どもたちが、地域の方との交流を通して、自分の生まれ育った場所に愛着と誇りを持てるように取り組んだ。

■ 特徴的な活動内容

○「ときわ探検」

3年生の総合学習で、学区内の歴史的建造物を訪れたり、産業の現場を見学したりすることで、地域の良さをあらためて知ることができた。特に、志那町で行われている淡水真珠の養殖の見学時には、養殖されている方の全面的な協力のもと、見るだけでなく、実際に貝にさわって、真珠を取り出す作業まで体験することができた。地域の方とのふれあいを通して、子どもたちの記憶に深く残った活動となった。

○「米作りと環境学習」

5年生の総合学習で、米作りを通して命のありがたさや環境の大切さについて学んだ。地域の農家の協力を得ることで、身近な場所で稲を見守り、成長の喜びを感じながら米作りをすることができた。また、田んぼにつながる水路の生態系を、地域の方とともに探索する活動を通して、食と環境のつながりや環境を守る大切さについて実感をもって学ぶことができた。

○「ふなずし作り」

5年生の総合学習で、ふなずし作りを通して、滋賀の食文化を知り、伝統文化を守っていくことの大切さを学んだ。

常盤学区には、伝統的なふなきり神事や家庭でふなずしを作る文化が、受け継がれている。実際に伝統を受け継いできた方に、思いを聞いたり、一緒にふなずしを作ったりする中で、地域に一層愛着を持ち、ふなずしなどの伝統的な食文化をより身近に感じる事ができた。



【ときわ探検】



【ふなずし作り】

■ 実施に当たっての工夫

学校のコーディネーター担当者や担任が、人材の発掘で大きな役割を担う地域コーディネーターと打ち合わせの時間をとり、活動の趣旨を十分に理解してもらえるように心がけた。

■ 事業の成果

地域の方に協力をしてもらうことで、子どもたちにとって印象深い体験的な活動を多く行うことができた。また、活動の中で子どもたちと地域の方が交流することで、子どもたちには地元に対する愛着を、地域の方には、自分たちが学校を支えていくのだという当事者意識を育むことができた。

■ 事業実施上の課題

地域の方に多く関わってもらえばもらうほど、綿密な打ち合わせや連絡が必要になる。地域コーディネーターのおかげで、教師負担が軽減されてきたが、子どもの実態にあわせた対応を打ち合わせる十分な時間を確保することが難しい。また、学校ボランティアに参加したいという気持ちはあっても、機会がなく、活動できていない地域の人材をどのように活用していくかも課題である。

■ 栗東市における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

地域の方々の理解、協力を得ながら、とりわけ学校での活動における健全な青少年育成を進めたいと考えている。本市は9小学校、3中学校を有しているが、そのうち1中学校において、学校支援地域本部を設置している。もとより、地域のボランティアの方々によって生徒指導面における学校支援を目的として組織された団体が基幹となって活動を進められており、地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組み、学校や家庭での教育活動支援を進めている。

当該校における活動が青少年の育成に良い影響をもたらし、他校へと広まっていくことによって、市全体の青少年育成の推進、地域教育力の向上、学校との連携を深め、広げていくことをめざしている。

■ 本年度の活動

1校において学校支援地域本部を設置している。サポーター会議において年間の行事予定や、サポーターを増やす試みについての取組みについて協議を行った。

■ 本年度の成果

1校のみではあるが、その中で美化活動や見守りをはじめ、サポーターの協力を得ながら多くの活動を実施できた。校内の活動だけではなく、育てた作物の販売や、生徒と共に地域の清掃活動に出向くなど、地域においても幅広い教育活動支援を展開している。また、地域の方々とともに学校生活を送ることによって、地域に対する感謝の心が育ってきている。

■ 今後の課題

一番の問題となるのはスタッフの確保である。企業の人材不足により、高齢者の再雇用や女性の社会進出が進んでいることで、ボランティアとしてスタッフを募集しても、人が集まりにくい。「学校関係の活動に対する協力」となると構えてしまう人が多いとも考えられる。まず、コーディネーターとなる人材の安定的な雇用を確立し、常に地域に対して学校支援への協力を呼びかけられるような体制づくりが求められる。しかし、現在はコーディネーターの負担が大きく、今後コーディネーターの安定的な雇用を確立する為には、コーディネーターの負担を軽減させる取組みが必要となってくる。

さらに、市内小・中学校で実施している学校が1校しかないので、今後他校にどのように広めていくかも課題であり、実施している1校の活動内容や実績を広く広報することにより、他校での実施の気運を盛り上げていきたい。

「おらが学校！」地域と学校を結ぶ栗東中学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」

■ 栗東市
■ 活動名
栗東中学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」
■ 関係する学校
栗東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	38 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」は、平成19年度、生徒指導面を支援する地域住民団体が基盤となり「栗中改革サポーター」として発足された。発足当初は、日々の学校教育活動における生徒指導面での支援を中心に、授業や清掃の見守りなど、生徒の学校生活の中に大人の目を増やす取り組みからスタートした。現在38名の地域住民、保護者から編成されるボランティア「登録栗中サポーター」と43社の学校支援地域本部をサポートする地域事業所「栗中ブースター」が「栗中サポーターズクラブ」として組織し、幅広く学校教育支援活動を実施している。

■ 特徴的な活動内容

- ①学習環境支援・・・美化活動や、ドアや窓の点検も兼ねながら、廊下から授業の様子を見守る支援（月2～3回程度）
- ②図書室支援・・・新着図書の蔵書作業や、図書室運営の全体を支援（月1～2回程度）
- ③環境整備支援・・・植栽伐採・砂場の整地、生け花支援など校舎内外の学校環境向上全般における支援（通年）
- ④通学マナーアップ・・・登下校時の危険個所での立番活動（通年）
- ⑤学校行事支援・・・チャレンジウィークや環境整備などの学校行事、校外学習、地域美化活動など生徒会への支援
- ⑥栗中コミュニティガーデン・・・学校と地域との協働運営菜園での野菜栽培

■ 実施に当たっての工夫

- ・「栗中サポーター」の来校を職員や生徒へ周知・・・来校時に専用のユニホームと名札を着用していただき、サポーターの来校が一目でわかるようにする。来校時には、職員室黒板に来校サポーターのお名前と活動内容を記し、全職員に周知する。
- ・校内に「栗中サポーター」専用スペースを確保・・・「栗中サポーター」と職員の打合せや情報交換、「栗中サポーター」同士の交流の場の確保。来校される際、気軽に学校に来ていただけるよう工夫。校内での「栗中サポーター」の位置づけや理解にもつなげる。
- ・「栗中サポーター」の活動時には、可能な範囲で生徒と一緒に活動できる時間帯に設定。無理のない範囲での生徒との関わりを大切にくださっている。コーディネーター、または、管理職、負担のない程度に職員にも関わっていただき、人と人との関係づくりを大切にしている。
- ・目に見える活動計画と実践の報告・・・月報「栗中サポーター通信」を「栗東中サポーターズ」以外にも地域の役員の方、保護者の方あてに毎月約900部配布し、活動の計画や実践をお知らせしている。起業体験店の開店時など、事業所様や公共施設にポスター掲示のご協力もいただいている。校長室前壁面にサポーター専用の掲示板を設け活動写真などの紹介している。幅広く、たくさんの方に理解していただき、本校の教育活動への協力者を増やす工夫をしている。

■ 事業の成果

- ・発足から長年にわたり、たくさんの方々のご努力により活動が定着し、通信でお知らせすれば、その活動に得意な方、あるいは関わりのある方が参加して下さり、地域の方がうまく関わってくださるシステムができています。
- ・「栗中サポーター」への連絡は、可能な限り生徒が手紙を配達することにより、地域の方との交流を深める機会となっている。
- ・地域の役員を兼ねておられる「栗中サポーター」も多く、頻繁に学校に来てくださることで、地域と学校との距離が近くなった。
- ・廊下からの授業の見守り支援では、ユニホームを着て回られる。窓越しに黄色の服が映るが、違和感なく安心感がたどよい、良い刺激にもなっている。また、ゆとりをもって校舎の窓やドアなどの点検や美化活動も兼ねて回って下さり、日ごろ忙しい教員とは違った観点から観察していただき貴重な存在となっている。（学校・「栗中サポーター」感想）
- ・地域へ広がる活動として、①生徒と協働菜園で栽培した野菜の販売・・・保護者や地域の方に、体育祭や、勤労体験学習（2年生）の一環である起業体験店舗で出荷・販売（収益は福祉協議会に寄付）②生徒会と部活動、主催の近隣地域のゴミ拾い清掃活動・・・「栗中サポーター」支援のもと実施。地域の人に大きな声であいさつができるようになってきた。「栗中サポーターズクラブ」について認知いただく機会となり、大切にしている。
- ・協働菜園活動は、生徒により体験となっている。（生徒感想）「初めて、玉ねぎの苗を見た。植え方を教えていただいた。ねぎと変わらないのに来年の夏には、大きな玉ねぎになり、売るそうだ。全部、元気に育てほしい。」
- ・（栗中サポーター感想）「生徒たちとの関わりを大切にしながら、いろんな活動を続ける中で、生徒たちも恥ずかしがらず「栗中サポーター」を受け入れている。大きな声であいさつができるようになった。」

■ 事業実施上の課題

- ・「栗中サポーター」の献身的なご努力は、なくてはならない貴重なものとなっている。登録数は、昨年に比べ10名増えたが、高齢化が進んでいる。連携を密にする体制を絶えずとるように心がけているが、活動資金の確保が難しく、厳しい状況にある。



【 協働菜園で収穫した野菜の販売準備 】



【 1年校外学習 出発前の駅での見守り 】

■ 湖南省における学校支援地域本部の取組

■めざす姿

本市においては、「学校支援地域本部事業」の取組を開始して8年が経過し、「小学校はコミュニティ・スクールへ、中学校は学校支援地域本部の設置を」を湖南省ビジョンとして掲げ、地域による学校支援活動を推進している。すでに岩根小学校は平成19年に、新たに本年4月に石部小学校、石部南小学校、菩提寺小学校、菩提寺北小学校がコミュニティ・スクールの指定を受け、地域と学校が一体となって創り上げる学校を推進している。市内他校も、各々の学校、地域、児童・生徒の強み、弱みをもとに学校支援地域本部実行委員会（運営委員会）や、学校運営協議会制度導入に向けた「C・S導入推進委員会」で「将来の地域の担い手を育てるために、どのような児童・生徒を育むのか」等について、地域の力を生かした学校支援活動のあり方や学校と地域とがともに創り上げる学校のあり方等について熟議と協働を進めている。

■本年度の活動

学校支援地域本部事業運営委員会 第1回6月9日(火) 第2回11月24日(火)

1) 講話「学校支援地域本部からC・Sへの移行に向けて」

「これからの「地域とともにある学校づくりの推進に向けて」

講師 びわこ学院大学准教授 文部科学省CSマイスター 高木 和久氏

2) 中学校区別分散会 3) 全体交流 総括講話 ・第2回前半に教育長講話

学校評議員・学校運営協議会理事・学校支援地域本部委員等合同研修会 2月23日(火)

1) 感謝状贈呈2年次 2) 実践発表 市内代表校による取組発表

3) 講演「コミュニティ・スクールのこれまでと今後のあり方」(仮題)

講師 びわこ成蹊スポーツ大学助教 武井 哲郎氏

市内地域コーディネーター、コーディネーター会議

第1回 4月27日(月) ・湖南省教育指針、「地域とともにある湖南省ビジョン」の周知

・地域コーディネーター委嘱状授与 ・学校支援地域本部事業等の進め方について

・中学校区別地域コーディネーター第1回交流会議

中学校区別地域コーディネーター交流研修会議 各学期1回開催 4月、10、11月、2、3月

・CSや学校支援地域本部事業の動向について

・小中連携、小小連携を意識した各校の事業取組の交流や情報交換 ・その他

■本年度の成果

- ・地域コーディネーターを中心に中学校区間の情報交換を行い、学校や地域の特性・実情を生かし児童・生徒が将来の地域の担い手となる力を育てる取組への工夫・改善が図られつつある。
- ・学校支援地域本部の従来からの「環境整備」「登下校安全指導」「学校行事」「クラブ活動支援」「学習支援」に加え、「土曜の教育支援事業」「放課後子ども教室」により、「学力補充のための学習支援」や「体験教室」の取組が積極的に実施され、地域をあげての子どもたちの学力向上への気運を高めつつある。

■今後の課題

- ・事業の周知と地域人材の育成を図る中で、各学校支援地域本部の経済的自立に向け、地元自治会や地域まちづくり協議会、企業やNPO法人等との連携を深めていく必要がある。

■その他 湖南省 HP <http://www.city.konan.shiga.jp/>

広報番組「きらめき湖南」平成27年11月放送分『楽しくて 力のつく湖南省教育』

石部小学校の宝物は全校の子どもたち（石部小学校）

■ 湖南市町
■ 活動名
石部小学校応援団
■ 関係する学校
石部小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	180 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

今年度より石部小学校は「学校」と「地域」が協働して教育を推進する「コミュニティ・スクール」へと生まれ変わりました。コミュニティ・スクールでは、「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標として、3つの委員会「学習支援委員会」「体験的活動委員会」「校外生活支援委員会」の中で、「熟議」を重ね、「協働」して取組を推進しています。子どもたちが『生きる力』を身につけ、「石部の町」の未来を切り開いていってくれることが願いです。コミュニティ・スクール石部小学校を支援するため、引き続き、学校支援地域本部でも、子どもたちが感謝の心を持ち、笑顔で地域の方と交流できるような活動を目指しています。

■ 特徴的な活動内容

○「みんなで仲良く元気に環境委員会」の活動

石部小学校の校庭は、花であふれています。環境整備ボランティアが種から育て、花壇に植えてくださっているからです。環境委員会の子どもたちが、活動の一環として一緒に作業しました。芽が出た苗をポットに植え付けたり、大きくなった苗を花壇に植えたりしました。

○「魚を上手に食べよう」から「お箸の持ち方」指導へ

給食の「骨付きの魚」の残菜が多いことから、栄養士の先生の提案から始まった「お魚を上手に食べよう」の活動が5年目となりました。石部小学校が自校給食から、センター給食へとかわり、魚の献立とボランティアの参加可能な日程を合わせることの難しさから、「お箸の持ち方」指導へ変更しました。子どもたちへの指導は更生保護女性会の方をお願いしました。「してはいけないお箸の使い方」を絵で説明し、その後、菜箸を使い「お箸の正しい持ち方」を説明していただきました。

○サタデースクール「防災グッズを作ろう！」

学校では、避難訓練を行っています。家庭ではどうなのか？と疑問に思い、PTA親子活動の中で、家庭でも防災について話し合ってもらおうと計画しました。

◆当日の内容◆

- ・自然災害はどんなものがあるか？
- ・湖南市 防災マップの説明
- ・我が家の防災マップを作ろう！
自宅に印をつけて、避難所までのルートを確認しよう
- ・防災グッズを作ろう！《ツナ缶ランプ・キッチンペーパーマスク》
- ・非常食を味見しよう！ローリングストック法の説明

■ 実施に当たっての工夫

- ・苗のポット植えは、長休み時間を利用し、環境整備ボランティアに教えていただきながら、一緒に作業を行った。普段、ボランティアは授業中に活動して下さっているの、子どもたちと交流はほとんどないが、ポット植えを通じて、会話もでて、交流の機会を持つことができた。
- ・「お箸の持ち方」指導は、対象が1年生ということもあり、担任の先生と打ち合わせをし、わかりやすく、短時間の説明にしていた。ボランティアは、子どもたちの班に入り、一緒に給食を食べながら、お箸の使い方を教え、一方、子どもたちは、牛乳パックのたたみ方や、食器の返し方をボランティアに教え、双方がお互い教え合うという交流の時間が持てた。
- ・「防災グッズを作ろう！」は、講師として防災士、地域の防災資格を持っておられる方に来ていただき、説明するだけでなく、防災クイズなど、子どもたちが考え、手を挙げて答えられるような内容にした。防災士の方からは、現場のこと、災害によって避難所が異なること、家庭で防災について話し合うことの大切さなど、貴重な話をしていただいた。

■ 事業の成果

学年に合わせた方法で説明することにより、子どもたちの聞く姿勢ができ、ボランティアのみなさんも子どもたちの反応を見ながら、楽しく交流できた。

■ 事業実施上の課題

地域の方には、子どもたちと関わり、子どもたちの現状を理解してもらい、石部の子どもたちの「力」になるような活動に取り組んでもらうことが必要だ。



【 お箸の持ち方指導 】



【 防災士のお話 】

■ 「子どもと地域がびびきあう」 みなみっこ応援団（石部南小学校）

■ 湖南市
■ 活動名
みなみっこ応援団
■ 関係する学校
石部南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	175 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

地域と連携して学校支援する体制

- 学習支援 【森林環境学習】【家庭科】【読み聞かせ】【サークル活動】
- 環境整備 【グラウンド草刈り 整備】【ふれあい農園整備】
- 安全面 【スクールガード】
- まちづくり協議会との連携 【避難訓練】【防災訓練】【交通安全教室】

■ 特徴的な活動内容

- 森林環境ボランティア「みどりのバトンタッチ」設立は平成13年。会員数は22名。平成24年度には緑化功労賞「しゃくなげ賞」を受賞。「ふれあい夢の森」という山を中心に環境整備や間伐作業など年間を通して、子どもたちと一緒に「シイタケ栽培」「間伐体験」「木工教室」「植樹」「下草刈り」等、環境学習活動を行っている。
森林環境学習に詳しいボランティアを講師に迎え教職員の研修を行う。ふれあい夢の森に入り、檜、杉、松の特徴と用途や木が育つまでの手入れの仕方等を学ぶ。
- 体育大会やマラソン大会等、学校行事に合わせて、環境整備ボランティアが行われる。
- 下校時の子どもの安全見守りボランティア「宮の森」が新しく結成された。
- まちづくり協議会主催の行事に学校も積極的に参加した。

■ 実施に当たっての工夫

- 「みなみっこ応援団だより」の発行
毎月一回、地域の方がボランティア活動をしてくださった内容を紹介した広報誌を発行することにより、地域の方に学校ボランティアの内容を知ってもらい、学校と地域とがお互いに深く関わっていることを知ってもらう。
- 地域ボランティアとの打合わせは、電話ではなく、なるべく顔を見て打ち合わせを行う。顔を見ながら打ち合わせをすることにより、ボランティア以外のことも話す事が出来て新しい発見をすることがある。
- 学習支援ボランティアが行われる時は、事前に集まっていたき、授業の進め方を説明し共通理解をしてから教室へ行ってもらう。
- ボランティアの顔写真入りの名札が職員室入り口に設置されており、来校時に付けてもらっている。学校に来られたことがわかりやすく、子どもや先生方に顔と名前を覚えてもらいやすい。

■ 事業の成果

- 森林環境学習では各学年年間を通して同じボランティアから学習を受けることで、計画的に学習が進められボランティアとの関係も深まった。
- ボランティアからの支援を受けるだけでなく、学んだことや感想を子どもたちが書き、ボランティアのもとへ届けることで、やりがいを感じてもらうことができた。
- 環境整備活動をしてくださることで、PTA会員作業がスムーズに行われた。
- 「宮の森」スクールガード立ち上げまでの打ち合わせを何回も行き、学校も地域に足を運ぶことで地域の信頼を得ることができた。
- 石部南学区まちづくり協議会の行事に学校側も積極的に参加することによって、地域の方との交流ができ、学校と地域の連携が進んだ。

■ 事業実施上の課題

- ボランティアが活動できる時間と、学校側が求める時間を調整することが難しい。



【まちづくり協議会と合同交通安全教室】



【宮の森区スクールガード発足会】

■ みくもっ子だいすき この一年（三雲小学校）

■ 湖南市
■ 活動名
みくもっ子支援委員会
■ 関係する学校
三雲小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	280 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

5年目の活動に入り、これまで展開してきた事業を継続し、その活動が定着している。今年度は、先生方と地域の方々との関わりを作る取り組みを行い、地域の強みを生かすことが出来た。

■ 特徴的な活動内容

年間を通して

- ・図書ボランティアは図書室の整理整頓、絵本の読み語りを続けていただいた。
- ・スクールガードは各区のご協力をいただき、児童の登下校の時間にきめ細かく対応しながら見守りをいただいた。
- ・環境ボランティアは校地内の除草、剪定、花壇の手入れ、修繕など必要に応じて活動していただいた。
- ・掃除時間及び通学道中の見守り（大人の目で今の子どもたちの様子をみてもらう・関わりを持ってもらう）

学習の支援として

- ・田んぼの応援団では田植え、稲刈りの指導、田の管理をお願いした。
- ・町たんけん（3年総合学習）では、児童の企画したスケジュールに沿って、地域の方と一緒に歩き必要に応じて説明をいただいた。（右写真）
- ・水泳ボランティアは高学年の水泳指導を助けていただいた。
- ・昔あそび（3年親子活動）では、紙飛行機、こま、けん玉、羽子板、輪投げ等遊びの講師をしていただいた。
- ・ふれあい食育教室では「おやつのととり方」についてお話していただき、児童の育てたさつまいもを使って一緒におやつ作りをした。



【 町たんけん 地域の方と歩く 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・家庭科ミシンと水泳について、ボランティアを確保していくため、保護者ボランティアとして参加された方には他学年でも活動していただけないか声かけをした。
- ・環境整備の花の苗について、地域の方に昨年の花のこぼれ種から育苗していただいたので、たくさんの苗を準備できた。それ以外にもご近所から頂戴した苗があり、大変ありがたかった。
- ・町たんけんでは、校区内をまんべんなく案内していただけるよう、各区長を通して人材を紹介していただいた。

■ 事業の成果

- ・5年目ともなり、活動が定着しているので、支援をお願いしやすい関係が築けている。
- ・長年、ボランティアによる読み語りを聞いて育った児童の中から「自分たちも読み語りをしたい。」という動きが現れ、図書委員が低学年の教室で絵本の読み語りを披露した。（右写真）
- ・花壇の植栽をしていると児童が寄ってきて一緒にできたり、お礼の手紙を書いたり、次第にボランティアに対する親近感が強まっていると感じている。
- ・ボランティアとして参加された地域の方からも、子どもたちとふれ合う時間を楽しんでいるとの声をいただいた。



【 図書委員による絵本読み語り 】

■ 事業実施上の課題

- ・小学校から中学校にかけて9年間連携した課題（あいさつ・食事・掃除）に対して、急がず長く続く支援活動をしていきたい。
- ・学校支援事業を上手に活用できている学年に偏りが見られるので、先生方にさらにアピールしていきたい。
- ・委員会活動との関わりを調整することが難しかった。

■ その他

ボランティアに来られた方から「今、ここで小学校に出向くこと、子どもたちと関わる事が出来るとは思ってもみなかった。」とお礼の手紙を受け取り、心温まることだった。

■ 支援の広がりと充実をめざした「東っ子応援団」の取り組み（三雲東小学校）

■ 湖南市
■ 活動名
東っ子応援団
■ 関係する学校
三雲東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	150 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

昨年同様、学校と家庭そして地域が、子どもの課題を共有し、課題解決に向け、一体となって連携の方向を探るとともに、子どもの安全と学習活動がより充実する取組となるよう、地域の大人との様々なふれあい活動を大切にしている。

農園ボランティア・スクールガード・学習支援ボランティア・図書（朝の読み聞かせ）ボランティアを中心に活動を実施している。

■ 特徴的な活動内容

【農園活動】

夏野菜・さつまいも・なたねを育て、収穫している。特になたねの栽培は、3年生の後半から4年生の間、苗の移植・刈取り・脱穀と作業も多く、昔の道具「とうみ」を使っている。脱穀体験作業など、年間を通して農園ボランティアが活動のサポートをしている。

【スクールガード】

登下校の立当番のほか、週に一回、1年生だけで下校する日には各地区からスクールガードが小学校まで迎えに来て、児童に付き添って下校している。

【その他】

朝の読み聞かせ・校外へ出る学習の付き添い・裁縫やミシン、調理実習の補助・ゴーヤカーテン作りなどで保護者・地域の方の協力のもと実施している。



【スクールガードの見守り】

■ 実施に当たっての工夫

- ・一人でも多くの方が、一回でもボランティアに興味を持って参加していただけるよう、打ち合わせや案内文書の配布は出来るだけ早めに行っている。
- ・授業参観など学校行事で保護者が来校する日には、校内にボランティアの募集や、活動の様子を掲示して、周知を図っている。
- ・学校行事の案内を地域ボランティアの方にも届け、日常の関わり以外の面から学校や子どもの様子を見ていただく機会を作っている。

■ 事業の成果

- ・ボランティア活動へ継続的に参加している地域の方々のなかで、安全面や学習面へのサポート強化に向けた話題が増えた。子どもに対する関心が年々高まってきているのを感じる。
- ・ミシン、裁縫、調理の補助などの学習支援は、一度参加した保護者がまだ参加したことのない保護者へ話をし、ボランティアの輪をひろげた。仕事の休みをボランティアの日に合わせてくださる保護者がいることなど、共働きの多い地域のなかで、早めに案内を出すことの効果は徐々に出てきている。
- ・活動後には参加の感想を求めている。初めての参加者からは新鮮な意見、参加経験のある方からは子どもの変化や工夫・改善できる意見や感想を得た。職員にも伝え、これからの活動に役立てていきたい。
- ・学校以外の場所でボランティアの方に挨拶する子どもがいて嬉しかったという話を聞くことがあった。地域に顔見知りが増えて、みんなが自然に挨拶や感謝の気持ちを伝え合えるよう、活動を続けたい。



【学習支援ボランティアとミシン操作】

■ 事業実施上の課題

- ・子どもへのサポートについて関心が深まっているが、地域・学校、それぞれの思いがあり、目標が定まっていない。連携を深めるための意見交流の場を設けること、課題解決に向けた目標も共有できるようにしていく必要がある。
- ・学校からの案内などの配布物が保護者まで届いていないという声を時々、耳にする。保護者の参加を呼びかけるために、児童も巻き込んで、募集に協力してもらうよう職員とコーディネーターとの連携や声掛けの方法を工夫し、引き続き、広報活動にも力を入れていきたい。
- ・コーディネーターがもっと地域とつながることで、地域の人材発掘や学校・児童と地域をつなぐ活動の活性化を図れると考えている。協力者の偏りを少なくし、地域の方の活躍できる場、気持ちよく活動できる場を作りたい。また、児童には、その支援に対して素直に感謝でき、成長を見せることで、共に喜び合える活動になるよう努めていきたい。

■ 地域と学校で共有する「子どもをお客さんにしない」教育の実現に向けて（岩根小学校）

■ 湖南市
■ 活動名
岩根小学校支援地域本部
■ 関係する学校
岩根小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	224 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

生徒指導上の問題、家庭支援の必要性など、様々な課題を抱えていた本校が「学校運営協議会理事会」を設置したのは平成19年4月のことであった。学校の課題を学校の中だけで解決するのではなく、地域とともに解決の方向を見出していこうと、学校教育の現状と課題について「制度的」「物的」「人的」「教育内容的」の4側面から見直しを実施し、「21世紀の岩根の子どもを育てる推進委員会」「ボランティア推進委員会」「岩根の子どもたちの安全と安心を見守る推進委員会」を設置し、活動を開始した。

また、平成20年度には「学校支援地域本部事業」を受託し、地域の教育力を生かしながら子どもたちの今日的課題の解決と豊かな学びの実現をめざしている。昨年度、学校に支援して下さったボランティアはのべ3,500人にのぼる。

■ 特徴的な活動内容

かつて、この地に乱舞していたホタルを蘇らせようと、地域の中で「岩根にホタルを飛ばそう会」が組織されている。ホタルが飛び交う様子を愛でる鑑賞会を、校舎改築を機会に本校で開催することとし、校地内の「ホタル川」にホタルの幼虫を放流（5年、12月）→ホタルに関する学習（4年・6年、5～6月）→ホタルまつり（6年中心、6月）というサイクルを確立、地域の方の協力を得ながら、子どもたちに郷土愛・自然環境保護の思いを育てる活動を展開している（5年の環境学習は「びわ湖フローティング・スクール」を活用）。

「ホタルまつり」当日は地域の方も多数お越しになり、大賑わいの一日となるが、6年生が「お店活動」「ホタル学習の成果発表」に活躍し、自分たちで「やりきった」感を得る一日でもある。

また、今年度新たに取り組んだこととして、まちたんけん（2年）における各地域の案内、「歴史の部屋」を活用した地域歴史学習（5年）、交通安全教室（全校）などがあり、いずれも地域の教育力を生かした内容になっている。

■ 実施に当たっての工夫

本校の学校運営協議会が生徒指導上の問題や家庭支援の多さに端を発して設置したものであることは冒頭に紹介したとおりであるが、それだけに子どもや家庭の抱える課題

を踏まえて何をどうしていくかを考えるようにしている。「21世紀の岩根の子どもを育てる推進委員会」では、委員会が主体となって実施する学校評価（児童対象、家庭対象、地域の方対象）を踏まえ、よりよい学校づくりのための提言を行うが、ここに学校が実施する教職員の学校評価を加えて、校長が新しい年度の「学校経営方針」を打ち出すこととしているのもその一例である。

*平成26年度末学校評価に基づく提言

- ①双方向の情報交流の推進
- ②家庭学習の充実（学校、家庭での読書活動の充実）
- ③いじめの早期発見、早期対応の体制
- ④子どもの「やる気」と「自信」を育てる環境づくり

■ 事業の成果

今年度は校報「根っこ」を月2回の発行とし、できるかぎり子どもたちの学びや活動をリアルタイムにお知らせすることを心がけてきたこともあって、保護者にも地域にもこれまで以上に学校の様子を理解してもらっている。何らかの問題が発生して学校の姿勢を伝えなければならなくなった時も、保護者に納得していただきやすくなっているのではないかととらえている。それは、地域の方の支えがあればこそという学校の現状に対する認識が進んだことのおかげでもある。

また、様々な支援をいただくことで子どもたちの活動がスムーズになり、子どもたちは自分でやってきたことに対する自信を持ち、新たなことに挑戦してみたいという意欲づけもできてきている。これは大変大きな成果である。

■ 事業実施上の課題

すべての保護者、すべての地域の方に、こうした活動や理念を理解してもらっているとはまだ言えない状況がある。今後、新たな理解者・協力者を作り出していく必要がある。



【「ホタルまつり」は大盛況】



【「歴史の部屋」で地域を学ぶ】

■ 学校・家庭・地域をつなぐ「苦っこを育てる会」(菩提寺小学校)

■ 湖南市
■ 活動名
菩提寺小学校支援地域本部
■ 関係する学校
菩提寺小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	210 人
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

本校は、今年度から学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとして動き出し、「苦っこを育てる会」(学校支援ボランティア)の活動も包括しながら、「あいさつ・温もりのある学校づくり」をテーマにして活動を進めてきた。

■ 特徴的な活動内容

本校の特色である、異学年交流「きらめき活動」は、春の遠足から始まり年間を通して行っている。縦割りの子どもたちが主体の活動だが、そのつど、安全の確保など必要な支援をボランティアで行っている。例えば『きらめき遠足』では、長い行程を1年生から6年生までが一緒に歩く際、危険箇所立ち安全を見守る、共に遠足に参加し一日一緒に過ごし児童を見守る、など多くのボランティアが遠足のサポートをしてくれた。

また、温もりある学校づくりの一環で、子どもたちがほっとできる空間作りに取りかかっている。校舎内の廊下に手作りのベンチを設置するとともに、その周りに行事や学校での子どもたちの姿を写真やキャプションでまとめたパネルを展示することで憩いの場、語らいの場づくりをすすめている。

地域にもこうした活動をより知ってもらい、参画の輪を拓げるために、広報発行の際、校区内全戸配布するようにしている。



【～きらめき遠足～自由時間
児童を見守るボランティア】

■ 実施に当たっての工夫

地域のリーダーとなる人を中心にボランティアを募り、各々活動に対応している。「苦っこを育てる会」実行委員をはじめCS理事が率先して、子どもたちの居場所作りをサポートしている。

■ 事業の成果

学校の活動に対する支援は何年も続いてきたことで、ボランティアに参加する側もある程度予測しているため、依頼する時点でスムーズに進むことが多い。
地域の人が来校することにより学校内の様子、子どもたちの様子を知ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

ボランティアのリーダーが不在の地域があり、依頼する際、どうしても参加ボランティアの地域が偏った状況になってしまう。今後、すべての地域でリーダー発掘ができればと思っている。
ボランティアグループ同士が交流できる場所作りを増やし、横のつながりを強くできたらと考える。
現在、『苦っこはうす』は、家庭教育支援事業のサロンを中心に利用しているが、地域の人たちや保護者の皆さんが、気軽に利用できるスペースにできたらと思う。

■ その他

子どもたちのこと、学校のことを考えて、進んで活動してくれる地元のサポーターはとても心強い存在だ。今後、そういった輪が少しずつでも若い世代にも広がっていかれたらと思う。



【手作りベンチに座っておしゃべり中】

楽しく役に立つ 減災キャンプ あすなろ応援団活動（菩提寺北小学校）

■ 湖南市
■ 活動名
あすなろ応援団
■ 関係する学校
菩提寺北小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

キャンプは6回目を迎える。減災キャンプを昨年に引き続き、災害時には避難場所である菩提寺北小学校で行った。一昨年までは、希望が丘のキャンプ場で開催されたが、より防災・減災色を濃くし、直接の避難所となる学校での開催となった。また、親子での参加を促進し家族で減災を考える場とした。

■ 特徴的な活動内容



【3つの減災ゲームと消防士体験】

* 6班に分かれて、3種類の減災ゲーム

- ① 火の中では、ほふく前進で逃げようゲーム
- ② 衣服に火が付いたら転げて消すゲーム
- ③ 竹とTシャツ3枚で担架リレー

その他に

- * 大声で「火事だ〜」と叫ぶ大声コンテスト
- * ブルーシートでテントづくり
- * ロープワーク
- * ペットボトルで食器づくり
- * 無洗米をポリ袋に入れてごはんを炊く グレーチングかまどでカレー作り
- * 夜にはツナ缶に穴をあけて、たこ糸を通した明かりで夕食
- * クイズを解くナイトウォークと天体観測

最新消防自動車がやってきて、実際に消防器具を持ったり、消防服を着てみたりした。かなり重く動きにくいという感想があった。水消火器で火を消す体験や的あて消火を体験し、はしごで屋上に上る消防士の実演を見学をした。

■ 実施に当たっての工夫

1泊2日の減災キャンプが、充実したものになるように、盛りだくさんの防災・減災プログラムを考えた。すべてのゲームは災害時には実践的なものであり、頭で考えるのではなく、体で覚えるという体験型に工夫した。また、消防署などにも協力を得て、貴重な経験もできるようにし、来年2016年度の減災キャンプには、地震体験車（起震車）をすでに予約済みであり、より災害を意識的に体験する場を設定する予定である。

■ 事業の成果

主としては、参加者は小学生とその保護者だったが、保護者とともに幼児も参加し、より災害が起きた時のリアルな動きが体験できた。ボランティアに中学生・高校生・大学生が参加し、大活躍した。災害時の実践力として大いに期待される。また、実際に保存食を口にし、身を守る様々な減災・防災グッズを使い、試すことができ非常に手応えを感じた。

体験型にしたことにより、実際に役に立つこと、役には立たないことが明確に提案できたと考えている。

■ 事業実施上の課題

菩提寺北小学校は学区で唯一の避難所だが、同時に土砂災害区域にあるので、土砂災害の時には避難所としては想定されておらず、その時はどういう施設へ避難すればよいのか不明で、課題である。

まずは、家族で事前に相談することだが、地域としても、対応できるように、これから、考えていかななくてはならないと感じた。

夏休みという事で、家族旅行やさまざまなイベントと重なり、年々参加者が減少しているのので、参加者が増えるよう来年度は時期等、考えていかななくてはならない。

■ その他

参考URL 菩提寺北小学校

<http://www.edu-konan.jp/bodaijikita-el/>



【U字溝とグレーチングの竈で食事作り体験】

■ ～おりがみで交流を～ “おりがみの日” の取り組み【下田っ子応援隊 なすびいず】（下田小学校）

■ 湖南市
■ 活動名
下田小学校支援地域本部
■ 関係する学校
下田小学校

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	5人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

地域の方々に向けて、下田小学校でのボランティアの募集をしていた際に、ひとりの方から「おりがみを折ることが得意なのですが、小学校で何かお役に立てないでしょうか？」と下田小学校へ連絡があり、地域コーディネーターと下田小学校と相談をし、提案をくださった方を、「おりがみの先生」としてボランティアに来ていただき、平日の中休みを利用しておりがみの講習会をおこなうこととなった。子どもたちにわかりやすいように講習会を「おりがみの日」と名付けた。

■ 特徴的な活動内容

《活動日・時間》月に1回～2回（おおむね火曜日）中休みを利用

《活動場所》下田小学校 3階 なすびいずルーム

《活動内容》

- ・季節に合わせたおりがみの折り方を子どもたちに教える。

（例）

1学期…季節の花（アジサイ、アサガオ など）の折り方

夏休み前…七夕飾りの折り方、夏休みにあそべるおりがみ（わか飛行機、ピョンピョン蛙 など）の折り方

2学期…季節の行事（ハロウィーン、クリスマス、お正月 など）でつかえる

おりがみの折り方

3学期…少し難易度の高いおりがみ（立体的な花 など）の折り方

- ・おりがみで作ったおもちゃ（紙飛行機、輪投げなど）の遊び方を教え、一緒に遊ぶ。
- ・おりがみで、図書室やなすびいずルームの季節飾りを作る。

■ 実施に当たっての工夫

①事前にコーディネーターとボランティアとで、どのようなおりがみを折るかを打ち合わせするようにし、「おりがみの日」実施の数日前に、ポスターなどで、どのようなおりがみを折るかを子どもたちに告知するようにした。

②「おりがみの日」実施日の中休みの始めに、告知アナウンスをするようにした。

③「おりがみの日」を実施するにあたっておりがみの先生以外のボランティアにも参加してもらえるよう告知をするようにした。

④おりがみの先生以外のボランティアが参加する場合、おりがみの折り方を事前に講習するようにし、子どもたちにしっかり教えることができるようにした。

⑤折るものによって、準備するおりがみを変えるなどし、子どもたちに興味を持ってもらえるようにした。

（例）「紙飛行機」や「わか飛行機」などは丈夫でカラフルな紙を用意

クリスマスやお正月の飾りなどを折るときには、「ホイルカラー」や「和柄」などのおりがみを用意 など

⑥「おりがみの日」を実施している間、コーディネーターはその場にいるが、おりがみの先生や、ボランティアが主となって子どもたちへ折り方の指導ができるようにした。

■ 事業の成果

①おりがみを通して、子どもたちと地域の方々交流する機会ができた。

②子どもたちが日ごろはなかなか作ることができないようなおりがみの折り方も教えてもらえるので、子どもたちが興味を持っておりがみに取り組み、集中して折ることができるようになった。

③図書室やなすびいずルームを季節ごとのおりがみ作品で飾ることにより、子どもたちが季節の行事などに関心を持つようになった。

④地域の方が活動に参加しやすくなったことで、いろいろな方が来てくださり、交流や情報交換の場にもなってきた。

⑤子どもたち同士で、教えてもらったおりがみの折り方を教えあうことも増え、他学年との交流につながっている。

■ 事業実施上の課題

①様々な行事等により、子どもたちが参加できず「おりがみの日」が実施できないことがある。

②飛行機などの遊べるおりがみの時は、子どもたちの参加が多く、ゆっくり折り方を説明することができないことがある。

③折り方の説明をしても、普段からおりがみに触れていない子どもたちは理解できないことがあり、わかりやすく教えることが難しく、時間も限られているので、ついボランティアが折ってしまうことがある。



【おりがみを折る様子】



【子どもたちの作品：クリスマスツリー】

■ 心のふるさとづくり ～子どもは〇〇があれば必ず成長する！～（水戸小学校）

■ 湖南市
■ 活動名
みとっ子応援団
■ 関係する学校
水戸小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	75 人
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

「心のふるさとづくり」を合言葉に、学校を核として大人も子どもも地域の一員であると実感できる場づくりと学校と地域、地域と子ども、たくさんの人が顔見知りになるよう地域とともに子どもを育てる活動、教員が子どもに向かう時間の拡充を図るための活動を推進している。

■ 特徴的な活動内容

- ①図書ボランティアによる朝の読み聞かせ
- ②3年生の総合的な学習の時間
- ③11月のマラソン大会の安全見守りボランティア
- ④保護者、ボランティア、地域の方を対象にした「子育て・親育ち講演会」
- ⑤職員とボランティアの交流会と事業報告会の開催

■ 実施に当たっての工夫

- ①毎月全学年全クラスに朝の読み聞かせを行っている。月に一度のミーティングには学校の担当職員も参加し、ボランティアが読んだ本の紹介や子どもの反応などを話し合って次回の読み聞かせにつなげている。
- ②「水戸のすごい人について知ろう！」という授業に地域の方にゲストティーチャーに来ていただいた。読み聞かせ、図書室整備、登下校見守り、茶釜川の環境活動、プール支援、学習支援などのボランティア活動の他、まちづくり協議会、スポ少サッカークラブのコーチ、またコーディネーターも子どもたちにインタビューを受けた。
- ③マラソン大会では試走（2回）と本番3日間に、のべ70人のボランティアに協力してもらった。住宅街を走るため、細い道や車の多い道が多く、子どもがコースを間違えないようにポイントを決めて立っていただいた。長時間になるため、ボランティア一人ひとりの都合や体力なども考慮した上で無理なく参加してもらっている。
- ④心を育む活動として、甲賀市水口町のスポーツクラブ心理カウンセラーの知田 良博さんを講師にお招きし、アンガーマネジメントについての学習を行った。怒ることは決して悪いことではないが、怒りの出し方、伝え方を学び、子どもとの関係や人間関係のよりよい築き方を知った。
- ⑤教師、ボランティアが日頃の活動のふりかえりや学校、子どもについて話し合い、「子どもは〇〇があれば必ず成長する！」とそれぞれが思うことばを考えて紹介しあった。ゲームなどを交えて参加者が楽しくリラックスして参加できるよう工夫した。



【マラソン大会の安全見守りボランティア】

■ 事業の成果

子どもたちが自分の住んでいる地域で、地域のために進んで活動している大人について知ることができた。ボランティアも子どもたちに「なぜこの活動をはじめたか、やっていて嬉しいことは。」と直接尋ねられたことで活動への思いを改めて考えることができた。地域の方と子どもたちが顔見知りになることで、日々の子どもの気になる様子だけでなく、地域での嬉しい子どもの姿もコーディネーターや学校に伝えてくれることが増えた。子どもたちにとっては、評価されることのない大人との関わりがほっとできる時間に思える。親や教師以外の大人との関わり、何気ない話をする中で、いじめの早期発見や対応につながっている。

今年度は、どの活動もボランティア自身楽しんで参加していると感じた。経験を重ねることで取り組む姿勢や参加の意義について各々捉え方が変化してきているように思う。

■ 事業実施上の課題

コーディネーターやボランティアが経験を重ねてスムーズに行える活動もあるが、担当が変わると担当の思いがあるので、打ち合わせの時間を意識してつくり、授業のねらいやボランティアの役割などを伝えてもらったり、子どもや学年についての特徴も聞いていたりすると対応する心構えができ、より学習を深めることができるのではと感じる。気持ちのよいあいさつがあると気持ちよく活動が行える。まずは大人からあいさつすることを保護者、地域と協力して取り組んでいきたい。ボランティアの高齢化も懸念されるので、地域の方へ学校が自己実現の場、生涯学習の場であることの周知にいっそう力をいれる必要がある。

■ 教師、ボランティアが同じ方向をめざして活動を進める。

今年のテーマ～子どもは〇〇があれば成長する！～

愛・向上心・学校・見守る人・ぎゅう（ハグ）など、たくさんのどれも素敵なことばが入りました。みなさんはどんなことばをいれますか？



【教師とボランティアの意見交流】

■ 「地域は学校（生徒支援）へ」・「学校（生徒）は地域へ」（石部中学校）

■ 湖南市
■ 活動名
石部中学校支援地域本部
■ 関係する学校
石部中学校

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	55人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

昨年度より支援地域本部の活動を開始して2年目。1年目の活動を着実に継続していくことを念頭におき、何よりも地域コーディネーター2名の連携と、加えて学校長との共通理解を図るための打ち合わせを確実に実施し、取組にもれがないよう、逆に重複しないよう調整を図りながら進めてきた。学校や地域の中におけるコーディネーターの存在も徐々に定着しつつあると感じている。

特に、地域の中においては、学校に来てくださるボランティアとも意思の疎通が出来つつあることで、来てくださる方にとって学校の敷居も徐々に低くなってきた。

また、コーディネーターは、来年度のコミュニティ・スクール正式発足を前にしたCS推進委員会では、事務局の立場で熟議にも参加し、コミュニティ・スクール活動を視野に入れた動きを心がけている。

■ 特徴的な活動内容

- 「地域が学校（生徒支援）へ」・・・地域のボランティアが学校に出向いて生徒の支援をしてくださる活動
本の読み聞かせ・3年生の面接練習・技術科木工学習・家庭科ミシン学習・環境整備など
- 「学校（生徒）が地域へ」・・・生徒が地域に出向き、自分たちのできることで地域づくりに貢献していく活動
夏祭りボランティア・ふれあいまつりボランティア・社会を明るくする運動啓発・共同募金啓発・障がい者週間啓発など

■ 実施に当たっての工夫

特に「夏祭りボランティア」については、昨年度を皮切りに特に力を注いでいる取組で、生徒の募集にあたっては学校で「各地域集会」をもち、その場に地域の方も出席して直接生徒に呼びかけていただく方法をとっている。やはり、このスタートからが地域との協働であり、当日に向けて企画の段階から中学生が参画した地域が、昨年1か所だったのが3か所に増え、催し後の反省会にも中学生が加わる地域がでてきた。最終の目標は全地域（9か所）が前日までの準備段階から中学生が関わることで、当日も含めて「地域の一人としての実感」を得ることである。

■ 事業の成果

- ・地域の方が生徒を支援してくださる気持ちと支援内容が定着し、協働で育てていく上での過程も明確になってきた。
- ・夏休み中の夏祭りボランティアに関しては、昨年以上に取組を早めたことと、地域の方にも認識が深まったことで、生徒にも存在感の高揚が芽生え、活動に対する主体的な姿が見られるようになってきた。
- ・各種の地域に出向いてのボランティアを実施したことで、地域の方が中学生に関心をもってくださり、学校への発言、提案等も以前に比べると建設的な内容がみとれるようになってきた。



【生徒が夏祭りスタッフ】

■ 事業実施上の課題

- ・地域によってボランティアを希望する人数に差が生じ、極端に生徒数の少ない地域は、なかなかボランティアを確保することが困難である。（生徒個々に働きかけている）
- ・地域によっては、中学生が企画段階から参画していくことの意義を理解し、実践していただくことが難しいところもあり、校区全体が同じスタンスで取り組むことには容易ではない。

■ その他

- ・特に「生徒が地域に出向いての参画」は、あまり多くの行事や催しを対象とすると、消化型になってしまう恐れがあるため、できるだけ絞って取り組むことで、事前と事後も含めて内容を深めていきたい。
- ・学校と地域の架け橋となるコーディネーターの存在は大きく、これからもPTAはもとより、地域の方々に存在を認識していただけるような努力が必要である。
- ・今後「支援地域本部事業」はコミュニティ・スクールとの両輪で継続し、生徒支援の分野において、「地域の方が中学生に関心をもってくださること」をねらいとして、あまり拡張し過ぎず、あくまでも課題に沿った活動を展開していきたい。



【地域の方の学習支援】

■ 地域の力を学校へ 中学生の力を地域へ（甲西北中学校）

■ 湖南市
■ 活動名
甲西北中学校支援地域本部
■ 関係する学校
甲西北中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	13 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

学校支援地域本部事業の活動を開始し2年目を迎えた。2つの小学校区からそれぞれ1名ずつ、計2名のコーディネーターが絶えず連携を図りながら様々な活動に取り組んできた。学校と様々なボランティア活動をつなぐ役割を担うコーディネーターとは、定期的に打合せ会議をもち、活動そのものの進捗状況の確認やボランティアの新規開拓に努めるよう心がけた。また、今年度は学校の意向のもとに進める活動をベースに、さらに「子どもために」を中心に据えて活動するよう心がけている。来年度は30周年を迎えることもあり、学校と地域をつなぐパイプ役としての、より効果的な動きを探っているところでもあり、学校としての方針やねらいをより明確化させながら継続的な取組につなげていきたい。

■ 特徴的な活動内容

【本立ての製作における生徒への支援】

1年生の技術科授業において、1枚の板から本立て（6種類の作品中、生徒は1つを選択）を製作する過程を、ボランティアの方に支援していただきながら授業を進めた。具体的な内容としては杉板へのけがき、のこぎりによる切断、釘穴のけがき、および、きりによる穴あけ、釘打ち、やすり、オイルによる仕上げという過程を通して本立てを仕上げるための支援活動である。1回の授業におけるボランティアの人数は4～5名で多いときには7名手伝ってくださる日もあった。10月～12月まで延べ16回と継続して来校していただくことで、はじめはボランティア自身の中学生の頃との違いに驚いておられ、生徒の現状に嘆かれていたが回数を重ねるごとに生徒とのつながりができ、その熱意が生徒へも伝わり、生徒自身もゴール（作品完成）を目指して頑張り通すことができ、本立ての完成につながった。

■ 実施に当たっての工夫

担当教師とボランティアによる事前打ち合わせを実施した。具体的には、生徒の現状把握と製作工程の確認をした。担当教師とボランティアの打ち合わせが事前にできない場合はコーディネーターを通して行うようにした。この結果、スムーズに授業を進めることができ、また個別に生徒を支援する際、ボランティアが仕上げていくのではなく、生徒自身の力を引き出し、完成させるような支援をしてくださるようお願いした。



【技術の授業における、木材加工のボランティアの方々による学習支援の様子】

■ 事業の成果

生徒にとって初めての木工製作は教師の説明だけでは理解が難しく、実技が上手くできない多くの生徒に対して教師の補助としてボランティアが教え励ましてくれた。そのことにより本立ての製作を一人でも多く完成へと導いてくれたのではないかなと思う。その結果、生徒の達成感や満足感を高めることにつながったと思う。担当教師からも作業そのものが大変スムーズに進んだという感想もあった。のこぎり、きり、釘打ちなど危険を伴う作業ではあったが、1グループに1名の割合でボランティアの方の支援を受けることができ、木工に対する苦手意識を取り除くことができたように思う。

■ 事業実施上の課題

当初はボランティアの方を探すのに手間取り、色々な自治会の皆様にも協力をお願いして実際14名のボランティアが支援に応じてくださった。前年度にも課題にあげたが、授業時間の変更が生じた際に学校に来られてから変更を伝えることになったためボランティアの方に迷惑をかけた。

■ その他

初めての技術科支援に参加してくださったボランティアは当初自分たちの中学生の頃と違う姿を見て批判されていたが、打ち合わせや確認作業を重ねるという丁寧なコミュニケーションをとることで生徒の立場に立って支援をしてくださることができた。ボランティアの方から「来年も来るから連絡してほしい」という言葉をいただいた。ボランティアの方の中には故障している機械を修理しましょうと言ってくださる方もいた。

■ 地域と共に子どもを育てる ～地域の方は学校へ子どもは地域へ～（日枝中学校）

■ 湖南市
■ 活動名 日枝中学校支援地域本部
■ 関係する学校 日枝中学校

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	20人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

生徒の持つ力を地域に活かし、達成感を感じて自己肯定の気持ちを育むことを目指す活動を行う。また、地域の方々には、生徒の自主性と自発性を尊重しながら生徒が必要とするサポート活動を行って頂けるよう、呼びかけを行う。

■ 特徴的な活動内容

○本の帯作り・・・前年度の図書委員会の「世界に一つのオリジナル帯づくり」の活動を発展させ全校に参加を呼びかけた。
本を読み、その世界観に触れ、自己表現の手段として本の帯作りにチャレンジする活動を行った。
活動当日には本校の読み聞かせ隊の方々や応援団の方に帯の紙を選びカットして頂く作業や、アドバイスが必要な生徒に寄り添って話を聞いて頂くなどのサポートを行って頂いた。
完成した帯はコンテスト形式で優秀作を決定し、地域の書店（2店舗）と公立図書館に本と共に展示して頂くことで地域の方々に広く中学生の活動を知って頂く機会を持った。

○その他活動・・・1年生への絵本の読み聞かせ活動、2年生へのキャリア教育、3年生のお弁当教室、図書室開館支援、工業団地製品の校内展示、書道授業のサポート、調理実習サポート、広報活動など

■ 実施に当たっての工夫

本の帯作りに関しては、事前に生徒たちに好きな作品を読んでキャッチフレーズや概要をまとめておけるように説明を行い、創作活動に際してはじっくりと作成に取り組めるよう作成日を2日間設けた。又、地域で作品展示をして頂く上で、より多くの方々の目にとまり活動の様子を知って頂けるよう、活動中の様子を撮影した写真をDVDのスライドショーで流せるように加工し展示をお願いした店舗にて取り組みの様子の映像を流して頂いた。

■ 事業の成果

本の帯を作品として作るという活動を通して、試行錯誤の過程と完成した時の達成感が得られたと感じた。普段書店などで何気なく目にする本の帯を作る事の難しさや、良いデザインや心に訴えかける言葉とは何か？という気付きにもつながったと感じられた。地域書店で作品を展示して頂くことで、生徒たちも自分の作品を地域の方に認めて頂くという貴重な体験が出来た。展示して頂いた書店の方からは「この活動が他校にも広がって多くの生徒が参加するイベントになると良いと思う」との言葉を頂いた。来期には市内の各校との合同企画が予定されている。

■ 事業実施上の課題

様々な活動を行う上で、地域の方の協力が不可欠だが、活動内容の周知が十分出来ていないと感じる。活動報告を行っている「応援団新聞」を地域に回覧しているが、仕事をされている方などの目にとまる機会が少ないと感じる。より多くの方に活動を知って頂き、参加を呼びかける為にも学校応援企業や公共施設・病院などに積極的に出向き、掲示をお願いする活動を広げていきたい。

■ その他

書店で流して頂いたスライドショーは本校卒業生が手掛けてくれた。
母校の取り組みや後輩の活躍を応援してくれる力は次世代につながる一歩だと感じた。



【本の帯作りの様子】



【本の帯 書店展示の様子】

東近江市における学校支援地域本部の取組

■めざす姿

心豊かな児童・生徒の育成を目的として、市内小中学校に学校支援地域本部を設置し、円滑に学校と地域及び保護者、関係諸団体等がつながり、連携協働による地域全体での継続的な学校教育支援活動の充実を目指し推進している。

■本年度の活動（研修会・協議会の開催について）

【第1回】平成27年5月29日（水）19時30分～21時00分

- 学校支援地域本部事業、家庭教育支援事業、地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業、東近江市地域教育協議会事業の目的・活動内容についての説明
- 各事業に対する質疑応答と情報・意見交換
- 各事業のあり方と学校、地域の子どもたちの現状についての交流

【第2回】（研修会）平成27年11月18日（水）19時00分～21時00分

- テーマ「心豊かな子どもを育む地域の連携とは」

〔事例発表〕

- ・愛の田園（まち）いきいき通学合宿（愛東地区地域教育協議会）
- ・夏休み宿題教室（八日市南小学校支援地域本部）
- ・外国にルーツを持つ子どもの学習教室（東近江市学校支援地域本部）

〔意見交流〕

- ・グループ交流（熟議によるワークショップ）
- ・全体交流（各グループ発表）

【第3回】平成28年2月～3月に開催

- ・次年度の学校・家庭・地域の連携による教育について

【学校支援地域本部未設置校への啓発活動】

- ・東近江市学校支援地域本部報告配布

■本年度の成果

地域コーディネーター、小中学校の教職員、地域教育協議会関係者、まちづくり協議会関係者、コミュニティセンター関係者、PTAや子ども会等の青少年団体関係者等、広く参加を募り、各地域での活動をヒントにして、各事業の活動目的や連携方法等、地域で子どもを育てる体制について考えることを目的とした研修会を開催した。

ワークショップ形式の交流会では、それぞれの立場から多様な意見が出るよう工夫し、各学校や地域での現状や課題が出され、解決に向けての具体的な手立てについて話し合うことができた。

■今後の課題

学校支援地域本部事業が各学校で継続し、より充実していくように推進することが重要と考える。

毎年、同じ学年で行われる活動であっても、児童・生徒は同じではない。地域の方はボランティアの活動を重ねることにより、自身の学びとしたり、生きがいの場と感じたりするようになる。

各本部で展開された心豊かな児童・生徒を育むための取り組みを地域に根づかせ、学校と地域のつながりを深めることを目的として、児童・生徒が地域活動や地域行事に飛び出していき、活躍、貢献する活動の構築を次年度の課題としたい。



【研修会の様子】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生地区学校支援地域本部・蒲生東小学校
■ 関係する学校
蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校・朝桜中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	26 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

- ①定例（毎月1回）ボランティア会議の開催
- ②学習支援・ゲストティーチャー ボランティア
- ③学校行事の支援 ボランティア
- ④読書（読み聞かせ）、図書室・図書整備 ボランティア
- ⑤あかね通学合宿 ボランティア
- ⑥登下校安全パトロール見守り ボランティア

■ 特徴的な活動内容

子どもたちの「総合的な学習の時間」や教科等の地域学習をはじめ、地域の特性を生かした体験活動において専門性や地域住民ならではの経験を生かしたゲストティーチャーや引率支援等の活動支援をする学習支援活動を全学年で実施している。

例えば、1年生活科「さんぽ」・「昔の遊び」、2年生活科「お店探検」・「生きもの探検」、3年総合「町探検」・「農場見学」、4年生総合「福祉（車椅子・シニア・盲導犬）体験」、5年生「田んぼの学習」、6年社会科「あかね古墳見学」・理科「地層見学」など。



【2年生の生活科「いきものたんけん」】

■ 実施に当たっての工夫

蒲生東小学校支援地域本部は、平成13年に発足したボランティア「三弓会」を母体に伝統的な支援活動を継続している。

- ☆ できる人が、できるときに、できることを支援する。
- ☆ 人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行う。
- ☆ 先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動である。
- ☆ ボランティア自身の経験や専門性を生かす活動である。

を基本に、少しずつ支援の輪を広げながら現在まで活動を続けてきた。

■ 事業の成果

ボランティアと共に学ぶ学習は、蒲生東小学校の地域の資源や教育力を活かした特色ある教育活動となっていて、支援するボランティアの誇りでもある。

学校にとっては、

- ・地域の方々の専門性や技能を生かした内容で豊かな学習活動が展開できる。
- ・地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上するとともに郷土愛を培うことにつながっている。

子どもたちにとっては、

- ・ボランティアの専門的な知識や技能に触れたり、多様な体験、経験の機会が増えたりすることによって、学習意欲が喚起され自ら問題を解決しようとする意欲や能力を身に付ける手助けになっていると感じられる。
- ・ボランティアと共に活動することを通して、規範意識やコミュニケーション能力が育っている。



【6年生の社会科「古墳見学」】

■ 事業実施上の課題

長年にわたり子どもたちに伝え続けられている「地域の良さ・人の良さ」と共に創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継続していくために、ボランティアとしての知識やノウハウを継承できる人材育成や、変化の激しい社会情勢の中で、ボランティアに求められる「新たなニーズ」への対応が課題である。

■ その他

（蒲生東小学校） <http://www2.higashiomori.ed.jp/gahigashisho/>

■ 蒲生の子は蒲生で守りそだてよう。(蒲生西小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生地区学校支援地域本部・蒲生西小学校
■ 関係する学校
蒲生西小学校・蒲生東小学校・蒲生北小学校・朝桜中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	83 人
開始年度	平成20年度

■活動の概要

- ・読み聞かせと図書ボランティア
- ・登校旗の修理や環境整備
- ・田んぼの学校
- ・河川を中心とした環境学習
- ・町探検などの地域学習
- ・あかね通学合宿
- ・登下校時の見守り
- ・学習支援



【3年町探検ボランティア】

■特徴的な活動内容

- ・「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。
- ・「あかね通学合宿」は、校区の6年生を対象に実施している。自治会公民館等で宿泊し、自治会やボランティアの方々の見守りの中、自立した生活を目指している。地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業を行うことで、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としており、これによって地域の教育力も高められている。
- ・児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。
- ・社会科や理科などの領域の内、地域に関わる様々な事項についてゲストティーチャーとして教えていただいている。

■実施に当たっての工夫

- ・支援の内容に適したボランティアをお願いするようにしている。
- ・「あかね通学合宿」は、児童が家庭・学校では体験できないことをこの合宿で経験する場とする。また、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。
- ・地域の一員である児童が、地域のイベントや行事に参加できる機会がないか情報収集を常に行う。
- ・九九の聞き取りなどのように日常的な学習に参加してもらうようにした。



【6年通学合宿ゲストティーチャー】

■事業の成果

- ・「あかね通学合宿」は参加後、児童の家庭から「生活に自主性が見られるようになった。」等の意見が多く聞くことが出来ている。地域の方と児童の、地域を越えた繋がりが見られ、様々な交流が生まれている。
- ・地域の学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。
- ・地域の大きな行事、イベントに児童が参加することは、地域の一員であることの意識づけになっている。

■事業実施上の課題

- ・ボランティアの多くが固定化されつつあると共に、高齢化も見られる。
- ・「あかね通学合宿」については、自治会に大きな負担をお願いすることとなり、自治会の施設に依存する面も多いたともに、事業を理解していただくのに時間がかかる面がある。
- ・学校やPTA組織内においても、「あかね通学合宿」のあり方については様々な意見がある。
- ・九九の聞き取りにボランティアの活用を進めたが、他の領域でも広げていけるようにしたい。

■その他

- ・(蒲生西小学校URL) <http://www2.higashiomi.ed.jp/ganishisho/>

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう（蒲生北小学校・朝桜中学校）

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生地区学校支援地域本部・蒲生北小学校、朝桜中学校
■ 関係する学校
蒲生北小学校・朝桜中学校・蒲生東小学校・蒲生西小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	40人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

平成20年度より、蒲生地区（1中学校、3小学校）での学校支援地域本部事業が、スタートした。一人のコーディネーターが中心になり、各種社会教育団体やボランティアグループと連携し、様々な実践が繰り広げられた。しかし、学校間での意識の違いや、取組の偏りも存在した。そのこともあり、コーディネーターを各学校に一人ずつ配置することをめざして改革を進めている。今年度は、長年4校を担当していたコーディネーターが2校を担当することになり、学校に来て、教職員と交流する時間が格段に増え、学習の支援や担任の事務負担の軽減、環境整備等に地域の支援を受けることができ、地域とのつながりが感じられるようになってきた。

■ 特徴的な活動内容

・3年生のまち探検（蒲生北小学校）

昨年までは、担任が自治会長にトイレの借用などをお願いして、各字の特徴などを現地で調べる学習をしていた。今年は、地域コーディネーターが自治会長との交渉とともに、地域の方で、子どもたちに教えてあげられる方を探して、子どもたちが来たときに、地域が変わったところや自慢できること等を子どもたちに伝えていただいた。人とのふれあひも加味され、より深く地域を学べた。

・田んぼの学校（蒲生北小学校）

田植えや稲刈り、収穫祭等に参加していただけるボランティアを募るチラシを作成し、老人会などの組織を通じてお願いした。田植えや稲刈りは、3年・4年・5年が体験することもあり、多くのボランティアに参加していただき、なれない手つきの子供たちに優しくかかわっていただいた。収穫した米は、関係した学年がそれぞれ工夫して、地域の人とともに楽しめるイベントを開催して、おはぎやおにぎりなどにした。

・あかね通学宿舎（蒲生北小学校）

6年生の希望者を対象に実施した。自治会の公民館で宿泊し、地域のボランティアの見守りの中、3泊4日の自立した生活を目指して開催した。毎日、夜には地域のなかからゲストティチャーを招き、これまでの体験と知識を伝えて頂く「世界にひとつの授業」を実施し、児童には「ふるさと蒲生」を意識する機会となった。今年は25名（全46名）が参加した。

・環境整備（蒲生北小学校）

自然豊かな土地にあり、敷地が広い。草刈機や耕運機があるが、古くて使えない状態であった。そこで、地域の詳しい人に相談して、使える状態にしていただいた。また、草刈ボランティアを募り、学校周辺の気になるところをきれいにしていただいた。

・部活動（朝桜中学校）

外部コーチの方に来ていただき、剣道部やハンドボール部の指導をしていただいた。休日や放課後または大会当日にも来て、技術だけでなく精神面も含めて熱心に指導され、生徒たちの力も伸びている。

・学校図書館の開館ボランティア（朝桜中学校）

今年度、学校図書館の開館ボランティアの地域のみなさんが図書委員と一緒に昼休みの図書館の開館のお手伝いをしていただいている。館内を掃除したり、図書を整理したりと気持ちよく本が読めるように心を配っていただいた。

・合唱コンクール（朝桜中学校）

9月、文化祭の合唱コンクールに向けて、各学級では合唱の練習に力が入ってくる。この時期に、音楽の時間に蒲生地区出身でソプラノ歌手の佐川康子さんをお招きして合唱の指導を行ってもらった。先生の指導に刺激を受け、どんどん歌声が変わっていった。

■ 実施に当たった工夫

- ・教職員に事業の本質と内容を職員会議でしっかり理解してもらうことから始めた。
- ・何でもコーディネーターに頼める雰囲気作りを大切にした。

■ 事業の成果

- ・地域の方との連携により、子どものためにもなり、教師の事務負担の軽減にもつながった取組を経験することにより、教職員の意識が変容し、事業への理解が高まった。
- ・毎年を楽しみにして、参加させるボランティアが増えてきた。

■ 事業実施上の課題

- ・年間を通じて支援して下さるボランティアの方々が固定化しつつある。また、年齢が高くなってきている。新しい方の掘り出しが大切である。

■ その他

（蒲生北小学校）<http://www2.higashiomori.ed.jp/gakitasho/>（朝桜中学校）<http://www2.higashiomori.ed.jp/chouchu/>



【 3年生のまち探検 】



【 地元出身で歌手の佐川さん 】

■ みんなで支える学校 みんなで育てる子ども（八日市西小学校・船岡中学校）

■ 東近江市
■ 活動名 船岡中学校区学校支援地域本部
■ 関係する学校 八日市西小学校・船岡中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	238 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

- (1) 地域の子どもは地域で守る
・「子ども見守り隊」による児童生徒の安全確保と事件・事故の未然防止

- (2) 教育活動への支援

○学校行事

- ・ふるさと文化祭でのゲストティーチャーやボランティア（昔のおやつ・おもちゃ作り、餅つき・よもぎ餅作り、縄ない体験、戦争体験談など）
- ・校内マラソン大会での交通立ち番や応援垂れ幕の作成
- ・スキー教室での技術指導や活動支援

○日常的教育活動

- ・1、2年生生活科校外学習での見学地までの引率（安全指導）や活動支援
- ・月に一度、学級の子ども達への読み語り
- ・5年総合的な学習の時間（たんぼの学校）での田植えや稲刈り体験の作業指導や活動支援
- ・クラブ活動の技術指導や活動支援
- ・部活動の技術指導や活動支援（中学校）
- ・定期テスト前質問教室での学習支援および補助（中学校）

- (3) 教育環境への支援

- ・校庭の樹木剪定

- (4) 学校図書館の貸出業務

- ・朝休みの本の貸し出し

■ 特徴的な活動内容

○「子ども見守り隊」の活動

- ・下校時の子ども達の安全確保のために、11地区で「子ども見守り隊」を結成して、子ども達に付き添っていただいたり、交通量の多い危険な交差点などに立っていただいたりしている。
- ・登下校時の中学生にヘルメット着用や挨拶の声かけの場になっている。
- ・「子ども見守り隊」の方を招待して交流・感謝の集いを開き、感謝の気持ちを表すとともに地区の取組事例報告や情報交換等をした。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校だより等で取組を地域に発信する。
- ・地域の各種団体との連携を深める。
- ・人材データをファイリングする。

■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能を修得された方の支援により、学習内容や活動がより豊かになり、質が高く、わかりやすいものになった。
- ・教員以外にも多くの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、一人ひとりの子どもとより関わることができた。
- ・地域や保護者の方々が積極的に教育活動に関わることにより、地域に根ざした開かれた学校づくりに繋げることができた。
- ・子ども達は地域の方々と交わることを楽しみにしており、保護者の方にも好評であった。
- ・本年度の新たな取組として、学校図書館の貸出業務をボランティアの方にさせていただいた（朝休みの時間帯）ことで、子ども達の貸出冊数が増加し、本校の読書活動の充実に繋げることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・子ども達の学習や生活の充実（現場のニーズ）のため、地域の方々の多方面にわたる知恵や技術、地域の教育力等を有効に活用できるよう、教職員と地域コーディネーターとが連携を密にとり、効果的な支援を図りたい。
- ・教職員はもとより、ボランティアの方々の交流により、船岡校区の子どもを育てる小中連携を深めていく手立てを探り工夫したい。
- ・「子ども見守り隊」活動のなかで、地区の方々により取組への思いが違いため交流会等を開催しているが、その調整が難しい。
- ・（八日市西小学校URL） <http://www2.higashiomi.ed.jp/ynishisho/>
- ・（船岡中学校URL） <http://www2.higashiomi.ed.jp/funachu/>



【質問教室での学習支援】



【朝休みの本の貸し出し支援】

■ 地域につくられた学校・子ども応援団（玉緒小学校）

■ 東近江市
■ 活動名 玉緒小学校支援地域本部
■ 関係する学校 玉緒小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	42 人
開始年度	平成24年度

■活動の概要

この事業は、子どもと地域の方々、学校と地域つながりを深める「地域につくられた学校・子どもの応援団」と言える。玉緒小学校では、以前から登校下校の見守りや、読み語りのボランティアの方々の活動が行われてきたが、この事業が始まってから生活科や社会科、家庭科の学習や総合的な学習の時間などの支援を行っている。今年度も学習効果が上がることを目指し地域のボランティアが、子どもの学習活動に積極的に関わり応援団の役割を果たせた。

■特徴的な活動内容

- ・ 1年 生活科「あそびのひろば」の支援・「さつまいもを育てよう」のお手伝い
- ・ 2年 生活科「野菜を育てよう」のアドバイザー
「さつまいもを育てよう」のお手伝い
- ・ 3年 社会科「校区探検」去年に引き続き、施設の見学や子どもたちへの説明、質問への応答など
- ・ 4年 社会科「蛇砂川の歴史や役割・生き物」について長年かかわってこられた方に直接話を聞き、生き物の観察に同行していただいた。
総合的な学習「玉緒の宝！里山探検隊」自分のテーマを決めて問題解決をする自然体験学習を進めるにあたって学校の中ではできない貴重な体験学習が出来た。
- ・ 5年 家庭科「初めてのソーイング」「ミシンを使って」ミシンの点検などもしていただき、個々の児童にきめ細やかな指導助言ができた。
総合的な学習「田んぼの学習」「感謝祭」の支援
- ・ 6年 総合的な学習「キャリア教育」ゲストティーチャーの方の想いや仕事に対する姿勢などの話を実際に聞くことができた。
- ・ その他 登下校の見守り・図書室の環境整備や朝の読み聞かせ



【1・2年生 お芋掘り】



【5年生 感謝祭】

■実施に当たっての工夫

- ・今年度で4年目となり、ボランティアの方々も増えてきたため、学習活動の支援内容に適した人材が依頼できるようになった。
- ・ボランティアの方と親交を深めることで信頼関係も生まれ、新しい人を紹介していただくことも増えた。
- ・ボランティアの方の生きがいになるような活動を依頼するように心がけた。

■事業の成果

- ・昨年に引き続き同じ方をお願いすることにより打ち合わせが短時間で終わり、活動の幅も増えた。
- ・子どもが地域の方と顔見知りになり、親密になることでお互い気軽に声掛けができるようになった。
- ・ボランティアの方も何度か経験されてきて見通しが持て、子どもと接することに慣れてスムーズに活動ができた。

■事業実施上の課題

- ・ボランティアの方々が固定化しつつあること
- ・新たなボランティアの発掘

■その他

玉緒小学校ホームページ <http://www2.higashiomi.ed.jp/tamasho/>

■ みなみっこ地域応援団（八日市南小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
八日市南小学校支援地域本部
■ 関係する学校
八日市南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

本校では平成24年度より本事業をスタートさせ、学校・家庭・地域の連携協力のもと、子どもたちの学習、活動の補助にたくさんのボランティアのみなさんに協力いただき、事業を進めている。

学習活動を効率よく進めるために、5年生、6年生の家庭科調理実習、ミシン補助、滋賀学園の生徒による市陸上記録会に向けたアドバイスなど、教師の指導の補助をしていただいたり、5年生田植え、稲刈りの補助、なかよし学級のさつまいも植え、3年生の校外学習の引率補助、1年生の秋みつけ引率補助、2年生のポップコーン作り、スイートポテト作りの補助など、安全できめ細かな学習環境を整える支援をしていただいたりした。また、学期ごとの図書室の壁面飾り、はちまき補修などの施設や設備の維持管理の支援も行っていた。さらに、読み語りを朝のスキルタイムに実施していただいた。その他、4年生の地域の歴史、3年生の昔のくらし、1年生の昔あそびなどで、ゲストティーチャーとして来校いただき、理解を深めるために直接指導もしていただいた。その他、南部コミュニティセンターの畑で3年生のじゃがいも掘り、アフタースクールのさつまいも掘りなど地域と連携した取り組みも進めてきた。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 5年生田植え、稲刈りの補助
- ・ 5年生、6年生の家庭科調理実習、ミシン補助
- ・ 3年生まちたんけん補助、南部コミセンの畑でのじゃがいも掘り
- ・ なかよしさつまいも植え、アフタースクールのさつまいも掘り
- ・ 3年生校外学習引率補助、3年生昔のくらし
- ・ 6年生滋賀学園の生徒による陸上運動指導
- ・ 1年生秋みつけ引率補助、昔あそび
- ・ 4年生地域の歴史
- ・ 2年生ポップコーン、スイートポテト作り補助
- ・ 学期ごとの図書室の壁面かざり、長期休業中の学習会、はちまき補修

■ 実施に当たっての工夫

南部地区まちづくり協議会、南部コミュニティセンターの方に協力をお願いし、チラシを掲示していただき、地域の方に広く知ってもらうようにした。ボランティア募集のお知らせも毎回掲示をお願いし、地域の窓口になってもらえるようにした。まずは、活動する学年の保護者ボランティアを募り、その後、登録ボランティア、地域ボランティアを募集するようにした。学期ごとにボランティアだよりの発行を行うようにした。年に1度、地域、保護者ボランティアの交流会をして、ボランティアの必要性や家庭・学校・地域での連携の必要性などを話し合っている。

■ 事業の成果

滋賀学園の陸上部指導による市陸上記録会の練習では、回を重ねるごとに高校生もどうすれば伝わるかを考えて指導してくれた。調理実習、ミシン授業の補助のように、多くの方の協力が必要な授業にも大勢の方に参加いただくことができた。何よりボランティアの方に「楽しかった」「お手伝いできることがあったら言ってほしい」と言っただけ、子ども達からは「次の時間もきてくれるの?」と言ってもらえた。子ども達にとってもボランティアにとっても充実した時間となっていることが大きな成果である。

長期休暇の学習会では、南部まちづくり協議会、南部地区地域教育協議会、南部地区社会福祉協議会と連携し、子どもたちの学習支援、異年齢とのつながりのサポートをしている。学習支援には、ボランティアに大学生、教員免許をもった地域の方などに参加いただいている。子どもたちからも、次の長期休暇にもあるのかと聞いてもらえるようになってきた。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの不安の解消、スムーズな取り組みができるように、支援に入っただけ授業の前に先生との丁寧な打ち合わせができるようにする必要がある。そして、地域に眠っているボランティアの発掘をし、生涯学習の場として楽しみながら学校に来ていただけるようになればと思う。今後も、この事業を通し、学習効果を高め、教育活動の充実を図るとともに、学校と家庭・地域の連携を深め、地域の活性化にもつなげたいと思う。

■ その他

平成26年度の冬休みから地域で学習支援を始めている。将来的には「放課後こども支援」のように、子どもの学習支援、居場所作りを進めていきたいと思っている。それには、ますます地域とのつながりを強くし、支援の輪を広げていきたいと考えている。

（八日市南小学校URL） <http://www2.higashiomi.ed.jp/yminamisho/>



【陸上競技のアドバイス】



【田植えの支援の様子】

■ふるさとの宝・名人・東押立の文化・豊かな自然に学ぶ「地域の学校」(湖東第一小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
湖東第一小学校支援地域本部
■ 関係する学校
湖東第一小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

湖東第一小学校は、「やる気もち やさしく たくましい子ども」を学校目標に掲げて、『三方よし』の学校経営理念で子どもたちのよりよい成長を願って教育活動に取り組んでいる。『三方よし』の一つの『社会よし』は、ふるさに学ぶ子のことである。地元の方は、年配の方も若い方も「地域の学校」という意識を強く持っておられ、子どもたちに粘り強く丁寧に支援をしてくださり、いつも助けられている。地域と共にある学校・地域コミュニティの核になる学校を目指している。

■ 特徴的な活動内容

田園地帯の広がる自然豊かな地域であるが、古くから愛知郡東押立村として、文化の中心であった名残が地域に多く残っている。そこで、3年生の社会科「町たんけん」では、各町の自慢や名人を見つけている。今年度も、北花沢・南花沢町の「ハナノキ」や小八木町の「春日神社」、また大沢町の「ススム豆腐」さんへ見学に行った。他には、平柳町の「化け灯笼」、読合堂町の「半鐘」「出湯」「経堂」なども地域の文化である。5年生の総合的な学習の時間では、地域の農家に学ぶ野菜作りを行った。読合堂町営農組合のカボチャ栽培や「としちゃんトマト」のトマト農家さんに学んだ。4年生は、音楽会で演奏する和太鼓を地域の方に教えていただいた。6年生は、地元の郷土史研究家さんに話をさせていただく。

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちにとっても、ボランティアの方々にとってもよかったと思える活動にすることである。お互いに過度の負担になると続かないが、連絡を密に取ること子どもたちのマナーや規範意識が高まり、コミュニケーション能力の向上につながったと思われる。

■ 事業の成果

子どもたちが本物に触れ、感動し、人とつながって体験を積み重ねることは、子どもたちのやる気を育てる。いろいろな方から褒められる場面が増えることは、自尊感情が高まり豊かな人間性の育成につながる。学校に来にくい子が体験活動を楽しみに学校に来たり、知っているけど話したことのないおじちゃん・おばちゃんに声をかけてもらうことで、学習意欲が高まったりしたということもある。子どもたちは、ボランティアに学校に来てもらったり、地域に出て行ってボランティアと一緒に学習したりすることが大好きである。子どもさんやお孫さんが大きくなられて、久しく学校に足を運んでおられなかった方が音楽会をきっかけに来てくださり、「先生は毎日大変やね」と声をかけていただくようになった。多くの方から「また、いつでも声かけて」との応援がとてうれしい。

■ 事業実施上の課題

課題としてではないが、ボランティアは地域のネットワークを持っておられるので、今以上に連絡を取り合って活躍していただきたい。そうすることで、職員を含めた学校全体が活性化し、地域と学校の絆が深まり学校理解が深まると思われる。

■ その他の活動

対象	活動内容
全校	読み聞かせボランティア・絵本の広場「お話ポッケ」・田んぼの学校・環境整備・スクールガード・スキーボランティア・地域学習ボランティア「何でもおたずね隊」
1年	昔遊び何でもおたずね隊「おじいさん、おばあさんから学ぼう」
2年	ふしぎたんけん「みんなの使う場所」(JAことう・郵便局・給食センター)・おいしくふれあい「よもぎだんご作り」
3年	町の自慢と名人さん(ハナノキ・春日神社・木工店・豆腐店)・お店見学(スーパー)・昔の暮らし(おじいさんおばあさんにインタビュー)・「大豆を育てて豆腐ときな粉を作ろう」・アイマスク体験と地域出身目の不自由な方の話
4年	愛知消防署見学体験・警察官出前授業・地域の方に和太鼓指導・特別養護老人ホーム「菊水園」訪問・車いす体験
5年	地産地消学習「地域の野菜農家さんに学ぶ」・ミシン補助・お米を使った収穫祭
6年	戦争中の話・ミシン補助



【5年地産地消・野菜作り】



【3年町たんけん・ハナノキ】

・(湖東第一小学校URL) <http://www2.higashiomori.ed.jp/kot1sho/>

育てよう湖二っ子！（学校、家庭、地域が一体となって）（湖東第二小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
湖東第二小学校支援地域本部
■ 関係する学校
湖東第二小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	29 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

- ①学習支援ボランティア：読み聞かせ・家庭科指導補助・ピアノ伴奏・合奏補助・スキー指導補助など
- ②ゲストティーチャー：農業見学（菊栽培・トマト、きゅうり栽培）・木工体験（のこぎり、かんな）・地域見学（お寺・石材店・史跡など）・茶道・華道・わら細工
- ③環境ボランティア：松などの剪定・校舎周辺の草刈り
- ④その他：サッカーチーム依頼・交通安全教室依頼

■ 特徴的な活動内容

①読み聞かせボランティア（ポンぽんの会）

毎月第4火曜日の朝学習の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいている。自分のお子さんが卒業されてからも継続して来ていただいている方も多く、子どもたちはたいへん楽しみにしている。今年初めて、男性の方にも参加していただいた。

②音楽ボランティア

音楽会に向け、合奏練習の補助やピアノ演奏に何度も来ていただいた。パートの練習やリコーダーが苦手な子を支援していただき、楽器の演奏技能を高めることができた。

③農業見学

3年生社会科の学習で、農家の方をゲストティーチャーとしてお願いしている。現地へ出かけていき、栽培の仕方や工夫、苦労などのお話や質問に答えていただいている。「少しでもお役に立てば」と喜んでくださっている。子どもたちもたいへん親しみを感じている。

④茶道・華道

6年生の総合的な学習で、日本の文化を学ぶ時間として、茶道・華道の先生を招き、指導していただいた。作法だけでなく、姿勢を正すことやおもてなしの心も教えていただけてよかった。

⑤わら細工

5年生「田んぼのこ学習」のまとめとして、地域のご老人を招き、わらのリースづくりをご指導いただいた。わらで作った干支などの作品を展示していただいたり、昔の農作業の苦労や工夫などの体験談を話していただいたりしたことはたいへんよかった。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用
- ・保護者からの人材情報及び地域コーディネーター交流会での情報活用

■ 事業の成果

①学習支援ボランティア

- ・保護者、地域の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
- ・困り感のある子どもを支援していただき、子どもの学習意欲の高まりにつながっている。
- ・地域のボランティアの方々は、子どもたちの様子が分かったり、つながりが持てたりすることを喜んでくださっている。

②ゲストティーチャー

- ・今年度は、新たに「木工」「茶道・華道」「わら細工」の指導に来ていただいた。学習ニーズに合わせて、専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。
- ・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
- ・地域の方からは「子どもたちに分かる説明の仕方が難しい」という声も聞くが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりがいを持っていただいている。

③環境ボランティア

- ・昨年度の課題であった前庭の松などの剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアが見つかり、前庭や校舎周辺がたいへんきれいになった。これも長年取り組んできた成果といえる。

■ 事業実施上の課題

- ・地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。

■ その他

（湖東第二小学校） <http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/>



【 きゅうり栽培の見学 】



【 茶道 】

■ 民生・児童委員と作る「まち探検」(湖東第三小学校)

■ 東近江市
■ 活動名 湖東第三小学校支援地域本部
■ 関係する学校 湖東第三小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	17 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校は、地域教材や地域の人材を生かし、学習内容や行事の充実を図っている。本年度は、本事業が3年目を迎え、家庭や地域との連携をより深め、効果的な取り組みとなるように努めてきた。

■ 特徴的な活動内容

- 2年生の生活科「まち探検」3年生の社会科「地域学習」において、より広がりや深みを持たせる意図で、コーディネーター自身が民生児童委員であることを活かして、他の委員との連携を試みた。
- 本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に図書室に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、次の発表の稽古・打合せを実施するなど、熱心な取り組み状況である。昼休みの「ふれあいタイム」には2ヶ月に一度の割合で定期的に発表活動をしている。
- 4年生社会科における地域の環境学習において、初めて「小田苧地区農村下水道処理施設」の見学を実施した。コーディネーターが「湖東地区人権のまちづくり協議会」の理事をしていることで、関係者との調整がつきやすく、市担当者や処理施設の保守会社の担当者から直接説明を受ける機会が持てた。

■ 実施に当たっての工夫

- 子どもたちが地域のよさに気づき、より愛着を持てるよう、「まち探検」では、担当地区が二町に亘る人が、別にその地域の案内に適当な人材を発掘し依頼する等の工夫をした。
- 従来からの地域学習や、総合的な学習の実施において、コーディネーターが関わる中で、『湖東地区まちづくり協議会』や『湖東地区福祉協議会』など関係機関との連携をより密にして学習内容の質的向上を図ろうとした。
- コーディネーター自らが「昔遊びボランティア」や「まち探検」の引率、ゲストティーチャーとなることで、担任や児童とのつながりを深めた。

■ 事業の成果

「まち探検」に、地域をよく知る(民生委員)ボランティアが加わることで取り組みが充実し、地域と関わりを深める創造的な取り組みへと質的变化を遂げた。

■ 事業実施上の課題

- 地域に出て、地域ボランティアを活かしての学習は内容も深まる有意義なものであるが、どうしても時間が必要となる。限られた時間内で、効果的な学習となるような検討がさらに必要である。
- 学校便りや地域の広報で、ボランティアを募集しているがさらに登録人数を増やすことが必要である。



【民生委員と作る「2年まち探検」清水中町「山の神」見学】



【4年下水処理施設の見学 小田苧地区農村下水道】

■ その他

- ・(湖東第三小学校URL) <http://www2.higashiomi.ed.jp/kot3sho/>

■ 地域とともに歩む学校（箕作小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
箕作小学校支援地域本部
■ 関係する学校
箕作小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	135 人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

箕作小学校支援地域本部は、地域の歴史、自然、文化を活かした教育環境の構築とその充実に努めてきた。小学校区全域で、「清水小脇街づくり委員会」「太郎坊応援団」「中野地区まちづくり協議会」が組織され支援活動が行われている。各学年の様々な教育活動や芝生化されたグラウンドの保全に箕作小学校応援隊の力強い支援の継続が見られる。

■ 特徴的な活動内容

- ・テーマ「地域とともに歩む学校」の実践は全学年を通し、箕作山登山、町探検、大凧製作などの経験をし、地域の自然・文化にふれる機会を大切に取り組んできた。
- ・5年生は、家庭科『ミシンを使ってエプロンを作る』授業に地域の方達の支援を受け、全ての児童が「僕の私のエプロン」を完成することができた。
- ・なかよし、2年生、4年生、5年生は「野菜のゲストティーチャー、”田んぼのゲストティーチャー、を招いて、作物づくりを計画的に基礎から学び、野菜や米を収穫することができた。なかよしは、収穫したさつまいもを使って「いもようかんづくり、を経験することができた。
- ・環境調査隊（5年生）が箕作山に登り、清水小脇街づくり委員会のメンバーから山の歴史、自然の様子、生息する動植物、山の保全について学んだ。
- ・6年生児童が八日市の伝統文化の大凧づくりを東近江市大凧保存会の協力を得て制作した。大凧に判じもんで子ども達が考えた文字を入れ、大凧保存会の指導を受け、2畳敷大凧をグラウンドで大空高く揚げる事ができた。
- ・ボランティアによる読み語りを年間通じて、全学年対象に実施した。今年度も保護者の有志とともに地域に伝わる民話の紙芝居制作に取り組んだ。子ども達は従来からの名作の本とともに地域に伝わる昔話に親しんだ。
- ・全校マラソン大会で保護者とともに地域の人達が、力走する全児童に声援を送り子ども達を励ました。
- ・6年生児童が、地元の工芸の布引き焼きを地元陶芸家の方達に指導してもらい、茶碗づくりを体験した。卒業前に保護者を招き、自分たちで作った茶碗を使って「感謝の会でお茶会」を開催する計画である。
- ・1月には、ボランティアの協力を得て、5年生6年生対象にスキー教室が行われる計画である。
- ・1年生は昔からの遊び（けん玉、はねつき、竹とんぼ、あやとり、お手玉）を箕作小応援隊の方達と一緒に遊びを体験する計画である。3年生は箕作小応援隊に七輪を使って火の起こし方を教えてもらったり、餅を焼いたりする計画である。

■ 実施に当たっての工夫

- ・各学年の学習のねらいや学習の取組のテーマ「見て 聞いて やってみる、をモットーにした学習活動の理解のもと、支援活動が適切になされるよう地域との連携を適時とっている。
- ・支援内容に適したボランティア人材が依頼できるよう、各所、各団体他、個々の方にも幅広く連携を図るよう努めている。
- ・これまでの取組を継続し、学校、地域、ボランティア三者がともに安心感、親近感、信頼感が持てるようにできる限り互いの思い、考えが伝わるように日ごろから連携に努めた。

■ 事業の成果

- ・活動団体が組織化されてきたことにより活動内容が整理された形で支援ができるようになった。
- ・広範囲な学区であり、広くボランティアの人材を募ることに難しさが中野コミュニティセンター、八日市コミュニティセンター、八日市ボランティア協会などと細やかに連携を図ることにより、適材適所のボランティアを依頼することができるようになった。
- ・箕作山探検隊、米作り等の体験の積み重ねの継続は、児童、ボランティアとともに成就感や親近感が持て、打ち合わせや実践においても効率的に実施できた。
- ・自分たちの住む町を見て歩き、町の人々に多くのことを教えてもらい地域に対する関心が高まり、子どもたちが地域の一人ひとりとしての自覚を持つようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆が深まり、子ども、学校、地域にとって各々が充実したものになるには、打ち合わせや相談、必要により計画立案に参画、実践の際の支援、反省、評価、問題提起、課題解決方法の探求など、発展的に循環した取組となるよう、考えていくことが必要である。
- ・子ども達が様々な人々と適時適切に関わりを積み重ね、より確かな人格形成が築けるように学校と地域の連携充実が不可欠である。

■ その他

- ・（箕作小学校URL）<http://www2.higashiomi.ed.jp/mitsusho/>



【脱穀「米つくりの大切さを体験、】



【箕作山から見た私達の町】

■「地域とともに、魅力いっぱい、花と本がいっぱいの持続可能な教育環境づくり」(市原小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
市原小学校支援地域本部
■ 関係する学校
市原小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

1. 「いつも身近に本を置こうプロジェクト」(地区集合場所にあるから、登校時の待ち時間もミニ図書館で読書)
2. 「花いっぱいの地域にしようプロジェクト」(ともに育てた花で地域がますます明るく、輝きますように)
3. 「おとなの学習時間」(地域の方々と共有する時間・空間を設定し相互理解を目指す→学校が地域の活動拠点化)
4. 学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア・関係機関・民間等との連携事業

■ 特徴的な活動内容

1. ミニ図書館設置(地域の公民館・集会所等に設置)
2. 子どもたちとボランティアの皆さんで育てた花の苗を地域に配布
3. eライブラリ体験会(学力向上)・認知症子どもサポーター養成講座 de 学ぶ(福祉教育)・講演会・映画会など
4. 読み聞かせボランティアによる魅力ある学校図書館づくり(読書環境・読み聞かせ・創作クラフト等のイベントなど)

■ 実施に当たっての工夫

1. ぬくもり(手づくり感)を大事にする。(心が通い合うコミュニケーションで風通しの良い環境づくりを目指す)
2. 児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。(一体感を目指す)
3. 持続可能な視点をもって続けることを大事にする。(持続可能な教育環境づくりを目指す)

■ 事業の成果

1. 保護者や地域の方々の来校者数が倍増した。
11月末現在で児童数の14倍以上、1,360名を超えている。
2. 地域の人と児童の絆が深まった。来客者等への挨拶が自然に出てくるようになった。
3. 教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよいOJTとなっている。

■ 事業実施上の課題

1. 学校や保護者、地域の方々、それぞれが互いにもっと理解し合いたい。
(例えば、「おとなの学習時間」の回数増→情報の共有化→学校と地域の目標を共有化)
2. もっと保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらうこと。
(HPや広報誌等うまく組み合わせて周知の徹底をさらに図っていく)

■ その他

○特色ある活動

- ・6年認知症子どもサポーター養成講座(市役所、社会福祉協議会、高齢者施設、民生委員児童委員、地域ボランティア等多くの
方々が支えてくださり、年間を通じた活動へと発展してきた)
- ・2年農家さんとの交流事業(野菜づくり)
- ・6年モビリティマネジメント教育(国土交通省、市役所等との連携事業)
- ・全校マラソン大会の安全な運営のために当該地区の安全委員さんによる見守り活動
- ・読み語りボランティアによる創作クラフト活動(秋まつり) など

○(市原小学校URL) <http://www2.higashiomi.ed.jp/ichisho/>



【ミニ図書館の本の入れ替え作業をしている学校司書(学校司書と読書ボランティア、地域コーディネーターとの連携)】



【認知症子どもサポーター養成講座で、多くの支援者に見守られて、声かけ体験の振り返りをしている授業風景】

■ 地域とのつながりを大切にしながら、地域の方々に感謝して…（五個荘小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
五個荘小学校支援地域本部
■ 関係する学校
五個荘小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	90 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

社会の急激な変化とともに、子どもたちを取り巻く環境が複雑多様化し、先行き不透明な今日、学校教育への大きな期待が寄せられている。しかし、学校だけで子どもを育てていくには限界があり、教育の基盤である家庭や地域での教育と連携をはかっていく必要がある。

このような状況の中で、今まで以上に学校と家庭、地域が手を取り、子どものよりよい成長を願い、「地域の子どもたちは、地域で育てる」という視点に立って連携を深めていく必要がある。

こうしたことから、本地域本部ではコーディネーターを窓口として、学校や各学年で必要な支援要請をコーディネーターに依頼し、コーディネーターの地域の人脈を足がかりとして、学校に協力していただける方を探していただき、協力をお願いしている。

■ 特徴的な活動内容

- 茶道、生け花、太鼓などクラブ活動における学習アシスタント型の支援
- 家庭科でのミシンを使った学習での学習アシスタント型の支援
- 学校まわりの植木剪定作業など施設メンテナー型の支援
- 本の読み聞かせを行う学習アシスタント型の支援
- 校外学習や全校たてわり遠足の引率補助や交通安全見守りを行う学習アシスタント型の支援
- 総合的な学習の時間「ふるさと学習」での地域の歴史について専門知識を講義するゲストティーチャー型の支援
- スキー教室における学習アシスタント型の支援
- マラソン大会にむけての試走・当日の交通安全見守りを行う学習アシスタント型の支援

■ 実施に当たっての工夫

- 多くの方が、地域の学校を支えてくださっていることを伝えようと、「学校だより」やホームページでボランティア活動の紹介を行ったり、昇降口玄関にボランティア協力者の写真を掲示して来校者に向けた紹介を行ったりしている。
- 協力いただいた方々に、地域本部事業会計より学校目標を印刷したプリントをクリアファイルにはさみ、お渡しして次の活動の協力につながるようになっている。

■ 事業の成果

- コーディネーターの積極的な働きかけにより、年々より充実した事業となってきた。
- 事業が定着し、ボランティアからも「今年はどうですか？」と声をかけていただく方もおられ、ありがたく思っている。
- 専門的な知識と技能をもった方に直接、そして具体的に教えていただけるので、子どもたちにとって満足のいく活動となった。
- 子ども一人ひとりに寄り添いながら、細やかな支援ができるようになった。
- 子どもが地域の方々と顔見知りになることができ、地域の方々と親密になることができた。
- 地域の方が、学校の様子を知ることができるよい機会となり、学校理解につながった。
- 学校行事がより充実し、個別に支援や指導を要する子どもにより丁寧にかかわることができた。

■ 事業実施上の課題

- 地域には、「地域の学校のために、何か自分に役立てることはないか。」と感じている方は、まだまだたくさんおられるように感じる。こうした学校をサポートして下さる方々を、今後も発掘して支援や協力を求めていきたい。
- 学校のボランティア要望について掘り起こしを進めていき、学習の充実やサポート体制の構築を目指していきたい。
- 打合せが不十分で、ボランティアがどのように動けばよいのか戸惑われた場面があった。多忙な学校現場ではあるが、効率よく打合せを行いボランティアの心強いサポートでより充実した学習活動となっていくようにしたい。
- ボランティアの「生きがいづくり」にまで至ってはいないが、今後はより地域に根ざした活動を展開し、お越しいただくボランティアが、やりがいをもって活動いただけるようサポートしていきたい。
- 来ていただいたボランティアの方に出すお茶の費用を、事業費の他に確保する必要がある。
- (URL) <http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/>



【環境整備における学校支援】



【クラブ活動における学習支援】

■ 地元地域のよさを生かした「地域と共に歩む学校づくり」をサポートしています（愛東北小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
愛東北小学校支援地域本部
■ 関係する学校
愛東北小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	18 人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

本校は、以前からPTAをはじめ地域の方々との結びつきが強く、各方面に渡って長年学校活動に地域の支援をいただいている。例えば、環境学習から始まった「ケナフで漕ぐ卒業証書」は、地域の方の指導により20年近く継続されており、今や伝統行事となっている。また、地域の指導者の方を中心に取り組んでいる交通安全活動は、本年度その長年の取り組みを評価していただき、滋賀県知事表彰をいただいた。

このような手厚い地域支援をいただいている環境であるが、もっと力を入れ拡充していきたい取り組みもある。その一つが「読み聞かせ活動」である。子どもたちと本とのふれあい、読書習慣を身につけることの大切さは、いまさら言うまでもない。今までもボランティアや教職員で読み聞かせを実施していたが、もっともっと読書に親しめるよう読み聞かせの機会を増やして行こうという方針を持って臨んでいる。

一方、子どもたちを取り巻く環境は日に日に変化している。これに伴って学習はもちろんのこと、様々な場面で地域の方々からの新たな支援をお願いしたいことが発生している。小さなことから大きなことまで、いろいろなことが想定されるが、学校側から要望のあるもの、実現可能なものから進めていこうと思っている。

■ 特徴的な活動内容

①拡充を目指した活動 —「全学年対象読み聞かせ」—

これまでは、読み聞かせボランティアのみなさんによる1年生のみを対象にしたものが月2～3回、「担任外読み聞かせ」として普段と異なる先生から読み聞かせをしてもらうものが月1回、学校司書による学年単位の読み聞かせが週1回のペースで行われていた。そこで、1年生以外の子どもたちの読み聞かせの機会を増やそうと、新たにボランティアを募集して全学年対象読み聞かせを月1回実施することを目指した。

これは本年度開始を目指して、昨年度から取り組んできた活動である。昨年度は、ボランティアの募集、図書館での実践研修を行った。新たにボランティアとして加わってくださった方は、11名にも上った。そして新学年となって、朝の始業前、地域のボランティアによる全学年対象読み聞かせを無事スタートすることができた。これで、担任外読み聞かせと合わせ、全学年月2回の読み聞かせのある環境となった。

②新たな活動 —地元「消防団」の方による出前事業—

今までになかった、地元地域からお招きしたゲストティーチャー誕生である。4年生の社会科授業で、ぜひとも消防活動に関わっておられる方の話を子どもたちに聞かせたい、との担任の先生の思いがあった。しかし、地元消防署では救急車出動の対応などもあって、出前は難しいとのことであった。

そこで、学校の近所に消防車庫のある地元消防団の方に、ゲストティーチャーをお願いしたところ、快く引き受けてくださった。当日は、消防車を前にいろいろと説明をしてくださり、子どもたちも大喜びであった。授業終了後、消防団の方々が、「今度機会があったら、ここを改善して子どもたちに話したいなあ」とおっしゃっていた。来年も、ぜひお願いしたい。



【読み聞かせのようす】



【消防団員の方と子どもたち】

■ 実施に当たっての工夫

どんな内容でも、直前の依頼による準備・実施となると、十分な効果が得られないことがある。できるだけ早く学校側の要望とその内容を把握し、十分な準備期間を取れるように関係者間で留意している。

■ 事業の成果

普段から慣れ親しんだ先生ではなく、学校の外から地域の方が来てくださり、いろいろと教えてくださったり、協力して下さったりする取組は、子どもたちにとって非常にインパクトのあるものである。いずれもよい成果があがっている。

■ 事業実施上の課題

今後、この活動を拡大して行くには、現在取り組んでいる内容を、保護者はもちろん、学区内の多くの人々に知っていただくことが大切であるとする。「この内容なら、私も手伝うことができる」「こういう手伝いは必要ないか」こうした積極的な声が、地域から聞こえてくることを目指したい！

■ その他

（愛東北小学校URL）<http://www2.higashiomi.ed.jp/aikitasho>

■ 人とのかかわりを通して、共に学び・共に育ち合う地域、学校をめざして（能登川東小学校）

■ 東近江市
■ 活動名 能登川東小学校支援地域本部
■ 関係する学校 能登川東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	24 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

一人ひとりの子どもが自分に合った生き方を見つけるためには、子どもたちの教育は、学校の中だけで行われるものではなく、学校と家庭、そして地域が一体となつてなし得るものである。そのためには、地域の人々にふれ、地域の人々から学ぶことの大切さが重要である。子どもたちが地域の人々とかかわることができるよう、いろいろな体験ができるように地域の方々にご協力いただかななくてはならない。そこで、今年度より、東近江市教育委員会生涯学習課の指定を受け、「学校支援地域本部事業」を実施することになり、「学校支援ボランティア」による学習支援をスタートさせた。

何よりも人とのかかわりを通して、子どもたちの体験をより豊かなものにし、将来をたくましく生きるための学びが深まることを願って実施するものであるが、今年度は学習にかかわる支援のみをお願いし、事業の基盤づくりを行うこととした。

■ 特徴的な活動内容 <学習支援>

①学習アシスタント型

- ◎校外学習引率補助…2年生生活科町探検、図書館見学
3年生社会科地区探検、施設見学、食育農業体験学習、市内巡り
5年生総合幼稚園児との交流学习
- ◎家庭科の実習補助…5、6年生ミシン学習、調理実習
- ◎1年生生活科さつまいも切り
- ◎マラソン大会（試走）の立哨補助
- ◎2年生生活科苗植え、いもほり
- ◎学習教材作り

②ゲストティーチャー型

- ◎3年…ハリヨの話（地域のよいところ見つけ）、ものづくり（地域のすてきな人見つけ）
- ◎5年…家庭科野菜の切り方（元シェフに学ぶ）

■ 実施に当たっての工夫

- ・年度当初に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を、また1学期終了時に「ボランティアだより」を全戸配付し、学区民に理解と協力が得られるようにした。（職員にも朝の打ち合わせで発信を行った。）
- ・地域、保護者の方の来校時に、本事業の話をし、少しでも活動が見えるようにした。
- ・コーディネーターのネットワークを活用しながら、支援者を広げるとともにお互いの交流を大事にするようにした。

■ 事業の成果

- ・1年目であるが、24名の登録者の方々に様々な支援活動をしていただくことができた。
- ・たくさんの大人がいることでの安心感と安全性、たくさんの目で子どもを見ることでの子ども理解、かかわりが増えることでの活動の広がりや深まりにつながった。
- ・学習支援では、個別支援が多くなり、子どもたちの達成感が増した。また、わからないことや困ったことがあれば、気楽にボランティアに聞けるようになり、学習がより進むことを実感できた。さらに、挨拶が自然にできるようになったり、「ありがとうございます」という感謝の気持ちを持ったりすることができた。
- ・支援により、担任がゆとりを持って子どもたちに指導することができた。また、打ち合わせのための資料を用意する等、意識して授業の準備ができた。
- ・ボランティア自身の学びの場にもなり、またお互いの交流も深まった。その結果、ボランティアを通じて活動の様子を知り合いの方に伝えていただくことで、興味を持って学校の応援団になってくださる方が増えた。

■ 事業実施上の課題

- ・学校がめざす子ども像を明確にし、そのために教育活動にどのように位置づけ、活用、運用していくのかの熟議が必要。
- ・支援内容の打ち合わせは何とかできるが、支援後のふり返りは時間的に無理なため、コーディネーターがパイプ役として担任に伝えるようにしたが、学年や先生方との話し合いや相談の場が持ちにくい。
- ・教師が思いや願いを持って、子どもたちのために学校支援地域本部事業を有効に活用していきたい。
- ・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくしたい。

■ その他

- ・（能登川東小学校）www2.higashiomori.ed.jp/nothigashisho/



【3年 地域のすてきな人見つけ】



【5年 ミシンでエプロン作り】

■ 地域に感謝 子ども応援隊(能登川南小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
能登川南小学校支援地域本部
■ 関係する学校
能登川南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	150 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

本校の目指す子ども像は「よく考える子」「感謝する子」「ねばり強い子」である。中でも「感謝する子」は、相手の気持ちを大切に、進んで人に関わる子どもに育てることを目指している。そのためには、学校だけでなく、地域の方々の力をお借りしたいと考え、本年度より学校支援地域本部事業を立ち上げた。本年度は、初年度ということもあり、手探り状態で進めてきたが、実践をするなかで、地域にある多くの「人・もの・こと」が実感できた。特に、保護者・地域の人と人との繋がりがや、地域で活動しておられるボランティアなどから情報を得ることができた。そして、コーディネーターを中心に、地域ボランティアの皆さんに様々な協力をいただき、子どもたちの学習を支援していただいた。

具体例として

- ・校庭の芝生化に伴う様々なお世話（芝生応援隊）
- ・登下校の見守り
- ・学習ボランティア
 - ①校外学習の引率や講師
 - ②環境学習（猪子山活動）の手伝い
 - ③家庭科実習（ミシン学習）の補助
 - ④マラソンの試走及び大会での立哨活動



【芝生植え】

■ 特徴的な活動内容

本校は、今年度グラウンドが芝生化された。芝生植え当日は、全校児童、保護者、芝生応援隊、エコスクール支援委員会、市教委の協力により、大変スムーズに植えることができた。その後の手入れについては、芝生応援隊の皆さんを中心に、定期的に、芝生刈りや施肥をしていただいている。

また、環境学習にも力を入れ、学校のすぐ近くにある猪子山で、年間を通して環境学習を展開している。その際のお手伝いとして、保護者ボランティアや、地域のボランティアの方々に引率していただいたり、子どもたちへのアドバイスをしていただいたりすることができた。



【4年 猪子山活動】

■ 実施に当たっての工夫

芝生応援隊については、市教委と相談しながら年間の活動計画を立てたが、芝生の生育状態等を観察しながら、本校の芝生担当教師と、芝生応援隊リーダーが連携を図りながら、活動を進めていった。

学習ボランティアでは、コーディネーターを中心に、地域の人材を発掘していただき、学習内容にぴったり合うボランティアをお願いできた。

■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習内容が豊かになった。
- ・教師が余裕を持って子どもに接することができ、子どもたちの力を引き出すことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・学校の教育活動で求めている支援内容や子どもの発達段階、学習のめあて等についてのボランティアの方との共通理解

■ その他

- ・（能登川南小学校 URL）<http://www2.higashiomi.ed.jp/notminamisho/>

■ 米原市における学校支援地域本部の取組

■めざす姿

近年、児童・生徒数の減少に伴い、米原市の学校はほとんどが小規模校となってきている。しかし、学校に対する保護者や地域の期待は高く、学力向上、社会性の育成など、要望は多岐にわたっている。こうした時代の流れやニーズに対応するため、本市では「地域とともに歩む学校」をテーマに、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていくことを考えている。保護者や地域の人々のもつ豊かで専門的な知識や技能は、学習の内容を深いものにする。また、学校内により多くの地域の方々が入ってこられることで、子どもたちのコミュニケーション力の育成、また、生き方を学ぶ機会を得ることになる。そして、地域の素晴らしい自然や文化遺産に触れることは、地域への誇りを持つことにつながっていくと考える。このような保護者や地域の人々のもつ専門的な力を取り入れ、様々な大人と交流し、様々な自然環境や文化的環境を教材にした学校教育を推進するなど、地域に根ざした特色ある学校づくりを支援するために本事業を実施する。

■本年度の活動

①運営委員会：2回

構成委員：8人（市校長会代表、各本部ボランティア代表、各本部代表校長）

事務局（地域コーディネーター7人、学校教育課、生涯学習課、山東図書館）

議題：地域と学校の連携の在り方について、年間計画等の検討、今年度の事業の検証、次年度事業の検討

②研修会：講義「学校支援地域本部事業で進める学校づくり」

講師：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 西脇繁氏

■本年度の成果

米原市の学校支援地域本部は、8年目を迎えた「読書活動」と、今年度からの「柏原学区」「河南学区」の2中学校区、併せて3本部である。「読書活動」が培ってきたノウハウをもとに、他の2本部はスタートを切ることができた。地域コーディネーターが中心となり、学校や地域が子どもの教育について意見交換をする場を各本部に設け、事業の企画・運営について、ボランティアの募集・育成について、議論を重ねることができた。

また、本部ごとに、本事業の内容や活動の様子を地域に発信し、地域住民の学校への関心を高めることができた。

■今後の課題

3本部の活動は、それぞれに地域コーディネーターの工夫と努力によって成り立っている。しかし、今年度はコーディネーター同士の交流の場が少なかつたために、他の本部の状況を共有することがほとんどできなかつた。数少ない運営委員会での情報交換だけでなく、コーディネーターに他本部の事業への参加を案内したり、各本部の広報紙を互いにシェアしたりするなどの工夫が必要である。

また、今年度スタートした2本部は、1中学校1小学校の学区であり、市内には同じ状況の学区が他にもある。次年度以降も、学校支援地域本部を他学区にも広げ、米原市の教育の軸としていきたいと考えている。

■ 全市的な取組による読書支援“みんなで本を読もう”（米原市内全小学校）

■ 米原市
■ 活動名
米原市読書活動学校支援地域本部
■ 関係する学校
米原市内の全小学校（伊吹、春照、柏原、大原、山東、息長、河南、坂田、米原）

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	130人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

米原市では、平成20年度から学校・家庭・地域が連携、協働しながら全市的に子どもたちの読書活動を支援しており、今では市内の全ての小学校において、ボランティアによる読書支援が行われている。今年度の主な取組は、①巡回文庫の継続実施、②おはなしの講習会の開催、③ボランティア交流会の開催、④学校図書館の活性化（学校図書館大改造を含む）、⑤講演会の開催による「米原市子ども読書活動推進計画（第2次計画）」のPRとボランティア活動の紹介および募集、⑥成果報告会の開催である。

■ 特徴的な活動内容

- ・巡回文庫・・・市内の全小学校の全クラス（特別支援学級を含む）に実施。学校間の運搬は各学校担当のボランティアで、本と一緒に「おはなし」を届けていただいている。（1回/月）
- ・おはなしの講習会および講演会・・・読み聞かせや子どもの読書活動についてのスキルアップ講座を開催。（3回/年）
- ・ボランティア交流会・・・ボランティアグループによるおはなし会の実演、情報交換、交流による学習会などを実施。（3回/年）
- ・学校図書館の大改造・・・伊吹小学校で、滋賀県教育委員会生涯学習課の「学校図書館活用支援事業」を活用し、6月13日（土）に教員、児童、保護者、ボランティア、地域が力を合わせて学校図書館のリニューアルを行った。また、今年度2校目として、12月24日（木）に河南小学校の学校図書館大改造を行った。
- ・成果報告会・・・事業の報告会を全市民にPRし、ボランティアの活動を広く紹介した。（11月22日（日）に開催、参加者60人）

■ 実施に当たっての工夫

- ・巡回文庫・・・子どもたちの手の届く所に本を置き、本に親しむ機会を増やすことを目的とし、毎月各学年に応じた40冊の本を入れた箱を巡回させ、子どもたちが常に新しい本に出会える機会を設けている。継続により子どもたちの地域とのつながりも深まってきている。
- ・学校図書館の大改造・・・伊吹小学校で、教員、児童、ボランティアだけでなく、他校の図書館への大改造につなぐために、周辺の米原市内の他の小学校の教員、ボランティアも参加して行った。また、学校図書館の利活用に向けてのPRに努めた。

■ 事業の成果

- ・巡回文庫のボランティアや学校図書館の本の整理や壁面製作などの環境整備においてボランティアの増加がみられた。（20%増）
- ・学校図書館の大改造によって、学校図書館が「読書センター」、「情報・学習センター」としての機能を兼ね備え、子どもたちの読書環境が整った。改造に当たってボランティアに本の分類、整理などの事前準備を細やかに行っていただいたことや、当日の作業に多くの方が参加していただいたことで、予想より短時間で学校図書館のリニューアルが実現できた。また、保護者も実際に関わることで達成感とともに今後のボランティア活動への意欲につながった。さらに他校の教員やボランティアの参加が実現できたため、次年度以降の本事業実施希望校が生まれ、地域で学校を支援していく活動が広がった。そして、この事後検証としての「学校図書館を活用した授業（6年生の理科の授業）」では、1クラス全員が座れる環境で、学校図書館の使い方・資料の集め方・引用の仕方・まとめ方などを学習でき、学校図書館を活用した授業が出来ることを実感できた。また、伊吹小学校は、本年度、総合学習近畿大会の会場となっており、近畿の他府県の教員にも図書館を利用した授業を御覧いただけた。
- ・おはなしの講習会やボランティア交流会において、読み聞かせの技術向上や情報交換をする中、ボランティア同士のつながりが広がり、かなり深いところまでの話し合いを持つことができ、ボランティアグループの枠を超えて、協力し合っひとつの出し物をするなどできた。成果報告会ではボランティアの活動を広く市民にPRし、活動への呼び掛けが図れた。

■ 事業実施上の課題

- ・巡回文庫は本の傷みが激しいことから、継続実施にあたっては新たな本の購入が必要である。
- ・ボランティアが活動しやすい環境づくりと新しくボランティア活動を始めようという方々のきっかけづくりのために、毎年ボランティア交流会やおはなしの講習会を開催しており、この取組も継続して行っていきたい。
- ・今後どのような学校支援が望ましいか、学校や関係各課と更に話し合っていくことが必要である。
- ・学校図書館の環境整備は整備されてきたが、次の段階として子どもたちの一番身近にある学校図書館に学校司書を配置し、魅力ある蔵書の構築やボランティアとの連携を深めるとともに、読書支援だけでなく、授業で活用できる学校図書館にすることで、先生や子どもたちの学習支援も行いながら、子どもと本を繋いでいく活動、公共図書館や学校間の情報共有・連携も望まれる。



【巡回文庫と読み聞かせ】



【伊吹小学校図書館の大改造】

■ 柏原学区をもっと楽しく、面白く！「はびろの里コミュニティ」による学校園支援活動（柏原小学校・中学校）

■ 米原市
■ 活動名
柏原学区学校支援地域本部
■ 関係する学校
柏原小学校・柏原中学校・（柏原保育園）

コーディネーター数	4 人
ボランティア登録数	15 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

柏原学区は柏原小学校、柏原中学校の1小1中からなる学区である。両校とも各学年1学級ずつの小規模校である。また、学区には私立の柏原保育園が1園ある。

柏原学区学校支援地域本部では柏原小学校・柏原中学校だけでなく柏原保育園も支援対象として考え、校区の保護者と地域が一体となり、学校園を地域ぐるみで支援する「はびろの里コミュニティ（はびコミ）」として5月に発足した。「はびコミ」は柏原中学校に事務局を置き、毎月定例会として「井戸端会議」を開催。様々な学校支援活動を展開している。

■ 特徴的な活動内容

①「井戸端会議」の開催

「はびコミ」は毎月1回、柏原中学校の図書室を会場にして夜7時から「井戸端会議」を開き、柏原学区における教育のあり方や学校支援活動の展開の仕方について話し合っている。井戸端会議には4人のコーディネーター、柏原小学校、柏原中学校の職員（主に管理職）の他、市教委や地域のボランティアの方が参加。

②小中連携・児童生徒交流の促進

・柏原中学校体育大会に小学生を招待（9月）

柏原小学校の児童に柏原中学校のよいところを知ってもらう目的で5・6年生全員に出場参加を募集。応募した小学生は中学生とともに100m走や生徒会種目に出場した。「はびコミ」は小学生の招集や会場のパトロールを担当し協力した。

・柏原小学校運動会に中学生が参加（9月）

柏原小学校の運動会に陸上部の生徒が参加し、模範リレーを披露した。また、吹奏楽部が昼休憩の時間に体育館でミニコンサートを開いた。小学生全員と多くの保護者や地域の人々に演奏を聴いていただくことができた。「はびコミ」は会場のパトロールと楽器の運搬を担当した。

③ゲストティーチャーの手配

・「里山体験」

柏原中学校1年生の里山体験（6月）では、「はびコミ」のコーディネーターが「大野木グランドワーク」の人たちをゲストティーチャーとして紹介。竹きりや間伐材の伐採作業などの体験学習を行った。

・「日本文化体験講座」

柏原中学校の文化祭（10月）では、茶道や華道など7つの日本文化体験講座を開いた。各講座の講師は「はびコミ」のメンバーが手分けして柏原学区在住の人に依頼。文化祭当日も各講座に「はびコミ」のメンバーが運営担当者として支援を行った。

④環境整備

・「みざら」の新調（7月）

同窓会と共同で「はびコミ」のメンバーが老朽化した柏原中学校渡り廊下のみざらを作成し、中学校へ寄贈した。

・「かまどベンチ」の設置（10月）

「はびコミ」コーディネーターの紹介により滋賀県建設産業団体連合会の「防災かまどベンチ設置事業」に応募。生徒会のメンバーとともに柏原中学校運動場に防災かまどベンチ2基を設置した。

■ 実施に当たっての工夫

①「井戸端会議」での熟議

学校園支援活動の実施にあたっては「井戸端会議」で様々な議論を重ね、合意形成を行うことを大切にしている。

②広報「ぶうめらん」の全戸配布

「はびコミ」事務局は「井戸端会議」の実施と合わせて毎月1回、広報紙「ぶうめらん」（A4表裏刷）を発行し、「井戸端会議」で話し合った内容や学校園支援活動の様子を柏原学区全戸に発信している。

■ 事業の成果

①「井戸端会議」で熟議を重ねることにより、「柏原学区の子どもたちは柏原学区の保護者と地域が一体となって育む、柏原の学校園を柏原学区の住民がひとつのコミュニティとして支援していく」という雰囲気が高まった。

②これまで躊躇してきた児童生徒の交流活動などが「はびコミ」の後押しや具体的な支援により実施しやすくなった。

■ 事業実施上の課題

- ・学校支援ボランティアの人員を拡充していくこと
- ・学校園支援活動の内容を拡充していくこと



【日本文化体験講座（茶道）】



【防災かまどベンチづくり】

「子どもは地域の宝」～ふるさとを愛する子どもを地域で育てる学校支援地域本部事業～（河南小学校・中学校）

■ 米原市
■ 活動名
河南学区学校支援地域本部
■ 関係する学校
河南小学校・河南中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

人口が減少している米原市の中でも、特に児童・生徒数が減少している河南中学校区全体(1小学校1中学校)として事業指定を受け、従来より両校それぞれで進めている地域連携の授業の運営を見直し、地域からの講師やボランティアへの依頼を、学校ではなく学校支援地域本部に移行することで、いずれは異動していく教員よりも持続的になり、児童生徒の地域の歴史・文化・環境の学習が地域との密着度が増すことで充実し、地域住民が将来の地域を担う子どもの教育に関心を高め、地域の生涯学習としての環境として整備されることを目的に進めている。

地域コーディネーターの決定が遅くなったことや、両校にまたがる事業であるため、事業の進捗が遅れ気味であるが、小規模校の小学校・中学校が一つの本部で事業を進めているので、地域コーディネーターやボランティアが、子どもの育ちを長期間に亘って見届けられるメリットを生かし、小中一貫教育の在り方を模索することと並行して進めていきたい。



【鎌刃城跡で環境学習をする子どもたち】

■ 特徴的な活動内容

中山道の醒井宿と番場宿を含む古い宿場町であった地域を学区とするため、歴史と文化の史跡が多く、地域に残されている言い伝えや文化に係る話を市の歴史文化財保護課関係者に話していただいていたことを、河南学区を含む米原市の地域の方々に語っていただいている。

また、名水（居醒の清水）に端を発する地蔵川や霊仙山からの流れる丹生川の恩恵を受けている「梅花藻」や「ハリヨ」が生息することから、ハリヨの生態や梅花藻に関わって以前から引き続き環境教育を進めている。

さらに最近では、戦国時代に山城のあった「鎌刃城跡」に実際に登って歴史と環境を合わせて学習する機会を、地域の方の協力で行っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ①今年度は、ボランティアスタッフを充実するための活動が中心となった。河南小学校、河南中学校の学校だよりや中学校区全戸配付の啓発チラシを作成して、この事業への願いと今の活動を保護者を中心に周知する活動を行った。
- ②ふるさとを愛する子どもの育成には、学校教育に地域の方々に関わっていただくことと共に、小中学生が地域の行事に参加、参画するなど双方向の関わりが重要だと考え、積極的に児童生徒が地域に貢献できる機会を求めて活動している。

■ 事業の成果

- ①住民に本事業を広く周知する機会が11月11日(水)に、河南小学校で持てたことが上げられる。この機会は、「第2回まいばら教育フォーラム in 河南」で、昨年度から市内各中学校区で行っているものの一つで、目的は、地域に学校の教育活動を知ってもらい、「子どもを地域で育てる」意識を地域の方々にもってもらおうことである。今年度は河南小学校体育館に、昨年度開園されたかなん認定こども園の園児、一昨年度統合校となった河南小学校の児童、そして河南中学校の生徒が一堂に会して行われ、保護者や地域の方々の前で、本事業について地域コーディネーターから説明し、今後のボランティア募集の基盤とすることができた。
- ②10月24・25日に「第22回全国山城サミット in 米原」が滋賀県立米原文化産業交流会館を中心に開催され、そのオープニングに河南小中学校の児童・生徒が「竹の笛」で出陣を告げるほら貝のイメージで音を出し、開会を盛り上げることができた。その舞台の子どもたちの背景には、「鎌刃城跡」へ体験学習した様子や、山の頂上に天守閣を描いた絵に、小中学生が武将やお姫様を描き足した様子などが映し出され、山城を生かした地域の活性化を図ろうと活動される地域の方々と、児童・生徒が関わっている様子を全国に向けて発信することができ、児童・生徒たちも地域に貢献した実感を得られた。



【第22回全国山城サミットオープニング】

■ 事業実施上の課題

地域コーディネーターも学校側も、本事業のイメージがまだまだ不十分であり、コーディネーターが具体的にどんな活動をすべきで、学校としてどの部分をお願いして、どこは学校としてすべきなのかの理解が不十分なので、先進地を視察し活動の様子を聞いて研修をすることが必要だと考えている。

また、成果にも書いた「まいばら教育フォーラム in 河南」は、今後本事業の核となる活動になり得ると考えられ、地域コーディネーターと連携しながら進めて行く必要があると思うが、その役割分担についても、またフォーラムの内容についても検討することが必要だと考えている。そして、何よりボランティアスタッフの充実が必要である。

■ 竜王町における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

町内においても核家族化や価値観の多様化等、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭や地域の教育力の低下が懸念されている。

このような状況下、これからの子育てや教育は、学校（園）のみが役割と責任を負うのではなく、従来以上に学校・家庭・地域の連携を図りながら進めていくことが必要である。

そこで、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭・地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力向上を図ることとする。

さらに、一人ひとりの人生をより豊かにする公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で子どもたちを中心に生まれる仲間づくりへと発展し、これを窓口に、地域へとその対象を広げ、互いに支え合うことを通して、一層のまちづくり活動の推進へと繋げることで、公民館を拠点とした学校・家庭・地域のネットワークはもとより、元気な地域づくり人づくりをめざす。

■ 運営委員会の設置

委員会名称	竜王町学校応援団			
委員名簿	氏名	所属・役職等	氏名	所属・役職等
	武久 雅則	中学校教頭	三寄 住子	コーディネーター
	関谷 典子	小学校教頭	杼木 博子	コーディネーター
	新庄 証	西小学校教頭	尾川 源太郎	コーディネーター
	寺嶋 恭子	幼稚園教頭	岡山 厚子	コーディネーター
	富田 綾子	西幼稚園教頭	関川 雅之	公民館長
	長岡 道子	総括マネージャー	松村 知洋	係長
	草崎 明	コーディネーター	後藤 麻里奈	主事

■ 本年度の活動

- ・ 4月中旬 学校園情報交換会。
- ・ 毎月 総括マネージャー・コーディネーター会議定例会
- ・ H28 3月中旬 運営委員会開催。
- ・ 年2回（上半期、下半期）学校応援団だよりの発行。
- ・ 通年 学校応援団（ボランティア）募集。

■ 本年度の成果

コーディネーターを1名増員したことにより、今まで知りえなかった新たなボランティアさんを勧誘でき、支援内容の充実が図れた。

■ 今後の課題

ボランティアさんの高齢化、また、支援内容によっては、ボランティア登録者が多い支援と少ない支援があるため、より一層新たな人材の確保に努めたい。

学校・家庭・地域総ぐるみによる学校支援（竜王町学校支援地域本部）

■ 竜王町
■ 活動名
竜王町学校支援地域本部
■ 関係する学校
竜王幼稚園、西幼稚園、竜王小学校、西小学校・竜王中学校

コーディネーター数	5 人
ボランティア登録数 (新規)	24 人
開始年度	平成22年度

活動の概要

核家族化や価値観の多様化等、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、家庭や地域の教育力の低下が懸念される中、これからの子育てや教育は、学校（園）のみが役割と責任を負うのではなく、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭・地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力の向上を図る。

特徴的な活動内容

【託児支援】

○竜王幼稚園等では、保育参観時や学期末懇談会時、ちびっこ幼稚園時に託児支援を行った。絵本を読んだり、玩具で遊んだり、毎回工夫して託児を行っている。お母さんから「ありがとうございます。本当に助かります。」等の感謝の声が多く聞かれた。

【学習支援】

○竜王小学校『1年生・2年生の交通安全』の指導支援を行いました。小学校の周囲を安全に歩行できるように道の角々で4名のボランティアが声かけ指導をした。

○竜王西小学校で『町たんけんをしよう』の支援を行った。小学校3年生が徒歩で自分の住んでいる地域を探検し、建物や道、公園などの様子を調べる学習で、各地域の特徴を詳しく説明した。ボランティアのおかげで地域のことがよく理解できたと言葉をいただいた。

○竜王小学校で『家庭科』の支援を行った。竜王小学校では、5年生が手縫い、6年生がミシンでの授業が行われ、授業の補助支援を行った。5年生は『初めての手縫い』の授業で、玉留め、玉結び、運針やボタン付けの難しいところを支援した。ティッシュカバーや小物入れ、花の形のキーホルダー等色々なアイデアを出して一緒に作り方を考えた。6年生はミシンを使ってのトートバッグ作りをした。ミシンの調整やミシンできれいに作れるコツなども丁寧にアドバイスして、とても素敵なバッグができた。



【竜王西小学校
『町たんけんをしよう』支援】

【行事支援】

○竜王幼稚園で『流しそうめん』の支援を行った。竹の樋をそうめんが流されてくるのを、一列に並んでおいしくいただいた。とても暑い日だったので、大量のお湯を使つての用意は大変だったが、子どもたちは大喜びで大満足してくれた。

○竜王小学校・西小学校で田植え・稲刈りの支援を行った。田植え時では、一列に並び掛け声や太鼓の合図で植えていった。稲刈り時では、稲の刈り方や束ね方を熱心に教わっていた。



【竜王幼稚園『流しそうめん』支援】

■ 実施に当たっての工夫

○統括マネージャーとコーディネーターとが定期的に会議(定例会)を持つことにより、支援依頼内容を正確に伝えることができている。

○支援時には、統括マネージャーやコーディネーターが積極的に学校（園）へ出向き、先生はもちろん、支援いただいたボランティアと話し合いをしながら、今後につながる情報交換を行う。

■ 事業の成果

○児童たちからは、「とても良くわかった」等、たくさんの感謝の手紙や言葉をいただき、また、ボランティアからは、「子どもたちから元気もらった。参加してとても満足している。」等、学校園、ボランティア（地域）ともにとっても満足できる支援ができた。

■ 事業実施上の課題

○保護者ボランティアが子どもの卒園・卒業と同時に活動を終了される場合が多いため、今後継続した活動をしていただくため、何か有効な対策をとっていきたい。

■ 多賀町における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

地域の大人と子どもたちがふれあうことにより、お互いが顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるように努めていく。大人と子どもがともに活動することで、大人は自分の持っている知識や経験を子どもたちへ伝え、子どもたちは大人と接することにより、地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことを目指す。

■ 本年度の活動

多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を毎月1回開催し、地域における行事案内や地域の課題などを各自が持ち寄り協議、検討を行っている。特に子どもの体験活動に関する情報交換では、地域と学校が互いに連携できるように取り組みを進めている。



【会議の様子】

■ 本年度の成果

学校支援地域ボランティアの参加登録者数が90人と昨年と比べて増えた。また、前年度からの課題であった学生ボランティアの登録について、新たな登録があり学校行事への支援に関わってもらえた。地域のボランティアの方も子どもたちと接することにより、社会の役に立てている喜びや生きがいがいづくりにもつながっている。

■ 今後の課題

各校・園により学校支援地域本部事業の認知度に差があるためか、利用が少ない学校・園がある。年度当初に事業説明の時間をしっかりと持ち、事業の周知を徹底していくとともに、学校・園の要望を把握する必要がある。また、運営委員会である地域教育力推進協議会について、現在は情報交換を中心に行っているが、情報交換から学校等が抱える課題を見つけ出し、学校と地域のさらなる連携協力へつながるよう協議会の充実を図っていく。

■ その他

多賀町地域教育力推進協議会 開催数：年11回 委員数：26名

団体	多賀町PTA連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		JA東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		キリンビール株式会社滋賀工場
	近江猿樂多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぼぼ」	学校	多賀中学校
	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者サークル「ぶらんこ」		大滝小学校
	Dドラファミリー	行政	教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「SKO」		あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター

「みんなで支える学校」多賀町学校支援地域本部事業の取組

■ 多賀町
■ 活動名 多賀町学校支援地域本部
■ 関係する学校 多賀小学校・大滝小学校・多賀中学校 多賀幼稚園・大滝幼稚園・多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	90 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

町内の7つの小中学校・園を対象に、読み聞かせをはじめ環境整備や安全見守りなどを中心に支援している。
また、年に3回程度ボランティアの方々向けの研修会を実施している。

■ 特徴的な活動内容

小学校2校のプール授業時の監視ボランティア（監視台の上からの安全見守りや、プールの虫とりなど）を実施した。小学校2校で朝の読み聞かせを毎週行っているが、本年度お昼休み後の読書タイムにも読み聞かせを試行している。

本年度、大滝小学校では、クマ出現により全校一斉下校のため低学年児童待機時間中の見守りを実施した。子どもも保護者も不安な中、6月から9月と長期に渡ったが、数名のボランティアで曜日を決め見守りしていただいた。待機時間中は、学習支援や読み聞かせ等を中心にし、ボランティアの方と低学年児童が交流を図ることができた。

学生ボランティアの小学校運動会補助を初めて行った。教員免許取得希望の大学生等が集まり、徒競走計時や準備係、組体操補助を通して、保護者から「卒業生が来てくれていた」と喜んでいただき、子どもたちも身近な先輩と楽しく過ごすことができた。来年もやってほしいといった感想が多く寄せられた。

■ 実施に当たっての工夫

実施日までに余裕がある依頼内容の時は、電話連絡でなく登録者へ依頼文を送付のうえ幅広くお願いし、複数の学校・園・日程から選んで参加していただけるように工夫した（例、プール監視、除草など）。また、登録しているだけにならないように、未経験の方にも依頼の声掛けをするようにしている。

学生等にボランティア登録していただくために、募集チラシを見ていない学生が多いことから口コミによる募集を行った。改めて「青年・学生ボランティア募集のお知らせ」チラシを作成し、多賀町育英資金受給者・成人式式典等で配付及び町内や近隣大学等で配布のうえ募集を行うよう準備している。



【全校集団下校までの時間を見守る
学校支援ボランティア】

■ 事業の成果

学校生活の中で日常的に地域の方が関わることで、地域の力が活かされていると感じている。地域の方が学校・園に出向く機会が増え、子どもたちが覚えてくれ話しかけてくれることが増え、学校へ行きやすい環境になりつつある。

町内の学生ボランティアが町内学校・園の活動に参加したことから、口コミで輪を広げ、次年の参加予約に繋げることができた。また、学生ボランティアにとっても、将来を試すことができ、地域に戻って来られるという安心感も生まれ、「いい経験が来た」と喜んでいただけた。

	実施回数	のべ人数
図書関係(読み聞かせなど)	60	198
環境整備	13	50
校内・校外安全見守り	48	104
学習支援	2	10
その他(研修会など)	5	17

*11月末現在



【運動会徒競走計時を行う
学生ボランティア】

■ 事業実施上の課題

学校・園と地域の思いが一つになり、さらに充実した支援となるようコーディネーターの役割を果たしていくことが大切。全ての学校・園の要望を把握しきれていないところがあり、各学校・園のニーズをしっかりとつかむことが必要。定期的に学校・園とコーディネーターとの支援に関する打合せを実施していく必要がある。また、学校・園へのアンケートの実施も必要と考える。

学生ボランティアの活動場所としてもっと中学校等の学習支援などの活動でも関わっていくことが必要。